投

353
28

353-28 は

國譯密教

事相

大正
12 1 9
内交

國譯密教事相第四

目次

大傳法院流

一、國譯十八道念誦次第……塚本賢曉國譯……一
一、國譯金剛頂經蓮花部心念誦次第……同……上……一三
一、國譯息災護摩次第……同……上……四九
一、國譯神供次第……同……上……六三
一、國譯胎藏界念誦次第……同……上……六七
一、國譯小卷……同……上……八九
一、國譯傳流抄 自第一至第十……同……上……三〇五

國譯密教事相第四目次終

本卷は大傳法院流聖教を載す、略して傳流聖教といふ、本次第は大師の御作にして廣澤諸流の通用の次第なり、當次第の本尊は不動明王を以てす。

國譯傳法院流聖教

○國譯十八道念誦次第

○先づ入堂　(一)觀せよ、吾が身は是れ金剛薩埵の身なり、故に歩歩足下(二)八葉蓮華開敷せんと。

○次に(三)普禮　金剛合掌　本尊の前に對ふて端身正立して、自身の五體を地に投げて、恭敬して禮を作せ　△三度禮拜すべし、毎度眞言一遍。

○次に(四)着座　坐して後、念珠を繰け合掌中に入れて普禮の眞言を誦す、次に左手を以て念珠を脇机の上に置く。

○次に塗香　先づ左手を以て塗香器の蓋を取り器の傍に置き、大・頭・五分法身を磨瑩すと想へ。中の三指を以て香の少分を取り左右の手に塗れ

○次に淨三業　蓮華合掌して五處を印せよ、△額・右肩・左肩・心・喉　△十指面を合せマロカに作るべきなり。

達磨　娑嚩婆嚩、秫度憾　△明三反、若しは一反　想へ三業の所犯の十惡を斷除して、即ち清淨內心澡浴となる。

○次に佛部　蓮華合掌して風指を屈し、火指の中節に屈せよ　△蓮合して風を屈し火背に屬し、空風を中節に副へて押すなり、頂を印せよ。

納婆嚩耶、娑嚩賀　想へ佛部の諸尊行者を加持して速かに身業淨なることを獲得

(一)觀せよ　玉道場に進む時は胸上に數珠を上に念珠を下にして持すべし。

(二)八葉蓮華　白色と觀ず。

(三)普禮　念珠を大指と頭指の間に繰け金剛合掌して普禮の明を唱ふ。

(四)着座　着座の後供用ゐず。大で幸心方の如く三密觀なし。

せしめ、罪障消滅し福惠増長す。

○次に蓮華部八葉印△頂の右印するなり　唵、跋娜謨、納婆嚩耶、娑嚩賀　想へ觀自在菩薩、及び蓮華部の聖衆、行者を加持して速かに語業の清淨を獲得せしむ、言音威肅にして人をして聞くことを樂はしむ、無礙辯才にして說法自在なり。

○次に金剛部左覆せ右仰け背け大指を相ひ合せ、小指を結合し、中間の三指は三鈷杵の形の如くせよ。△頂の左を印するなり。　唵、嚩曰魯、納婆嚩耶、娑嚩賀　想へ金剛藏菩薩、並に金剛部の聖衆、行者を加持して意業清淨なることを獲得せしめて菩提心を證し、三昧現前して速かに解脫を得。

○次に被甲三鈷印　△地・水・内縛して二火立て合せ、二風火背にソエテ相著けす、二空並べて二水を押し五處を印するなり。　唵嚩曰羅、儗你、鉢羅捻、跋跢野、娑嚩賀　想へ如來の大慈大悲の甲冑を被ることを得て、一切の天魔及び諸の障者、悉く行者の威光赫奕なること、猶し日輪の如くなるを見て、各の慈心を趣て障礙すること能はず、及以び惡人も能く便を得るなし、煩惱の業障身に染着せず、亦た諸の惡趣の苦を脫れ、疾く無上正等菩提を證す。

○次に加持香水右手を以て三鈷印を作り軍荼利の小呪を誦して加持すること二十一遍、又(一)散杖を取て之を誦し、(二)各の二十一遍加持せよ。　△左手を以て塗香器の蓋に覆せ、念珠を取て右手に移せよ、次に洒水器の蓋を開いて器の傍に置き、又た念珠を左手に移して後右手をもて印を作り加持せよ。　唵、阿密利帝、吽發吒　想へ香水變じて乳水と成ると。又た觀せよ水は本性清淨なり、諸法も亦た本性清淨なり、即ち水を自身及び壇場、供物の内外等に灑げ、灑ぎ畢て灑水器の蓋を覆せよ。　△灑水三遍、壇供には丑寅の角より始め順に之を灑げ。

○次に加持供物(一)三鈷印△明三遍、加持三遍　唵、播娜迦哩灑喩嚩曰羅吽。　即ち加持に依て清淨の妙供を成ず。

○次に(二)表白●神分先づ金二打　○(三)次に(四)一切恭敬して、常住の三寶を敬禮し上つる。

○次に淨三業眞言(六)先の如し　○普禮眞言先の如し　○次に(七)五悔(未)金剛合掌　○十方一切の佛と　最勝の妙法と菩提衆とを歸命し上る　身口意清淨の業を以て慇懃に合掌し恭敬して禮し上る　大悲毗盧舍那佛を歸命し頂禮し上る　無始より諸有の中に輪廻して　身口意業より生せる所の罪を　佛菩薩の懺悔し玉ふ所の如く　我れ今陳懺することも是の如し　大悲毗盧舍那佛を歸命し頂禮し上る　我れ今深く歡喜の心を發して　一切の福智聚を隨喜す、　諸佛と菩薩との行願の中の　金剛の三業より生じ給ふ所の福と　緣覺と聲聞と及び有情との　集むる所の善根とを盡く隨喜す　大悲毗盧舍那佛を歸命し頂禮し上る　一切の世燈の道場に坐して　覺眼開敷の三有を照し玉ふをば　我れ今跏跪して先

(一)散杖云云散杖は食指を伸べて攝り音を爲すして洒水器に入れ手頭丈を廻し音を遍し音順に廻し音字共に白色に觀ず、音の中間に於ても音を發せず、次に加持して直に洒水器の蓋を開く。(二)各の云云初二十一遍は順、今は逆順を意味す。

(一)三股印　左は金剛拳。(二)表白　表白は開白の時許りこれを用ゆ。香爐と念珠を持す。(三)次に云云　念珠を空指と風指との間にかけ三力の終り迄は金剛合掌す。(四)一切云云　此の句は音讀するも のなるも今は訓讀にせり。(五)先の云云　或は金剛合掌す。(六)五悔　此の下の句は修法には音讀するも今は之を訓讀せり。

(一) 發願念珠にして左手に持ち金剛合掌し一打。次に金剛合掌して發願・五大願・普供・三力・等を唱ふ、勸請には念珠香爐を取り金を打たず、五大願の菩提無上誓願證の句に至て香爐を置き則ち金剛合掌して自他法界同利益の句を唱ふ。

ず　無上妙法輪を轉じ玉へと勸請し上る　有らゆる如來三界の主の　般無餘涅槃に臨み玉ふ者をば　我れ皆勸請して久しく住せしめ上る　悲願を捨てずして世間を救ひ玉へ　大悲毗盧舍那佛を歸命し頂禮し上る

懺悔し隨喜し勸請し上る福をもつて　願くは我れ菩提心を失せず　諸佛と菩薩との妙衆の中にあて　常に善友の爲めに厭捨せられず　八難を離れて無難に生じ

宿命住智あて身を莊嚴し　愚迷を遠離して悲智を具し　悉く能く波羅蜜を滿足し　富樂豐饒にして勝族に生じ　眷屬廣多にして恒に熾盛ならん　四無礙辯と十自在と　六通と諸禪とを悉く圓滿せん　金剛輪と及び普賢との如く　願讃し廻向することも亦た是の如し　大悲毗盧舍那佛を歸命し頂禮し上る。

○次に發菩提心眞言　△金剛合掌　唵、冐地質多、毋怛波娜野旃

○次に三昧耶眞言　△金剛合掌　唵、三昧耶、薩怛鑁

○次に(一)發願　一打　至心發願　眞言敎主　大日如來　兩部界會　諸尊聖衆

護法天等　所設妙供　哀愍攝受　護持弟子　無始以來　三業所犯　一切罪障　皆悉消除　天下法界　平等利益

(二) 金剛合掌之を頂戴に作る傳あり。

(三) 數珠云云　加持香水已下是迄念珠手に在り。

(四) 三部云云　註に云く仰に云く此の三部被甲は必ず之を作すべし、行ぜざるは非戰なり。

(五) 地界云云　幸心方の同印になす正傳とす。

○次に五大願　衆生無邊誓願度　福智無邊誓願集　法門無邊誓願覺　如來無邊誓願事　菩提無上誓願證　自他法界同利益

○次に普供養眞言　△(一)金剛合掌　阿謨誐、布惹磨抳、跋納磨、嚩曰粭、怛他蘗多、尾路枳帝、三滿多、鉢羅薩羅吽

○次に三力偈　誦し畢て金一打す、△(二)數珠を置け　以我功德力　如來加持力　及以法界力　普供養而住

○次に(三)三部、被甲、護身　先の如し

○次に(四)地界金剛嶽　二地端各の相ひ註へ、次に左の水火を以て右の水火上を押し、次に鳳空の二指、端俱に相ひ註へて前に向へ、三度地に觸れよ。　△或は丑寅の角より始めて三反、隨心大小結界せよ。　唵、枳里枳里、嚩曰羅、嚩曰里、步羅、滿馱滿馱、吽發吒

想へ下も金剛輪際に至るまで金剛不壞の界となる、大力の諸魔搖動すること能はず、少しき功力を施すに大いに成就を獲、地中所有の諸の穢惡物、加持力に由るが故に悉く皆な清淨なり、其の界、心の大小に隨て即ち成ず。

○次に金剛墻　形ち先印の如し、但し二大指を張り開いて前に向へ三度之を繞らせ。　△丑寅の角より始めて增をすと想ふなり。　唵、薩羅薩羅、嚩曰羅、鉢羅迦羅、吽發吒　想へ印より熾焰を流出すと。印を以て右に身を旋繞して三轉せ

(一)右拳云云、左拳云云、左拳印なり、右拳は常の如し、右拳は中指の本を以て大指の端之を握る。水地を以て次第に之を握り中を以て明かさず、頭指の少し嶋急に引かずして大の甲の下の方に付て胸に當て之を觀す。傍註に、或は乳白或は黄といふ。

(二)袈　傍に赤色といふ。

(三)奇　傍に白色といふ。

(五)大虚空藏印は二中は蓮花、二頭は水二大は幢、二頭は寶珠なり、幢の上に蓮花あり上に如意寶珠ありて萬寶を雨らす。

(一)左に轉云云、右に轉ずは逆、右に轉ずは順なり。委しくは五輪九字秘釋に隨順隨轉、相逆相違の二門あり見るべし。

(二)金剛火院十八道沙汰に曰く、火院は人の僻車する印なり、普道の上は誤り、大指を開き立て、端を開き立て、三角形にせよとあり。

よ、前の地界に稱へ即ち金剛堅固の城となる、諸魔惡人虎狼獅子及び諸の毒蟲、附き近づくこと能はず。

○次に道場觀(一)右拳を以て左拳の大指を握れ。　心の前に(二)𑖀字あり、變じて七寶の宮殿樓閣となる、諸の瓔珞●綢綵●幡蓋を垂れたり、寶柱行列せり、壇中に(三)𑖭字あり、變じて八葉の蓮華となる、華臺に(四)𑖭字あり、變じて法界牽都婆となる、牽都婆變じて大日如來となる、寶冠瓔珞あつて相好圓滿せり、曼荼羅の聖衆前後に圍繞せり、香雲を周匝し普ねく雜華を雨らして諸の音樂を奏す、寶瓶●閼伽●飲食あり、摩尼を燈とせり。此の觀を作し畢て七處を加持す　謂く左の膝、壇右の膝、心●額●喉●頂なり。　咤歩欠

○次に(五)大虚空藏二手合掌して二中指外に相ひ叉へ、二頭指相ひ壁めて寶形にせよ。　咤、誐誐曩、三婆嚩、嚩曰囉斛　想へ印より無量の諸の供養の具、衣服●飲食●宮殿樓閣等を流出すと。

○次に寶車輅二手仰げて相ひ叉へ、二頭指の側相ひ拄へ、二大指は二頭指の下を捻せよ。　咤、都嚕都嚕吽。　想へ七寶莊嚴の車輅と成て、無量の聖衆を請したてまつるに、此の車輅に乘じたまふと。

○次に請車輅　前の印、大指來去せよ。　曩莫悉底哩耶地尾迦南、怛他蘖路南、咤嚩曰啣儗孃、迦囉灑耶、娑縛賀　想へ車輅道場に來至して虛空の中に住すと。

○次に迎請本尊。　内縛して二大指を開いて之を鉤せよ　咤、爾曩爾迦、噎醯嚩、娑嚩賀　本尊悲願を捨てたまはずして、此の三摩地所成の淨土に赴き、並に無量俱胝の聖衆、功德を證明したまふ。

○次に降三世辟除　兩拳を背け合せ二地を相ひ懸け、二風を開き立てよ。　咤、蘇婆徐蘇婆吽、蘖哩訶拏、蘖哩訶拏、吽蘖哩訶拏、婆耶吽、阿曩野斛、婆誐㗜、嚩曰羅、吽發吒。

(一)左に轉ずること三匝せよ、一切の諸魔を辟除す、右に轉ずること三匝せよ、即ち堅固の大界となる。

○次に金剛網　先の墻印の如し、二母指を以て二風の傍に屬せよ。　咤、尾娑普囉、捺囉乞灑、嚩曰羅、半惹囉、吽發吒　此の加持力に由るが故に、上方に於て覆ふに金剛堅固の網を以てす、乃至他化自在の諸天の、障難すること能はず、行者の身心安樂にして三昧地成就することを得易し。

○次に(二)金剛火院　左手を以て右の背に覆せ相ひ著けしめ二大指を開き立てよ。　△二大面を合せ三角少しさしちがへて手を重ぬ御傳　咤、阿三莽儗寧、吽發吒。　印より無量の光焰を流出す、右に旋すること三匝せよ、即ち金剛墻の外に便ち火焰有て圍繞せり、即ち堅固清淨大界火院となる。

(一)閼伽は二母二頭の器を以て其の器を取り閼伽の印を結んで其印は二母二頭の端を捻し、二手指し合せて寶印に作れ、鉢の印の勢にせよ、二頭指曲げず、ソラサズ、直くせよ云云

(二)盤に入る一遍なり、幸心方は三遍。

(三)華座　指を少しも屈せず　幸心方は少し屈す。

(四)四攝　之を用ゐず。

(五)振鈴　沙次に曰く、先づ呪、次に遊、次に五處、次に常の如く順逆等、加持各皆誦す、鈴の中股の頭に頭指の端を當てざれば、三味の罪を得、故に四點の中より中點に頭指を直く添へて五三さ振れば左右に八道なれば左右に二度鳴すを一度と

○次に(一)閼伽を獻ず　二手を以て閼伽器を捧げて額に當て奉獻す、明を誦すること三遍　△阿伽、右に器を取て香烟を薫じ、左手空風捻して其の上に置いて、右三古印に作り軍茶利の小呪を誦して加持せよ、三遍、而る後に右手に空風捻して二手を捧げ眞言三遍、偶一遍を誦す、次に水を(二)盤に入る、次に水を捧げ獻ずるなり。　唵、麽折路娜誐吽。

聖衆の雙足を浴すと想へ。伽佗に曰く

以本清淨水　洗浴無垢身　不捨本誓故　證誠我承事

閼伽香水を獻ずるに由て、修行者の三業清淨ならしめ、一切の煩惱の罪垢を洗除す。

○次に(三)華座八葉印　唵、迦摩羅、娑婆賀。　印より無量の金剛蓮華を流出す、一切の聖衆金剛蓮華座を得たまふ。

○次に(四)四攝降三世の印の如し、鉤は進力を風して招し、索は進力を蛮の如くし、鏁は腕を開いて相ひ鉤し、鈴は腕を合せて振ふ。　惹吽鑁斛

○次に(五)振鈴△振鈴は右手を以て五古並に鈴を取り、鈴をば左に移し、腰に當て右に五古を持しまを誦する三遍、順に三遍加持し虛空三遍、次に五所を加持し各の慈救呪一遍し て後、胸の前に之を置け、次に振鈴五（五藏般若を開くなり）三（三部の諸尊顯得するなり）二（理智の德顯る）或は七五三次の如く左耳・額・心に當て、振るなり、眞言五三二遍誦すべきなり、御傳は耳五、心三、額二振る間に眞言三遍若くは一遍之を誦すべし、次に五古を以て五處を加持して、右に鈴杵を取て本所に置くなり。始め杵を取る時さすが播尼吽を誦すべきなり。　唵、嚩曰羅、健吒都使也解

○次に獻壇供先づ塗香、次に花、次に燒香、次に燈明、行者の右方なり。△塗香・花・燒香・三古の印を以て軍茶利の明を誦して之を加持し、捧ぐる時普供養眞言なり、燒香を薫ずるは阿伽の如し、飯食は右掌風空捻して寶形の如くするなり、燈明は右手拳にして火指を申べ立て、大を以て火の中節を押し、風を火背に付け少しき付けず、二印は普供養の明を用ひよ。

云ふなり云云此は日五度、耳三度、額二度振るべし、さて後前の如し五處を印すと云へり、尤も振鈴五三二の後片下して振り切り一つ鳴らすなり。

○次に四智讃△金剛合掌或は三反　唵、嚩曰羅、薩埵嚩、僧莫囉訶、縛曰羅囉怛曩、麽努哆覽、嚩曰羅達麽、誐也奈、嚩曰羅羯磨、迦路婆嚩。　毎日三時に常に此の讃を誦して佛の功德を讃せよ、本尊界會を驚覺するに、悲願を捨て給はずして、無量の光明を以て行者を照觸して、業障重罪悉く皆な消滅して、身心安樂なり。

○次に普供養金剛合掌して二頭指寶形の如くし、二大指を並べ竪てよ。　唵、阿謨伽、布惹麽抳、跋納麽、縛曰粭、怛他蘖多、尾路枳帝、三滿多、鉢羅薩囉吽　纔かに三遍を誦すれば、則ち一切如來集會し、及び無邊の微塵刹土となる、中に無量廣大の供養を雨らしむるに、無量の福壽を獲得すること猶し虛空の如くして、邊際あることなし、世世に常に一切如來大集會の中に生じ、蓮華より化生して五神通を得。

○次に三力祈願△金剛合掌　以我功德力　如來加持力　及以法界力　普供養摩訶毗盧舍那　雨部界會　諸尊聖衆　護法天等　所設妙供　哀愍納受　護持弟子　滅罪生善　無邊善願　決定圓滿　決定成就。

○次に禮佛金剛合掌　南無摩訶毗盧舍那佛　南無阿閦佛　南無寶生佛　南無無量壽佛　南無不空成就佛　南無四波羅蜜菩薩　南無十六大菩薩　南無八供養

(一)本尊加持云云　沙汰に曰く本尊加持金剛拳にして等引して兩分し、右羽金剛拳にして以て力端を握れ△四處を加持せよ。

(二)加持念珠　沙汰に曰く本尊加持の處に智拳印を結ぶ。左の拳は中指を以て大指の端を握れ（右の拳亦爾り）云云。

(三)祈願　五大願　沙汰に曰く右の手を以て母珠を取りて左の頭指已下四指に懸け此を振ゲ鈴の如く左右に各一度づゝ二度を一度佛部なれば頭大二指を以てせよ、念誦は二指を以てせよ、念誦了らば箱に入れよ、珠を掌の中に置け、二の眞言を誦し其の後祈願の末に五大願を誦す。云云

(四)左手云云　之れ既法の印なり。散念誦の數を數ふ。隨意

菩薩　南無四攝智菩薩　南無金剛界一切諸佛菩薩　南無大悲胎藏界一切諸佛菩薩

○次に(一)本尊加持金剛拳にして等引して兩分し、右羽金剛拳にして以て力端を握れ△四處を加持せよ。　唵、嚩日羅、駄都覫

○次に(二)加持念珠數珠を取つて右掌に入れ、燒香に薰ずること三度、即ち左右の掌に三度移し替へ、右掌に入れ、左手上に重れて前に當て眞言を誦せよ。　△右手を以て數珠を取り、左手の四指に接きて右手掌に入れても誦し三度旋らして燒香に薰じ、左右の掌に三度移し替へて合掌內に入れ、額に當て二の眞言を誦す、次に五大願、隨心に祈願して速成大日遍照尊といふ句を加ふべきなり、御傳に、十八道には手を重れて上に數珠を置てもソワカ、掌中に入れて吠嚕舎那の眞言を誦す、次に珠を三度旋轉すべし、旋轉の明を三遍せよ。　唵、寬薩婆賀

○次に淨珠明　唵、毗盧遮那、麽羅薩婆賀

○次に三度頂戴し額に當てゝ(三)祈願す。　○次に旋轉明珠三度旋轉せよ。　唵、嚩日羅、虞咄耶、惹波三昧曳吽

○次に正念誦(四)左手に珠を取り右手に二三珠を停めて念誦せよ。　唵、嚩日羅、駄都覫

○次に祈願　念誦の分限擧て、珠を以て掌內に入れ、額に當てゝ發願せよ。　修習念誦法　以此勝福田　一切諸有情

速成大日尊

○次に本尊加持　先の如し　○次に(五)散念誦　佛界・大日・藥師・不動・降三世・延命・一字。　○次に後供養　先の如し

一一取て供養せよ、但し行者の左方　○次に讃　先の如し　○次に普供養　先の如し　○次に三力　先の如し　○次に禮佛　先の如し　○次に廻向打金(朱)一打　余珠を取る、或は取らず。　所修功德　廻向三寶願界　廻向一切神等　廻向貴賤靈等　廻向聖朝安穩　廻向自他法界平等利益　廻施法界　廻向大菩提

○次に廻向方便　至心廻向　懺悔隨喜隨喜す云云　○次に(一)解界　地界　金剛墻　降三世　金剛網　火院左に之を轉せよ、但し常に念誦の所、地界を解かず。　○次に(二)撥遣　獨貼印、花を挿んで投げよ。　唵、嚩日羅、目及穆　次に三部、被甲、護身　先の如く打金す(朱)一打　○次に出堂

寬永十六寅則日、仁和寺心蓮院の本書を以て之を寫し畢る。

小池坊　權僧正秀算

天和三癸亥年五月十六日、仁和寺眞乘院に於て傳授交合了ぬ。

權僧正尊如

(一)解界　沙汰に曰く解界は皆左に轉ぜよ云云。幸心方は火院より始むるも當流は次第の如し、地界は結願の時のみ之を解くなり。

(二)撥遣　後供養即ち左方の花を取りて虛空に投ぐると思ふて塗香の向ふに落す、幸心方は手にて置く。

國譯十八道念誦次第　終

國譯金剛頂經蓮華部心念誦次第

(一) 小僧作

(二)房舍に於て作法し了て(三)堂に至らんの間、金剛薩埵なりと思へ、頂に寶冠を戴き五貼の印を用ひよ、(四)即ち右手に五貼を執り、左に鈴を提て腰に當てよ、足に八葉を踏め、趣いて道場に向へよ、堂門に至らん時、(五)無能勝定に入れ、右手を開いて左手に加へよ、即ち三度彈指して堂門を開け、短吽を誦して不祥を辟けよ、十方吾身結界せよ、座の下に至らん時、未だ託かずして即ち跏跪し合掌して曰く。　唵、薩縛怛他蘖多播那滿那曩迦嚕弭。　兩部の諸尊を專念して禮拜せよ。

○先づ(六)着座常の如し　○次に(七)塗香を用ひて手臂に塗れ　○次に(八)三金觀　蓮華合掌三密觀

想へ月輪掌中●舌上●心內にあり、各の月輪の上に八葉あり、八葉の上に吽字あり、吽字とは五貼なり、即ち其の身口意の煩惱不淨を斷淨して、三部の諸尊に向ふと念ふて三遍を誦せよ一遍但し

○次に淨三業眞言に曰く　印は蓮花合掌　唵娑縛婆縛秫馱薩縛達摩娑縛婆縛秫度憾　稽首無

本次第の題號を沙次に記して曰く、金剛とは或は云く佛、或は曰く智と、金剛智、此の義實の內に佛金兩部之を收む、次に蓮花部とは言の如く三部の心念誦と云ふこと なり、儀軌の歸命禮普賢金剛蓮花主の文を思ひ合せよ。云云

(一)小僧、寬平法皇の御作、自ら謙して小僧と安かる、胎藏の頌次第亦同作なり。

(二)房舍云云、房中の作法なり、五殿印を結ぶ。

(三)堂に至云云、行步の作法なり。沙次に曰く金堂の間は啊字胸に置く云云。

(四)即ち右の手云云　(五)觀心なり。無能勝定云云　(六)如くなれども初心者は之を略し丈の後戶を開て彈指なり。入る　(七)着座、十八道の如し。

(今)塗香　沙汰に曰く五指を五體とす、此の五體は無明の塵垢に穢れたる大の戒香等を以て之を摩塗すと。

(ム)三金　觀中等の沙汰に曰く、掌を觀ずる故に三業吟字を觀ずと。此は三金といふ、三業を淨むるなりと、三業を即ち三密の金剛の秘觀なり。

(一)蓮花部云云　沙汰に曰く蓮花部の處には開敷蓮花部の印と。此の次第の火の・風の三指大・一に開かざるなり、寸計加持を開く。

(二)香水　沙汰に曰く、香水の用師の作す、故に水の空は水の空之を捻す、中のマロナの形なる水輪の字なり、未開敷の三指大・一に開かざるなり、寸計加持を開く。

(三)加持供物　明三反横に三度加持すれば順逆となる、加持了りて珠を脇札に置くなり、已達は所持の獨鈷を以て加持す。

(四)曬字觀　地水火の三指を以て空を握り二風の端を合す、火輪の印なり。

(一)淨身　以下五箇の印明も護身法なり、但し先の護身法は自身淨、此の下よりは他身淨の意なり、淨の意なりと云ふ。而して三部の明は各〻三反、淨三業、被甲は各五反なり。

(二)被甲云云　右の大指を以て掌内に横へ四指を以て之を握り身の五處を加持せよ、左手同印に作て腰に當てよ。

(三)進力云云　進力の端を三度擧ぐ

一反順に加持して字水上にあり諸の甘露を灑ぐと觀す。

上法醫王　業救能慈悲主　我命歸命恭敬請　唯願遠來降道場　一四

○次に佛部三昧耶眞言に曰く　合掌して二風を開いて二火の上の節に附けよ、空を以て風の下の文を捻せよ。

縛耶娑婆賀　唵、怛他誐都納婆

○次に(一)蓮花部三昧耶眞言に曰く　虛心合して大小指を達せて未開敷を作れ　唵、跋娜謨納婆縛耶、娑縛賀

○次に金剛部三昧耶眞言に曰く　二手左は覆せ右は仰けて背け相着け合せよ、右の大指を以て左の小指に叉へよ、左又た同じ、中間の六指手腕に縛き着け三鈷杵の如くせよ

唵嚩曰嚧納婆縛耶、娑縛賀

○次に被甲護身印　兩地水各の內縛して火相ひ立てよ、風屈して三鈷の如くせよ、空並べ立て、水を押せ。　唵、嚩曰羅儗你鉢羅捻跋跢野娑縛賀

○次に(二)加持香水　右の手を以て三鈷の印を作つて加持せよ。　軍荼利小心明に曰く　唵阿蜜哩帝吽發吒。

次に散杖を取て法界心の嚩を以て加持せよ。又た水輪の鑁を用ひよ、印は右の手の空をもて水の甲を捻せよ。又た枳哩枳哩の呪を用ひよ。

○次に(三)加持供物　右手大頭名小を以て四方に立てよ、中指を用て中央に立てよ　降三世忿怒眞言　逆順加持各の三遍　唵、蘇婆你、蘇婆吽、藥哩阿拏、藥哩阿拏、吽藥哩阿拏波耶吽、阿曩野斛婆誐梵、縛曰羅吽泮吒

○次に(四)嚩字觀　法界三昧耶契に住せよ、其の印は左右拳にして仰けて風指を申べ合せよ、　唵嚩、娑嚩賀

○次に淨地　普印(朱)金剛合掌　囉儒婆誐哆、薩嚩達莫

○次に(一)淨身　芙蓉合掌　(朱)蓮花合掌　唵、娑嚩婆嚩秣馱薩嚩達磨

○次に佛部心印に曰く　內縛して羂智を立てよ　唵尒曩尒迦娑嚩賀

○次に蓮華部心印　內縛して右の空立てよ　唵阿盧力迦、娑縛賀

○次に金剛部心印　先の如くし左の空を立てよ　唵、嚩曰囉、地力迦、娑嚩賀

○次に(二)被甲印明　右の空を以て地の木を捻し四度を以て即ち縛せよ。(朱)傳に右手を拳に作て五處を加持し左拳腰に安せよ。　唵步入嚩攞吽

○次に觀佛明　普印を心上に安せよ　唵、欠嚩曰羅駄都

○次に驚覺印　二手拳に作り小指鉤し結び　唵嚩曰羅底瑟姹吽

○次に(三)進力を立て合せよ

○次に四禮　四乍ら金剛合掌なり　阿閦佛を禮し奉る　(四)全身地に委せよ、捨身の印と號す。　唵、薩嚩怛他誐多布儒波、薩他曩野怛麼喃、你哩耶多夜弭、薩嚩怛他誐多嚩曰羅、薩怛嚩地瑟姹、娑嚩賀吽

寶生尊　長跪して心に當て、額を以て禮せよ　唵、薩嚩怛他誐多布惹毘囉迦耶怛麼南、你哩耶多、耶弭薩嚩怛他誐多嚩曰羅羅怛曩毘訖者賀怛洛

無量壽　頂を置き、口を以て禮を作せ　唵、薩嚩怛他誐多布惹鉢羅嚩哩多曩耶、怛麼南、你哩耶多、夜弭薩嚩怛他誐多嚩曰羅達麼、鉢羅嚩哩多耶賀、訖唎

なり。(四)全身云云　一身を地に投げて禮すといふこと。(二)金剛持遍禮印　金剛部三昧耶の印にて唵薩嚩云云次に垂帶時に迦也弭、紇朮多と唱ひ、次に舞儀の時に縛曰羅嚩娜喃云云と唱ふ、次に金合して頂に安き唵嚩日羅吽と唱ふ、明一反なり。(三)普賢行願　次第は此の如くなるも五悔の前に表白神分を行ずるなり。(四)五悔　十八道念誦次第には國譯せり。

不空成就　心に當て頂を以て禮せ　唵、薩嚩怛他誐多布惹羯麼拓、阿怛麼南、伊哩夜多、夜弭、薩嚩怛

他誐多嚩曰羅羯麼、矩嚕、鑠嚩

○次に(二)金剛持遍禮印　左の大小指、右の大小指背け相ひ結べ　唵薩嚩怛他誐多、迦也弭嚩紇朮多、嚩曰羅嚩娜喃、迦嚕弭唵嚩曰羅勿(朱)傳、金剛部の印を結べ、即ち左右の頭指を舒べて後頭に垂帶の如くし、心より、旋舞して後、金剛合掌せよ云云

○次に(三)普賢行願　五悔なり　表白、神分、一切恭敬敬禮常住三寶

○次に淨三業眞言　唵、娑嚩婆嚩秫駄薩嚩達麼娑嚩婆嚩秫度憾

○次に普禮眞言　唵、薩嚩怛他蘖多、憺那滿娜曩迦嚕弭

○次に(四)五悔。　歸命十方一切佛　寂勝妙法菩提衆　以身口意淸淨業　慇懃合掌恭敬禮。　歸命頂禮大悲毘盧遮那佛。

無始輪廻諸有中　身口意業所生罪　如佛菩薩所懺悔　我今陳懺亦如是。　歸命頂禮大悲毘盧遮那佛。

我今深發歡喜心　隨喜一切福智衆　諸佛菩薩行願中　金剛三業所生福

緣覺聲聞及有情　所集善根盡隨喜。　歸命頂禮大悲毘盧遮那佛。

一切世燈坐道場　覺眼開敷照三有　我今跪跪先勸請　轉於無上妙法輪

(一)勸請　初心者は內外を兼ねる故に日中初夜は勸請、後夜は發願なり、或は三時共に發願の傳もあり。　至心發願に就て云く、眞言敎主大日如來、兩部界會諸尊聖衆、護法天等、所設妙供、哀愍攝受、護持弟子、無始以來、三業所犯、一切罪障、皆悉消除、天下法界平等利益と。　勸請發願共に香爐を持つ。(二)五大願　香爐を置き念珠を掛く。

所有如來三界主　臨般無餘涅槃者　我皆勸請令久住　不捨悲願救世間。　歸命頂禮大悲毘盧遮那佛

懺悔隨喜勸請福　願我不失菩提心　諸佛菩薩妙衆中　常爲善友不厭者

離於八難生無難　宿命住智莊嚴身　遠離愚迷具悲智　悉能滿足波羅蜜

富樂豊饒生勝族　眷屬廣多恒熾盛　四無礙辯十自在　六通諸禪悉圓滿

如金剛憧及普賢　願讚廻向亦如是。　歸命頂禮大悲毘盧遮那佛

○次に發菩提心眞言　唵冒地質多、母怛波娜野弭

○次に三昧耶眞言　唵三昧耶薩怛鑁

○次に(一)勸請　或は發願　歸命摩訶毘盧遮那佛　四方四智四波羅蜜　十六八供四攝智

敎令輪者降三世　兩部界會諸如來　外金剛部威德天　不越本誓三昧耶　降

臨壇場受妙法　護持弟子除不祥　滅罪生善成大願　天下法界同利益

○次に(二)五大願　衆生無邊誓願度　福智無邊誓願集　法門無邊誓願覺　如來

無邊誓願事　菩提無上誓願證　自他法界同利益

○次に普供養眞言　金剛合掌　唵阿謨伽、布惹、摩尼、跋納麼嚩曰斡、怛他蘖多、尾路枳帝

(一)四無量觀　此の觀より以後は正宗分なり、此の觀は四佛の觀とし、初心已達共に丁寧には明三反、六道以下の文は觀文なり。

(二)勝心　大日なり。

三滿多鉢羅薩羅吽

○次に三力偈　以我功德力　如來加持力　及以法界力　普供養而住

○次に(一)四無量觀　彌陀定印　唵、摩訶昧怛羅夜、娑頗羅

結跏趺坐して正念して動せざれ、目を閉ぢ寂靜にして慈無量心定に入れ、六道四生はみな如來藏を具す、我が修する三密の功德力を以ての故に、普賢薩埵に等同なり。

○次に悲無量心三摩地智に入れ印は先の如し　唵、摩賀、薩嚕拏夜、娑頗羅

義は先の如し、生死の苦海に沈溺して自心を悟らず、妄りに分別を生ず、因て我が修する三密の加持力を以ての故に、虛空藏菩薩に等同なり。

○次に喜無量心智に入れ印は先の如し　唵、秣駄鉢羅謨娜、娑頗羅

本より清淨なること由ほし蓮花の如し、觀自在菩薩に等同なり。

○次に捨三摩地智に入れ印は先の如し　唵、摩護閉乞灑、娑頗羅

我我所を離れ、蘊界所を離れ、能取所取を離れ、性相空なるが故に虛空庫菩薩に等同なり、人天の種種の魔業鄣難を滅除して、頓に無量の福聚を集めて、調柔堪任なり。

○次に(二)勝心眞言印は金剛合掌　唵、薩嚩怛他誐多、商悉哆、薩嚩薩怛嚩南、薩縛悉駄藥三波你

(一)大金剛輪云云　八輻輪中の一輪なり、口傳に曰く開大指は水を押す。

(二)地界　十八道の如し。

(三)金剛墻　大指を少し着けるなり。

(四)金剛眼　金剛拳なり、少し頭を左に傾け、而して眼を右より左に見て、即ち右に辶の字を見るなり。

(五)金剛縛　外縛を三度胸に當て引き開くなり、惡障を率きて正に佛德を開くなり。

(六)入智　外縛して二大指を並べ低けて立て二風を開き立て明三返唱へて二風を三度招ぐ之

演牧、怛他誐多失者地、底瑟姹牧

○次に(一)大金剛輪印眞言に曰く　內縛して並べ立て風、火を以て纏へ　曩莫悉底哩耶、地尾迦南、怛他誐多南、闇尾羅尒尾羅尒、摩訶斫羯羅嚩曰哩、娑跢娑跢娑羅帝、娑囉帝、怛囉以、怛羅以、尾駄庶尒、三昧惹尒、怛囉庶底悉駄儗哩耶、怛羅、娑嚩賀

○次に(二)地界槪印　右の中指を以て左の頭・中指の間に入れ右の名指を左の名・小指の間に入れ云云是の如し　(朱)傳、左の中・無名指を以て右の中・無名指の背を押し二小指二大各の端相ひ註へ覆せ三度地に觸れ。

○次に(三)金剛墻印は前なりさ雖、地界摞り立て大指三度順に之を廻せ。(朱)傳、前に向へ三度之を繞せ云云　唵、薩囉薩囉嚩曰羅鉢囉迦囉吽發吒

○次に(四)金剛眼　二手拳にして腰側に安せよ　唵、嚩曰羅、涅哩瑟致庶吒

○次に金剛合掌印　唵、嚩曰藍惹哩

○次に金剛縛印　外縛　唵、嚩曰羅滿駄

○次に開心　(五)金剛縛して樞を擊ぎ開け。　(朱)傳、三度解縛す云云　唵、嚩曰囉滿駄怛羅吒

○次に(六)入智印　金剛外縛して大指を掌に入れよ　唵、嚩曰羅吠設嚩

○次に(七)合智　金剛縛して兩空二風を立て、心門を封閉せよ。心門に付くさは運心。　唵、嚩曰囉、毋瑟置鑁

れ嚩字を掌内に召し入るゝなり。(ち)合智　前の入智の印の儀なり、故に開空に二風を立つるなり。(ぬ)極喜云云　忍願は大悲の箭なり。

○次に普賢三摩耶印　金剛縛して忍・願・針の如くせよ。　唵三摩耶薩怛鑁

○次に(ぬ)極喜三昧耶　金剛外縛して地・空・合せ立て、忍・願・掌に入れて面相ひ合せよ。　三昧耶斛、蘇羅多薩怛鑁

○次に降三世　二羽忿怒拳にして兩地背け句結せよ。　(朱)傳、二手拳に作り背を合せ、二小指鈎し結び二頭指開き立て左右三轉せよ云云　唵蘇婆你蘇婆吽、蘖哩訶拏蘖哩訶拏吽蘖哩訶拏、波耶吽、阿曩也斛、婆誐蒭嚩曰羅、吽發吒

○次に蓮華三昧耶　金剛縛して檀・惠・禪・智・立て、此の印を以て口に置け勝上たることを得　唵嚩曰囉鉢娜麽三摩耶薩怛鑁

○次に結法輪印　印は前の如し、小指を交へ立てよ。　吽、吒枳、薩怖吒耶麽訶尾羅誐、嚩曰囉嚩曰囉、駄羅薩帝、曳曩㘑

○次に(ぬ)大欲印　外縛して禪を智の虎口に入る　(朱)傳、右の大指を以て左の大指・頭指の間に入れ三度出入せよ云云　唵、蘇囉多嚩曰嚕弱吽鑁斛三昧耶薩怛鑁

○次に大樂不空身　印は先の如し、唯し大指を出入せざるなり。　唵麽訶蘇佉嚩曰藍娑駄耶薩嚩薩怛吠毘愈弱吽鑁斛

○次に(ぬ)召罪法　金剛外縛して忍・願針の如くし、風を風して來去して衆罪を鈎結せよ。　(朱)傳、二頭指を風し二中指の背に立て著くる勿れ、三度來去せよ云云　唵薩嚩播波迦哩灑拏尾戍駄曩、嚩曰囉、薩怛縛、三摩耶吽發吒

○次に(ぬ)摧罪法　前の火指を立て、諸火拍て三度、衆罪を摧き拏れ。　唵縛曰羅波尼尾薩普吒耶、薩縛波耶、滿駄

(ぬ)召罪、吽・一召、發・一召、吒・一召、合して三び召くなり。(ぬ)摧罪　前印の儀にして中指を殘して內縛す、二中にて誐・一拍、怛羅・一拍、吒・一拍三度拍つなり。

(ぬ)大欲　右の大指を來去せよ。

曩你、鉢羅謨乞灑耶薩嚩波耶、誐底毘藥薩嚩薩怛嚩、薩嚩怛他誐底嚩曰羅、三摩耶吽、怛羅吒

○次に(ぬ)業障除　金剛掌にして兩風を風し雙空の如くせよ　(朱)傳、二頭指中節を風し端相ひ註へ、二大指を並べ立てて二頭指を押す。　唵嚩曰羅、羯摩尾輪駄耶、薩嚩嚩羅拏你、母駄薩底曳曩三摩耶吽

○次に(ぬ)成菩提　蓮華契にして頂の左に安せよ　(朱)傳、外縛して二大指・二小指立て合せよ云云　唵戰捺盧多梨三曼多、婆捺羅、枳囉尼摩訶嚩曰哩尼吽

○次に(ぬ)五相成身　等持印、金剛縛して仰けて齊下に安するなり。　(朱)已下諸佛加持に至るまで皆等持印を用ふ。　三摩地の明を誦して曰く、唵三摩地鉢頭迷訖哩

舌を上の腭に立て、身を端して動搖すること勿れ。觀せよ、煩惱・隨煩惱・溢界諸處等は皆な幻と焰との如し、乾闥婆城の如し、亦た旋火輪の如し、又た空谷響の如し、寂滅平等究竟眞實の智に住す、虛空に遍滿したまへる諸佛、彈指驚覺して告げて言く、善男子、汝が所證の處は是れ一道清淨金剛喩三昧及び薩婆若智、尚ほし未だ證知すること能はず、此れを以て定中に足ぬとすること勿れ、諸佛を禮す普禮眞言に曰く

(ぬ)業障除　朱書の通りとなす。

(ぬ)成菩提　八葉印を用ゆ、沙汰に曰く、成菩提は自在、五相は利他成道、と。成菩提の印蓮花契は八葉の印なりと。(ぬ)五相成身　外縛したる法界定印、等持印と云ふ、外縛して二大端を柱へ印を仰げ結跏坐の上に置く。以下皆此の定を用ゐる中間の各の印を用ゐず。

(一) 月上如來　大日如來なり。

(二) 唵惡云云　心に念ずるのみ。

(三) 蓮華　註に曰く八葉。

唵薩嚩怛他誐多波娜滿娜喃迦嚕弭

普賢大士、昔曾(一)月上如來の所に於て菩提心を發せしが、一切有情をして是の如くならしむ云云

○次に通達菩提心明　入定の內なり。　我れに諸佛の所行處を示したまへ、諦かに觀ずるに自心の相を見ず　普禮眞言を誦すること不用　諸佛咸く告げて言く、心相は測量し難し、心は月輪の輕霧の中にあるが如し、眞言を與へて曰く　唵質多鉢羅底吠鄧迦嚕弭　內證無漏の究竟至極と名く。

又た曰く、唵三摩烟薩怛鑁　即ち諸佛の律儀を具足す、(二)唵惡娑嚩賀を誦するに依て五股金剛を成就す。

○次に菩提心眞言に曰く　猶ほ定中なり。　藏識は本より染に非ず、心を阿賴耶となす、汝ち淨月輪を觀じて菩提心を證することを得べし。

唵冐地質多母怛波娜也弭。　心月輪をして益〻明顯ならしむ。

○次に成蓮華　(三)蓮華契を用ひよ　唵底瑟姹嚩曰羅鉢娜麼　一心に專注して更に易緣せざれ、圓明の上に八葉を觀せよ。

(一) 廣蓮華　親自在な觀はしたるもの。

(二) 又云く　蓮華漸く殺り漸く少る　(三) 證蓮華云云　已身に等し。　已林即ち八葉、八葉即ち月輪

(四) 佛身圓滿　有法身法界體性智　本

(五) 諸佛加持　來は修生なれども　上

底瑟姹跛娜麼　心月輪の中に鑁字(朱)あり　率都波となる、前に吽字(朱)あり　五股となる、右に怛洛(朱)あり　摩尼寶となる、後に頡唎(朱)あり　紅色の蓮華となる、左に嚩(朱)あり　十字の金剛となる、明に曰く

唵底瑟姹駄都嚩曰羅、羅怛曩、鉢頭麼羯麼　同じく是れ法界體性なり。

○次に(一)廣蓮華の明に曰く　左の手三股に作て仰け齊の上に安じ、右の手同じく覆せ明を誦して即ち手を舒べしめよ。　唵、嚩曰羅、鉢娜麼娑頗羅　即ち蓮華、法界に普周するの義なり、大いに舒び大千界に至る、六道の衆生を照して一切苦惱を除く。

○次に殺蓮華眞言に曰く　左を前の如くして、即ち前に舒ぶる所の右の手を以て漸く廻し殺め本の如く合す　唵嚩曰羅鉢娜麼僧賀羅

(二) 漸く殺少して己身に等し。

○次に(三)證蓮華身　外縛して火手實形に作れ。　唵嚩曰羅鉢娜麼怛麼勾唅　汝ち淨月輪に於て八葉を法界に敷け。

○次に(四)佛身圓滿　五智滿足の契を用ひよ、謂く五股印　唵也他薩嚩怛他誐多薩怛他含　普賢本覺の曼荼羅に住すと之を名く。

○次に(五)諸佛加持　前の印を改めず。　唵薩嚩怛他誐多避三冐地怛哩荼嚩曰羅底瑟姹

之より本有一體なりと觀ず、之を毘盧遮那加持とも云ふ、之れ諸佛が大日となりし故なり。

(一)烏瑟尼 頂の梵語。印は内縛して大指は重ねるなり。

(二)螺髻の印 口傳に曰く忿怒拳の如しと。

(三)奄相の印 如來拳にして左は腰に安じ右は面前眉間に擧ぐ。

(四)額云云 次の三尊の順序を擧げたり。

(五)玉枕 喉の尖れる骨をいふ。

(六)外縛云云 寶鈷又は大日鈷印ともいふ。

(七)寶生 頂の右に觀ず。

(八)無量壽 頂の後に觀ず。

○次に(一)烏瑟尼の印 二手内縛にして頂上に安せよ 曩莫三滿多沒駄南吽吽

○次に(二)螺髻の印 右の水火の頭を以て大指の甲を押し風地鈎の如くし前に向へ、頂と額の中間に安け、左又た右の如く腰間に安せよ。 (朱)故僧正御房御次第に云く、右の手を拳に作り頭指・小指共に立て、鈎の如くし印を以て前に向へ頂と額の中間に安け、左手同じく此の印を作り腰に安せよ。

曩莫三滿多沒駄南吽吽

○次に(三)毫相藏印 右拳を眉間に安せよ、 曩莫三曼多沒駄南吽

○次に寶冠印 五鈷契。(朱)傳に外五古云云 鑁吽、怛嚩、紇哩、噁

○次に四佛加持 外縛して二中指を立て合せ心に置け。 不動佛 獨杵印、心上に安し、次に(四)額・喉・頂上に於け 唵嚩曰羅、薩怛嚩、地瑟姹娑嚩鉢、吽。 寶生尊 金剛寶契を額上に置け。 (朱)傳、前印の如くせよ、但し二中指の中節を戚め寶形の如くせよ云云 唵嚩曰囉羅怛曩地瑟姹娑嚩鉢怛嚩。 無量壽 前の如くし、中指に於て蓮花形に(五)喉上玉枕の下に安せよ。 (朱)傳、前の如くせよ、但し二中指圓く立て合せよ云云 唵嚩曰羅、羯摩、地瑟姹娑嚩鉢噁

○次に五佛灌頂 遍照尊 (六)外縛して火を鈷の如くし、風を以て火の背に立てよ。 (朱)傳、二中指立て合せ上節を屈して鈷の如くせよ云云 唵薩縛怛他蘖戴娑嚩哩邪毘麗迦吽。 不動佛 外縛して火を立て相せよ (朱)傳、四佛印、四佛加持の如し 唵嚩曰羅薩怛縛、毘詵遮鉢吽。 (七)寶生尊 中指を寶に作れ 唵嚩曰羅囉怛曩毘詵遮鉢怛洛。 (八)無量壽 火を蓮華せなせ

(一)不空金翅鳥の印にして二小指少しく明け頂の右に觀ず。

(二)四佛云云 各の印を結び明を誦し了りて無言にして左右拳にし一頭を伸べて左右より垂下して鬘の如くせよ。之れ頸次第の説なるも今は印の解き兩手相分つて五指を伸べ垂帶の如くす舞儀なし。

(三)結胄 兩拳の二頭指を舒べ右の頭指の端に唵を觀す、左の頭指の端に砧を觀じ、其後二頭をダルマ〳〵と繫ふ勢にして唵砧一反唱ふる度に二頭指の端を合すこと此の如く三度唱へて後に二頭を兩方へ引き分る勢を作す

唵嚩曰羅鉢娜摩毘詵遮鉢紇唎。 (一)不空成就 外縛して二火掌に入れ面を合せ、大小指各の相せ立てよ。 唵嚩曰羅、羯磨、毘詵遮鉢噁

○次に(二)四佛繫鬘 (朱)傳、四佛繫鬘同じく四佛加持の如くせよ、但し本印を結び了て各の手を分ち、首より左右に垂帶の如くせよ云云 不動佛 外縛して獨鈷印、心に當て誦し、繫鬘の絃を垂下する如くせよ 唵嚩曰羅薩怛嚩摩羅、毘詵遮鉢鑁。 寶生尊 外縛して火指を寶形に作り心に當て誦の後、額に置いて鬘の如くせよ。 唵、嚩曰羅、囉怛曩、摩囉、毘詵遮鉢鑁。 無量壽 外縛して火指を蓮花形に作り、心に當て誦して後、額に置いて鬘の如くせよ。 唵、嚩曰羅鉢娜摩摩囉毘詵遮鉢鑁。 不空成就 羯磨印を作り心に當て誦して後額に置いて鬘の如くせよ。 唵嚩曰囉羯摩毘詵遮鉢鑁。 皆な首より手を分け左右に垂帶の如くせよ。

○次に甲冑 虛心合掌して二頭指を風し二中指の上節に着け大指並べ立て二中指の中節を押せ、即ち五處を印せよ。 唵、摩折羅迦嚩制、摩折囉句嚕、摩折嚩摩折哩娜含

○次に(三)結冑の眞言に曰く 二羽金剛拳にして二風を舒べ相ひ繫ひ槌ひ、頸・胸・腰・左右の肩・腕・膝・脛・足を結び後に首頸を堅めよ 唵砧

○次に拍掌 掌を平にして三度拍て。 (朱)傳、旋舞して後、掌を平にし三度打て云云 唵、嚩曰羅、覩瑟也斛

○次に現智身 二羽金剛縛して禪智を掌に入れよ 唵嚩曰羅薩怛嚩噁

○次に見智身 猶ほ先印のごときなり 唵嚩曰羅、薩怛嚩、涅哩捨也

○次に四明印 降三世の印を結び、弱を誦して端を達せ、鑁を誦して鉤結し、斛を誦して進を鉤し、吽を誦して進・力の鬘を誦して腕を合せ振るべし 弱吽鑁斛

之れ一處を結するなり。又云く二大並べ入れて三度出入せよ。

(二)道場觀　(朱)外縛して二中指立て合せよ。　(二)他受用なり、金剛縛して掌を開き、空地の端逢せて身に向へ齊に當てよ。　印なり、二手外縛して二大二小立て合せて齊に當てよ。菩薩院三阿僧正御次第に云く、器界觀と。而て先器界觀は正法今は依きのは報なり。

(三)他受用道場觀已前を自受用となし以後を他受用となす。

○次に成佛　針印を用ふ、亦た陳三昧耶と名く。　唵三摩嚩哈、摩訶三摩嚩哈

○次に(二)道場觀　(朱)傳、二手五指を舒べて掌を仰け側め合せ、二大指を以て二頭指・二中・二無名・二小の六指相ひ交へ、二頭の側に立て微しく轉せよ云云　唵尾

觀想せよ、下方の空の中に欠字あり、舒廣して空輪雜色、四形なりとなる、其の上に含字あり、引大して風輪黑色半月形なりは其の上に嚂字あり、周遍して火輪となる、其の炎赫奕として劫火に過ぎたり、右に旋りて不淨汙穢形三角なを燒盡す其の上に鑁字あり變じて水輪白色圓形となる、其の上に惡字を想へ、即ち清淨地方形金色なりとなる、其の上に鉤字を想へ、變じて七金山となる、之を圍繞す上界の鑁字大日となる、遍虛空の身なり、齊輪より乳雨を流出して七金山の間に降し澍ぐ、八功德の香水海となる、海の中に鉢羅字あり、變じて金龜となる、其の上に枳唎字を想へ、三層八葉の大蓮花臺となる、其の上に鉢羅索字あり、變じて妙高山王其の形八角となる、四寶の所成なり、是の如きの契等を結んで各各加持せよ。

空輪印　大惠刀印　(朱)傳、虛心合掌して二大指並べ立て二頭指中節を屈して端を合せ二大指を押せ云云　唵嚩日羅欠　風輪印　轉法輪印

(朱)傳、二手共に舒べて背を合せ八指互に鉤し結び、左の大指端を以て右の掌に置き、右の大指端を合す云云　唵嚩日羅啥　火輪印　法界生印　(朱)傳、二手拳に作り共に仰け、二頭指を側め合せよ云云　唵嚩日羅嚂　水輪印　八葉印　唵嚩日羅鑁　地輪印　外縛五　唵嚩日羅嚩　大海印　十輪印　(朱)傳、二手五指を舒べて掌を仰け側め合せ、二大指を以て二頭指・二中・二無名・二小の六指相ひ交へ、二頭の側に立て微しく轉せよ云云　唵尾

(一)七金山印　先印を解かず、檀慧智に屬し遍すべし。　(朱)傳、前印の如し、但し二小指背を合せ直く三旋せよ云云　唵嚩日羅

摩盧娜地吽。　(二)金龜印　先印を解かず、禪智を以て(二)來去せよ。　(朱)傳、三度來去せよ云云　唵嚩日羅、鉢羅。　三層蓮臺印　八葉印

唵嚩日羅枳唎　(三)妙高山印　內縛して空、水に着けよ　唵婀左攞吽

○次に如來拳印　二手拳に作り左の空指を立て右掌內に(四)攝せ　眞言に曰く　唵僕欠　(五)觀想せよ、須彌山王は無量廣大、其の貞等平なり、鑁吽、多羅、奚哩、惡字を想へ、七寶の宮殿となる、八柱四門なり、左右に吉祥幢あり、其の殿に五の樓あり、繒綵珠網を懸けたり、五部の曼荼羅壇あり、其の中如來部の輪に奚哩字を想へ、變じて八葉蓮花臺となる、其の上に三つの種子あり、中央に心字を想へ、左右に阿字あり、大覺師子の座なり、其の上に奚哩字あり、變じて大寶蓮花となる、其の上に阿字あり、變じて淨月輪となる、其の上に又た奚哩字あり、八葉の花座となる、其の上に鑁字あり、窣堵波五大所成なりとなる、轉じて摩訶毘盧舍那となる、首に五佛の寶冠あり、白色の光を放つ、如來の四邊より隨分の光を放ちて四佛の位四邊は胸・左右の肩・後なりを照す、一曼荼羅の內の大威德の諸尊圍繞して大日如來を恭敬したてまつる此の事極めて多し、之に因て略するのみ　是の如く觀じ已て先づ左の膝を印

(一)七金山の印を以て二小を立て背を合す。

(二)來去云云大三びの來去するは龜の水陸に於て自在を得る德を表す　(三)妙高山內縛し右の大指を下に入れ水指を押す。　(四)攝せは持むなり。又は爪攝る　(五)僧正次第には道場觀の字あり器界觀と即ち上は來し道場自下は正し道場觀なり、餘尊を引入し時修て觀なり、此の觀に二樣あり一は常の如く作器界觀を作す、其の觀を作り了り次に此の如く作器界觀以下の今の大日の略の道場觀を作す、他の道場觀を以て唯引入を本尊道場觀の內に作す、上の樣に作り了り次に此の如く作器界觀以下の今の大日の略

(一)次に大虛空藏南方の寶光憧幢の總印なり。
(二)小金剛輪印内縛なり。
(三)啓請の印先の小金剛輪の印を仰けたる迄なり。
(四)開門契先の驚覺の印の如し、眞言一反。終の吽四變、吽一反毎に一方を開くと觀ず二風の端を開くなり、次の四方なり、或は明四反。
(五)啓白印外縛二中立て合せ二風鉤の如く二中に着けず明の初に自の實名を加ふと。
(六)送車輅來去する義は準胝の軌に由り、來去ぜざるは無量壽軌に由る。
(七)請車輅前印二大を内へ召ぐなり。

し、次に塡、次に右の膝、次に四處を加持せよ。

○(一)次に大虛空藏　二手の忍願、右を以て左を押し外に相叉へ縛して手背に着け進力相ひ感め實形の如くせよ。　唵誐誐曩、三婆嚩嚩曰羅斛

○次に(二)小金剛輪印　二羽金剛拳にして小・頭指鉤結せよ　唵嚩曰羅、斫訖羅吽弱吽鑁斛　印を以て心の上に安せよ、又た本尊の像に觸れよ、又た虛空界に遍して後に口に收めよ。

○次に(三)啓請印　雙手拳に握り各の小頭に相懸く。　(朱)傳、前印を改めず、但し本尊の像等に觸れず云云　野毘焰、涅尾、伽那沙、斫迦羅、悉地寫多畝陛、鞅唎嚩曰羅軍荼唎係都毘焰多毘焰摩薩覩沙娜曩莫

○次に(四)開門契　二羽拳に結び、檀慧相鉤し風を竪て側め合せよ。　唵嚩曰羅娜嚩二合盧娜伽吒也三摩耶、鉢羅吠舍耶、吽。　四方門に向て吽に隨て辟き開け　心を廻して指の末を開け

○次に(五)啓白印　二羽外縛して忍願立て合せ、進力鉤の如くし背着けざれ　阿演都、薩吠步嚩廼、伽娑羅鉢羅拏弭哆、世沙迦哉、羅摩啓、沙乞及、怛訖哩多、難多婆嚩薩嚩婆嚩薩嚩濱步毛難多婆嚩薩嚩婆嚩

○次に(六)送車輅　仰けて相ひ及へ、頭指を以て側め合せ、大指を以て來去せよ。　(朱)傳、二手五指を舒べて共に仰け、二中・二無名・二小指相ひ交へ、二頭指側め合せ、二大指を二頭已下に附け三度來云せよ云云　唵都嚕都曙吽

○次に(七)請車輅　其の印をもて請來し奉れ。　(朱)傳、前印の如し、但し二大指來去せず。　娜莫悉底哩也、地尾迦南、怛他蘖跢喃、唵嚩曰羅、儗孃、迦羅灑耶、娑嚩賀

○次に(一)大鉤召印　二羽内縛して二風を以て鉤せよ　(朱)傳、二手内縛して右の頭指を立て鉤の如くし三たび招げ云云　曩莫三漫多沒馱喃阿、薩嚩怛羅、鉢羅底訶諦、怛他蘖黨、矩奢胄地、槊哩也、鉢哩布邏迦、娑婆賀

○次に金剛王印　印は(二)臂を交へ彈指す。　(朱)傳、二手拳に作り胸前に臂を交へ、右、左を押し、二頭・二大を以て三度彈指せよ云云　唵嚩曰羅、娑麼惹

○次に(三)除障降三世印　二羽忿怒拳にして小指背け鉤結して進力の二を背け立てよ　唵蘇婆你蘇婆吽、蘖哩訶拏、蘖哩訶拏、蘖哩訶拏吽、蘖哩訶拏波耶吽、阿曩野解婆誐嚩曰羅吽泮吒。

○次に虛空網　地界に准ぜよ、大指を頭指の本に並べ着けよ　(朱)傳、前の地界の印の如し、但し二大指を以て二頭の本に付け頂上に於て三度右に繞らせ云云　唵尾娑普羅、捺羅乞灑嚩曰羅、半惹羅、吽發吒。

○次に(四)無等火印　左右の手を裸り立て、左を以て右を覆へ。　唵阿三莽疑寧吽發吒。

○次に(五)大三昧耶印　内縛三貼　(朱)傳、右に旋し三匝せよ云云　唵商羯禮摩訶三昧焰、娑嚩賀。

○次に(六)閼伽香水を奉る　印は合掌して頭指を屈し大指の末を以て進せ取り、捻し掌中に閼伽器を置き、右手三貼印を作り加持云云　中に器を置き奉獻の後に水を以て盤に入れよ。　(朱)傳、左手五指を舒べて頭指・大指を相ひ　娜謨三滿多沒馱喃、誐誐曩三摩縛麼娑嚩賀。　以本清淨水洗浴無垢身　不捨本誓故　證成我承事。

○次に(七)蓮華座印　八葉印を開いて中指の背に頭指をつけよ、此れ六葉の印なり。　(朱)傳、八葉の印云云　唵嚩曰羅、阿

(一)大鉤召印　内縛して右の頭指を立つ。
(二)臂を交へ右を外にし左を内にす、彈指三度。
(三)除障云云　逆順加持明二遍。
(四)無等火印　常の火院の印なり。
(五)大三昧耶　被甲護身の印、但し二大を交ること異れり。
(六)閼伽香水　作法十八道の如し、但し眞言を異にす
(七)蓮華座印　朱書の傳を用ふ。

(一)振鈴作法十八道の如し、沙汰に云く、五相成身の時既に成佛し了りて利他の時に至りて振鈴の成道に趣く、参道の時は金剛薩埵に趣き、身を閼伽に浄む、自在王前の月輪に住す、觀ずれども本有の自性なし、未成佛なり、得ず、成佛得ず、自在に因位に思ふ、智利なり、他に向ふ時、智なり、事を趣く時、他に引き放つ、印を取りて金剛鈴杵を成ず、殿趣堪に取るなり、外義に五鈴を乃至鳴す義なり、無明は横平なり、表す、横なるは利なるなり、他手を取るなり、趣堪に成ずる

て彈指すること二度と。(六)或はいふ、外縛して二頭寶形の如くし二大並べ立てよ。(七)或はいふ、光、二拳面合せて二風指を舒べてサ、エナ圓にす。(八)或はいふ、幢。二手拳しして右肘を直く立て左拳の上に住めしむ。(九)或はいふ、咲。二手拳にして口に仰げ散す。(一〇)或はいふ、法。左の風空捻して蓮にし、餘の三指直く舒べて右、左の如く少し上げて外に向へて開花の勢にす三度。(一一)或はいふ、利。先印の如く、右劍印に作て少し上げて外に向へ物を切る勢にす一度。(一二)或はいふ、因。二手拳にしてウツブセ並べ進力の節をヒトシメテ齊に當て右に轉す。(一三)或はいふ、業。二手拳を開いて三の勢に作せ、三度。

唵嚩曰羅、達磨頡利　○次に(一)金剛劍菩薩　右邊の月輪に住す、左は華の如くし、心上に置き煩惱障を持し、右は劍か取て無量の雜染の結使を殺す。　(朱)傳、左は前の如し、右は劍に作り切る勢の如くす三度順逆に旋轉せよ云云

唵嚩曰羅、底乞瑟拏淡　○次に(二)金剛因菩薩　左邊の月輪に住す、拳を覆せ進力申べて齊間に平に轉す。　(朱)傳、二拳を覆せ進力を舒べ端相ひ拄へ右手轉す。

唵嚩曰羅、係都鎗　○次に金剛密語菩薩　後邊の月輪に住す、雙拳を口に至らし仰け散す

唵嚩曰羅、波灑藍　○次に(三)金剛業菩薩　不空成就前の月輪に住す、左右か施舞す

羯磨劍　○次に(四)金剛護菩薩　右邊の月輪に住す、左は華の如くし、拳を以て甲冑を被る　(朱)傳、二拳を胸に當て頭指を舒べ衆魔三度、引合して頂より左右に垂下す云云

唵嚩曰羅、羅乞乃含　○次に(五)金剛藥叉菩薩　左邊の月輪に住す、左右拳に於て二頭を小牙にす。　(朱)故僧正御房御作次第に云く、二手拳に作て各の頭指を立て小指共に鈎して牙の如くし左右相ひ對して口の兩邊に附く輪に住す、兩拳相ひ合せて左印を下に、右を上に覆せよ

唵嚩曰羅、藥乞乃吽　○次に(六)金剛拳菩薩　後邊の月輪に住す、兩拳を腰側に、左少し頭を低く。

唵嚩曰羅、邏細護　○次に金剛華鬘天女形菩薩　西南隅の月輪に住す、雙拳を伸べて風を吹て鬘に繫げて額より後ろに垂れよ。

唵嚩曰羅、摩梨怛羅吒　○次に金剛嬉戲天女形菩薩　大日の東南の角の月輪に住す、左少し頭を低く。

唵嚩曰羅、暮瑟置鑁　○次に金剛歌詠天女菩薩　西北角の月輪に住す、雙拳を腰側に、左少し頭を低く。

唵嚩曰羅、儗諦儗　○次に(七)金剛法舞天女形菩薩　東北隅の月輪に住す、二拳面合せ臍より口に至て散す。　(朱)傳、二手舒べて掌舞す三反、了て金剛合掌して頂上に在く。

唵嚩曰羅、涅喋諦　○次に(一)金剛焚香侍女菩薩　阿閦東南の角、摩尼峰樓閣に住す、拳を並べて下に向へ散す

唵嚩曰羅、度笓炯　○次に(二)金剛覺華侍女菩薩　西南角寶樓閣に住す、即ち兩拳上に仰け散す

唵嚩曰羅、補澁笓唵　○次に(三)金剛燈明侍女菩薩　西北の角、寶樓閣に住す、兩拳を立て合せ、大指を針の如くす

唵嚩曰羅、路計徐　○次に(四)金剛塗香侍女菩薩　東北角の峰樓閣月輪に住す、拳を開いて胸に塗る。　(朱)傳、二手金剛拳にして各の五指を舒べ掌を開き指の末を以て胸を摩し塗る如くす三度

唵嚩曰羅、嚩第虎　○次に金剛歌詠天女菩薩　東門の月輪に住す、降三世を作り右頭を鈎す。　(朱)傳、前の如く進力甲之を合す

唵嚩曰羅、矩捨弱　○次に金剛索菩薩　南門の月輪に住す懸け作ら頭前に逢せよ。

唵嚩曰羅、播捨吽　○次に金剛鎖菩薩　西門の月輪に住す、傾ち二度相ひ鈎す。

唵嚩曰羅、薩普吒鑁　○次に金剛鈴菩薩　北門の月輪に住す、即ち腕を合せて搖動せよ。

唵嚩曰羅、吠

捨斛

○(五)次に賢劫(八)十六菩薩　長の吽を用ふ、右拳を以て腰に安け、左拳を以て左方より右方に置き擧る。方ごとに四菩薩遶らして心印し擧る、處廣ければ自ら立て方毎に向ふべし　(朱)傳、右方より左方に置く。云云

唵嚩曰羅、枳惹喃怛嚩　○次に南方寶生　外縛して火を寶形色にす　(朱)傳、二中指を立て合せ中節を威め寶形の如くす云云

唵嚩曰羅、枳惹喃阿　○次に東方阿閦　獨古印を額の上に置く　(朱)傳、二手外縛して二中指を立て合せ針の如くす云云

唵嚩曰羅、枳惹喃吽　○次に中臺大日如來　金剛縛して忍願鈎形の如くし進力を背に附く　(朱)傳、成身會遍照尊の印の如し云云

唵嚩曰羅、枳惹喃阿　○次に△次に三昧耶會

唵嚩曰羅、枳惹喃怛嚩　○次に西方觀自在菩薩　短の吽を用ふ、右拳を腰に安き、左拳を用て右膝下より左一方に擧る、五處

唵嚩曰羅、枳惹喃怛嚩　○次に外金剛部(九)廿天　長の吽を用ふ、右拳を以て腰に安け、左拳を以て左方より右方に置き擧る。方ごとに四菩薩遶らして心印し擧る、處廣ければ自ら立て方毎に向ふべし

唵嚩曰羅、枳惹喃怛嚩　○次に△次に三昧耶會

唵嚩曰羅、枳惹喃阿　○次に中臺大日如來　金剛縛して忍願鈎形の如くし進力を背に附く　(朱)傳、成身會遍照尊の印の如し云云

唵嚩曰羅、枳惹喃吽　○次に東方阿閦　獨古印を額の上に置く　(朱)傳、二手外縛して二中指を立て合せ針の如くす云云

唵嚩曰羅、枳惹喃阿　○次に南方寶生　外縛して火を寶形色にす　(朱)傳、二中指を立て合せ中節を威め寶形の如くす云云

唵嚩曰羅、枳惹喃怛嚩　○次に西方觀自在菩薩　短の吽を用ふ、右拳を以て腰に安け、左拳を以て左方より右方に置き擧る。方ごとに四菩薩遶らして心印し擧る、處廣ければ自ら立て方毎に向ふべし

唵嚩曰羅、枳惹喃怛嚩　○次に△次に三昧耶會

唵嚩曰羅、枳惹喃阿　○次に中臺大日如來　金剛縛して忍願鈎形の如くし進力を背に附く　(朱)傳、成身會遍照尊の印の如し云云

唵嚩曰羅、枳惹喃吽　○次に東方阿閦　獨古印を額の上に置く　(朱)傳、二手外縛して二中指を立て合せ針の如くす云云

唵嚩曰羅、枳惹喃阿　○次に南方寶生　外縛して火を寶形色にす　(朱)傳、二中指を立て合せ中節を威め寶形の如くす云云

唵嚩曰羅、枳惹喃怛嚩　○次に西方觀自

(四)或はいふ、塗。二拳開き申べ五指のハシをもて胸をナズル三度。

(五)次に是より胎藏祕密の八印へうつるなり。

(六)十六、左拳仰けて右の膝の上より左の膝に至て其の中間四所印す一所に四度(長の吽字各一反を誦す)

(七)二十、先の如し、但し各の五度、又た短の吽字云云

(一)前の四佛三昧耶智の四佛の印を指す。

(二)金剛縛云云外縛二頭を立て、鉤の如くし著くることなかれ。

(三)彈指　二度をなす。

(四)口に散ず　前印を解かずして二手五指を伸べ左右に相分ち口に散ず。

(五)本縛云云外縛二中掌に入れ面を合せ二水立て合せ二地立て交ゆ。

在王　火を蓮華に作る　(朱)傳、外縛して二中指圓に合す云云　嚩曰羅、枳惹喃韻利　○次に北方不空成就に入れ面を合す　(朱)傳、二手外縛して二中指を掌中に入れ面を合せ二小指・二大指立て合す　唵嚩曰羅、枳惹喃嚩　○次に金剛波羅蜜獨貼を心に安く　(朱)傳、四ハラ密、(一)前の四佛の如し云云

戛唎怛嚩　○次に法波羅蜜　蓮華を喉に安く　嚩曰羅、室哩吽　○次に寶波羅蜜　寶を額に安く　嚩曰羅、多羅韻利　○次に羯磨波羅蜜　外縛して火を中に入れ面を合せ檀惹韻智頭合せ頂上に安く。

佉秣日哩尼斛

○次に金剛薩埵　忍願を立て、針の如く し大小開いて立つ。　三昧耶薩埵鑁　○次に金剛王　(一)金剛縛を以て進力鉤の如くす。

阿曩耶娑嚩　○次に金剛愛　進力立て、進を以て力を押す。　(朱)傳、外縛して二頭指右を以て左を押し交へ立つ云云　阿斛蘇佉

○次に金剛喜　縛を解かずして(二)彈指す。　娑度娑度　○次に金剛寶　外縛して風寶形に し空並べ立つ。　蘇摩訶怛鑁

○次に金剛光　火を開き舒べ以下の六指合せ乍ら風空の頭旋轉す。　嚩曰羅、室哩吽　○次に寶波羅蜜　寶を額に安く　嚩曰羅、多羅韻利　○次に羯磨波羅蜜　外縛して火を

遏他鉢羅底　○次に金剛咲　前印を易へず返て(四)口に散す。　(朱)傳、五指舒べて相分け左右口に散ず云云　呵呵吽郝

○次に金剛法　空立て風蓮の如くす。　(朱)傳、外縛して二大指並べ立て二頭相圓に合す云云　薩嚩迦哩　○次に金剛利　合縛し鉤に作る　(朱)傳、外縛して二中指を立て上節之を折る。　耨佉砌那　○金剛因　(五)本縛し水を合せ立て、火を縛に入れ地を立て交ふ。　鉢羅底攝那

○次に金剛語　縛に由り進力連れ禪智開いて頭指の下に附く　母駄冐地

○次に金剛業　六度又へ覆ひ大を以て小の甲を捻す　(朱)傳、二手外縛して掌を覆ひ二小指掌に入れ二大指を以て二小指の甲を押す云云　蘇嚩始怛鑁　○次に金剛護　風針にして心に當つ　(朱)傳、二手外縛して二頭を立て合せ針の如くす。　涅婆也怛鑁　○次に金剛牙　外縛して頭指・小指開き立つ、只だ二頭は鉤となす。　捨吐嚕薄乞刄　○次に(一)金剛拳　大を以て小の木を捻し進力大の背に立つ　(朱)外縛して二大指を相並べ掌に入れ二頭指を風し甲を合せ二大指の背を拄へよ云云

○次に(二)金剛嬉　縛して兩空を偃き立つ。　薩嚩悉地　摩訶羅底　○次に金剛髮　大指を立て展べ頭に當つ。　(朱)傳、二手外縛して二大指を並べ立て二頭の側を押し腕を展べて額に當つ。　路波輸陛　○次に金剛歌　齊より仰け口に散ず。　(朱)傳、二手五指を舒べて齊より口に至り仰け散す。　輸路怛羅燥契　○次に金剛儛　旋舞して掌頂に。　薩嚩布而

○次に金剛香菩薩　由縛下し散ず。　(朱)傳、外縛して縛を解き五指を舒べ掌を覆せ仰け散す。　鉢羅訶羅佉佉

菩薩　(三)仰け開き獻ず。　(朱)傳、縛して縛を解き五指を舒べ仰け開き獻ず云云　破邏誐弭　○次に金剛燈　空を立て針の如くす。　(朱)傳、外縛して縛を解き五指を舒べ仰け開き獻ず云云　索帝惹吃哩　索獻蕩儀

○次に金剛鉤菩薩　由縛、進力鉤の如くす。　(朱)外縛　阿夜嗢弱　○次に金剛塗　縛を解いて胸を摩でよ。　(朱)外縛　○次に金剛索　禪、智に入る虎口にす。　(朱)傳、出入三度　阿吻吽吽　○次に(四)金剛鏁　上の四交へ環の如くせよ、縛し乍ら空風の末環に作れ。　係薩普吒鑁　○次に(五)金剛鈴　禪智掌に入れ搖す。　健吒噁噁　已上三摩耶會

△次に大供養會

○(六)遍照如來羯磨印　兩手各の握て拳伸べ、左の頭右の拳を以て之を執る、是れ智拳印なり。　唵薩嚩怛他蘖多嚩曰羅駄怛嚩弩多

(一)又いふ、外縛して二大指を相並べ掌に入れ二頭指を風し甲を合せ二火指を柱へよ云云

(二)金剛嬉　頭次第に云ふ二大並べ立て風指を押す。

(三)仰け云云　願次第には仰け散ず に作る。

(四)金剛鏁　外縛二大・二頭衰の如し。

(五)金剛鈴　二大並べ掌に入れ振ふ。

(六)遍照如來　偈註に中拳遍照尊といふ。

(一)或はいふ、羯磨印、右手の大指掌中にヨコタへて四指を以て先づニギリて次に開く是れ杵を抽擲する勢なり、是の如く三返すと。

羅、布惹娑發羅拏、薩摩曳吽

○(一)次に金剛薩埵　觸地印　唵薩嚩怛他蘖多縛曰羅、薩怛縛、拏多羅、布惹娑發囉拏、薩摩曳吽　○次に金剛寶　施願に心手、右の膝上に仰くるなり。　唵薩嚩怛他蘖多、縛曰羅羅怛那、拏多羅、布惹娑發羅拏、薩摩曳吽　○次に金剛法　法界定印　(朱)傳、彌陀定印と云云　唵薩嚩怛他誐多、嚩曰羅達摩拏多羅、布惹娑發羅拏、薩摩曳吽　○次に金剛業　密上手は施無畏なり、物を拓る象の如くす。　(朱)傳、右手五指を舒べて合掌し外に向へよ。　唵薩縛怛他蘖多、縛曰羅、羯摩弩多羅、布惹娑發羅拏、薩摩曳吽

○次に四波羅蜜菩薩　(朱)傳、前の四佛の如し。　唵薩怛嚩日哩吽　觸地　囉怛娜嚩日哩、怛洛施願　達磨、嚩曰哩、紇哩　定印　羯磨嚩曰哩、噁　施無畏

○次に十六大供養

○金剛薩埵　入縛手　(朱)傳、外縛して心に當てよ云云　唵薩婆怛他揭多薩婆答葬、禰耶、怛那布穫蘇頗羅拏、羯磨跛穫哩、婀　○次に金剛王　縛して右脇に安く。　(朱)外縛云云　唵薩婆怛他揭多、薩縛答葬、禰耶、怛曩、布穫窣發羅拏、羯磨、紇里穫　○次に金剛愛　縛して左脇に安く　(朱)外縛云云　唵薩婆怛他揭多、阿賒婆、禰耶、怛曩、阿拏羅伽那、布穫窣發羅拏、羯磨、婆寧斛、護

(一)或はいふ、鐘。外縛して肘を合せて舒べ立てよ。

(二)金剛法以下入事皆外縛なり。

○次に金剛喜　腰後に縛を作す。　(朱)外縛云云　唵薩婆怛他蘖多、薩婆答葬、禰耶、怛曩、娑度迦羅、布惹窣發羅拏、羯磨、覩所置索

○次に金剛寶　大頭を縛して寶に作り額に當てよ。　唵娜麽、薩縛怛他揭多、迦耶毘嚩罰、曷羅怛寧瓢、跋折羅、未禰、唵　○次に金剛光　大頭寶に作り六指を舒べ旋轉す。　唵娜麽薩婆怛他蘖多、索唎曳瓢、跋折羅、帝尒寧入縛羅奚　○次に(一)金剛幢　金剛縛して臂を前に舒べよ。　唵娜麽薩婆怛他揭多、阿賒播哩、布羅拏震哆、莫佚麥縛穫鉗哩瓢跋折羅、麥縛穫嬉梨怛藍　○次に金剛笑　縛して仰け口に散せよ、　(朱)外縛云云　唵納莫薩婆怛他蘖多、薩婆答葬、禰耶、怛曩、娑度迦羅、

○次に(二)金剛法　金剛縛して口に當てよ。　唵薩婆怛他蘖多、跋折羅、達磨陀三摩地毘、薩兜努茗、摩訶達磨係利頡利。　○次に金剛利　右の耳の上に當てよ。　(朱)傳、外縛して右耳上に當てよ云云　唵薩婆怛他蘖多、鉢羅穰婆羅蜜多韡、禰呵唎、窣覩拏冥、摩訶具沙努倪淡。　○次に金剛因　左の耳上に當てよ。　(朱)傳、外縛して左の耳上に當てよ云云　唵薩婆怛他揭多、者羯羅乞及羅、鉢利伐多曩、薩婆蘇怛羅、按多娜耶曳、薩兜努茗薩婆漫荼利吽　○次に金剛語　頂後　(朱)傳、前縛頂後　唵薩婆怛他揭多、散陁婆娑勃陀僧祇底毘、伽誕、窣覩努茗跋折羅、婆悌遮

○次に金剛業　頂の上。(朱)傳、前縛して頂上に安く。　唵薩婆怛他揭多、杜婆瞑伽三摩達羅、窣發羅拏布

(一) 金剛戲樂云云　沙汰に曰く、戲樂は喜菩薩、次の劫樹は舞菩薩、羯磨は歌菩薩なり、逢即以上内の四供養を顕すなり。

穰羯冥、迦羅迦羅　○次に金剛護　右肩に安け。（朱）前縛　唵薩婆怛他揭多、補澁波鉢羅娑羅窣發羅拏布穰羯冥、枳梨枳梨　○次に金剛牙　縛して右の股上に安け。（朱）前縛云云　唵薩婆怛他蘖多、嚕迦入縛羅窣發羅拏、布穰羯迷婆羅婆羅　○次に金剛拳　縛して心の上に當てよ、（朱）前縛云云　唵薩婆怛他羯多、健馱冥我三慕達羅、窣發羅拏、布穰羯冥句嚧句嚧

○次に金剛華菩薩　縛を以て上に向へ仰ず。（朱）前縛云云　唵薩婆怛他揭多、補瑟波布穰瞑伽、三慕達羅窣發羅拏三末曳吽　○次に金剛燒香菩薩　縛して下に向へ散ず。（朱）前縛　唵薩婆怛他揭多、杜婆、布穰瞑伽三慕達羅薩發羅拏三末曳吽　○次に金剛塗香菩薩　縛を解いて胸に塗る。　唵薩婆怛他揭多、健陁布穰瞑伽、三慕達羅薩發羅拏三末曳吽　○次に金剛燈菩薩　縛して空を立て心に當てよ、（朱）前縛　唵薩婆怛他揭多、伊婆、布穰瞑伽三慕達羅薩發羅拏三末曳吽　○次に金剛寶印　縛して火、寶に作れ。（朱）前縛　唵薩婆怛他揭多、部蕩伽曷羅多那、稜伽羅、布穰瞑伽、三慕達羅、薩發羅拏、三末曳吽　○次に(一)金剛戲樂菩薩　拳各の腰に當て、首頭小しく低る。　唵薩婆怛他揭多、訶寫羅寫紇哩陁曷羅底掃佉、弩怛羅、布穰瞑伽、三慕達羅、薩發羅拏、三末曳吽

○次に劫樹印　獨鈷を心に當てよ。（朱）傳、外縛して二中指を立て合せ針の如くす。　唵薩婆怛他蘖多、阿努怛羅、旡婆日嚕跋摩三摩地、婆縛那、跋那部折那、納薩那、布穰瞑伽、三慕達羅、薩發羅拏、三末曳吽

○次に(一)羯磨三昧耶　縛して地空合せ立て忍願拳に入れ、又た入れず。（朱）傳、外縛して二小指・二大指立て合せ、二中指を屈して掌中に入れ面を合す。　唵薩婆怛他揭多、迦那禰哩耶怛那布穰瞑伽、三慕達羅、薩發羅拏、三末曳吽　○次に達磨三昧耶　縛して火、蓮花に作る。　唵薩婆怛他揭多、質多禰哩耶怛那、布穰瞑伽、三慕達羅、薩發羅拏、三末曳吽

○次に(二)寶憧三昧耶　縛して風空寶に作り地水共に開き立つ。　外縛云云　唵薩婆怛他揭多、摩訶跋折嚕嗢婆摩怛那波羅蜜多布穰瞑伽三慕達羅薩發羅拏三末曳吽　○次に香身契　縛を解いて心の上に塗れ。（朱）外縛云云　唵薩婆怛他揭多、阿耨多羅摩訶部馱賀羅、迦舍羅婆羅蜜多、布穰瞑伽三慕達羅薩波羅拏三末曳吽　○次に羯磨觸地契　左拳を腰に安き右垂れて地に觸れよ　（朱）傳、右手五指を舒べて掌を覆せ右の股上に置け云云　唵薩婆怛他揭多、阿耨多羅摩訶達摩、網報陁气及地婆羅蜜多、布穰瞑伽三慕達羅薩發羅拏三末曳吽　○次に(三)鬪勝精進契　縛を以て額に當て即ち各の拳に作り進力を舒べ乘運せよ。　（朱）傳、外縛して二頭指を立て合せ針の如くし、二大指並べ立てよ云云　唵薩婆怛他揭多、僧娑羅、訶鉢哩哆伽拏怛羅摩訶毘離耶、波羅蜜多、布穰瞑伽、三慕達羅、薩發羅拏、三末曳吽　○次に(四)三摩地契　定印　（朱）傳、阿彌陀定云云　唵薩婆怛他蘖多阿耨多羅摩訶掃溪、毘賀羅、馱那婆羅蜜多、布穰瞑伽、三慕達羅、薩發羅拏、三末曳吽　○次に遍照尊羯磨勝契　智拳印　唵薩縛怛他蘖多、阿耨多羅、戛囉沙、寧耶嚩羅拏、婆薩

(一) 羯磨云云　朱書を用ゆ。

(二) 寶憧三昧耶に已下遍照尊羯磨に至て六度供養す、四攝の菩薩は六度に之を收む、印の地に水共に開き立て或は立て合す、三昧耶會の憧の印の如し。

(三) 鬪勝云云　朱書を用ふ。

(四) 三摩地契　朱書を用ふ。

(一)外縛云云外縛を仰げ二大の端を合す定印即ち金剛部の定印なり、懷中とは胸の前なり。

(二)或はいふ、如。虛心合掌して十指風して指の端合せ二大並べ立て風指の端にサシツク、

(三)三摩耶云云三昧耶會の羯磨波羅密の印契といふことなり。

(四)或はいふ、胎藏祕密八印より次に獻事供へうつる。

那、弭奈耶那摩訶鉢嘌穰婆羅蜜多、布穰瞑伽、三慕達羅、薩發羅拏三末曳斛　○次に勝上三摩地契(一)外縛して空の鋒を合せて仰けよ懷中に安け。　唵薩婆怛他揭多、悟四耶、摩訶鉢羅底鉢底、布穰瞑伽、三慕達羅、薩發羅拏、三摩曳吽　○次に(二)如來口契指の爪を聚め一處にして心に當てよ。　唵薩婆怛他揭多、婆社、禰耶怛那、布穰瞑伽、三慕達羅、薩發羅拏、三末曳斛。

△次に四印會

○次に金剛薩埵大印　智拳印　唵紇囉娜野、末你瑟跢顎、薩縛怛他蘖跢唵、悉地野擔。

○次に金剛寶大印　金剛針印(朱)傳、外縛して二中指を立て合せ云云　薩縛目捺藍、銘不栗夜、薄縛覩

○次に金剛法大印　外縛して火立て合せ蓮に作る。　涅瑟鉢羅、半左、縛吉悉第、薄嚩覩、薩縛怛他蘖跢

薩摩達喩銘阿惹演擔　○次に金剛羯摩大印(三)三摩耶羯磨の契を額上に安け。(朱)傳、外縛して二中指を掌に入れ面を合せ二小指・二大指立て合せよ。　阿尾你野、馱縛帝銘、薩怛縛薩縛怛他蘖擔、失者尾你野、地蘖摩、散縛羅參忿擔

△次に一印會　智拳契明を以て四處を印す。　唵嚩曰羅、馱覩餡

○次(四)に獻事供　行者右方　塗香　華　燒香　已上眞言に曰く　唵阿蜜嘌帝、吽發吒

○次に飲食　唵阿謨伽布惹摩抳、跛納麽、縛曰羅怛他蘖多、尾路枳帝、三滿多、鉢羅

(一)或はいふ、大悲不動明王、大四大八大諸大忿怒。

(二)或はいふ、四攝の次に不動禮佛の次に兩界なりと。

(三)或はいふ、根本火界呪劍印にて慈救呪。

薩羅吽　○次に燈明　唵阿謨伽布惹摩抳、跛納麽、縛曰羅怛他蘖多、尾路枳帝、三滿多、鉢羅薩羅吽

○次に讃　四智　(朱)金剛合掌　唵嚩曰羅薩埵縛、僧賀羅賀、縛曰羅、羅怛曩、摩拏多覽、縛曰羅達磨誐也奈縛曰羅羯磨、迦路婆嚩　次に不動讃　○次に普供養印　金剛合掌して二頭指を曲めて寶形の如くす。　唵阿謨伽布惹摩抳、跛納麽、嚩曰羅怛他蘖多、尾路枳帝、三滿多、鉢羅薩羅吽　○次に三力偈　並に　祈願　金剛合掌

以我功德力　如來加持力　及以法界力　普供養摩訶毘盧遮那佛(一)兩部界會　諸尊聖衆

護法天等　所設妙供　哀愍攝受　護持弟子　滅罪生善　無邊善願　決定圓滿

○次に禮佛　金剛合掌　南無摩訶毘盧舍那佛　南無阿閦佛　南無寶生佛　南無無量壽佛　南無不空成就佛　南無四波羅蜜菩薩　南無十六大菩薩　南無八供養菩薩　南無(二)四攝智菩薩　南無金剛界一切諸佛菩薩　南無大悲胎藏界一切諸佛

○次に入我我入觀　定印(朱)阿彌陀定印　觀想せよ本尊は我に入り、我は本尊に入る、本尊曼荼羅に坐したまへば、我も亦た曼荼羅に坐す。　○次に(三)本尊羯磨契　智拳印をもつて四處に當てよ。

唵嚩日羅馱覩鑁

○次に金剛百字明（金剛縛して火並べ立てよ　三昧耶會阿閦印なり。）　唵嚩日羅、（二合）薩埵嚩（二合引）三摩耶、麼努播羅耶（二合）嚩日羅（二合）薩埵嚩（二合）底尾（二合）努（引）播底瑟姹、（二合）四涅里（二合）濁弭婆嚩（五）索覩使喻（二合引）弭婆嚩、六阿努洛訖覩（二合引）弭婆嚩、七索補使喻（二合）弭婆嚩、八薩囉悉朕（丁陣の反）弭鉢羅（二合）也瑳、九薩嚩羯磨、索遮弭、十止多室利（二合）薬句盧吽、十一呵呵呵呵斛、十二薄伽梵、薩嚩怛他（引）蘖多嚩日羅、（二合）麼（引）寐悶遮、十四嚩日利（引）（二合）婆縛、十五摩訶（引）三摩耶薩怛嚩（二合引）惡（引）十七

○次に加持念珠　先づ左の手の頭指、大指を以て念母珠を取て引き擧げて、次に右の手を以て珠を取て纏へ、左の手の四指を、右の掌に入れて燒香すること三度熏じて、即ち左右の掌三度移し替へて右の掌に入れ、左の手の上に重ねて前に當て、唵覽薩婆賀を誦せよ。　○次に淨珠の明を誦す　唵毘盧遮那磨羅、娑嚩賀　○次に三度頂戴して即ち額に當て祈願す。（謂く五大願並に隨心祈願なり。）　五大願　衆生無邊誓願度、福智無邊誓願集、法門無邊誓願覺、如來無邊誓願事、菩提無上誓願證、自他法界同利益。　祈願は隨時なるべし。

○次に三度廻轉して旋轉の明を誦して曰く　唵嚩日羅虞嚕也、惹婆三摩曳吽（一誦し一轉す）即ち左手の空風を以て珠を取り、右手の空風を以て母珠を取る、二手相ひ去ること三四珠許り、一誦して一移す、唯だ母珠に至て越ゆべからず（母珠は是れ佛果なるが故に。）　次に本尊の呪（正念誦なり。）を誦せよ。　唵嚩日羅馱都鑁

○次に念誦分限畢て、珠を捧げ懺悔の偈を誦す。至心懺悔　念誦之中　攀緣怯覩多不如法　大大慚愧　唯願本尊　摩訶毘盧　舍那如來　大慈悲故哀愍攝受　所誦眞言　決定成就　菩提善業（即ち念珠を宮に紐む。）

○次に(一)入法界三昧觀（左手を以て仰けて跏の上に置き、右の手を以て仰けて左の掌の上に置き、譚智相ひ拄へよ。）（朱書）法界定印。　心月輪を觀せよ、其の上に順逆に五字旋陁羅尼（阿縛羅賀佉）を觀布せよ、又た暗・嚩・覽・暗字爪門、諸法本不生なる故に、鑁字門言說不可得なり、（含・欠）鑁字門言說不可得なるが故に、覽字門染淨不可得なり、覽字門染淨不可得なるが故に欠字門等虛空不可得なり、含字門因業不可得なるが故に含字門因業不可得なるが故に欠字門等虛空不可得なるが故に覽字門染淨不可得なるが故に鑁字門因業不可得なるが故に覽字門染淨不可得なり、鑁字門言說不可得なり、鑁字門言說不可得なるが故に暗字爪門諸法本不生不可得なり。（是れを逆觀となす、所謂る字輪觀なり。）　○(二)次に本尊加持（大日印明を以て四處を

(一) 入法界三昧觀云云　是は字輪觀なり、心月輪の上に五字を布く、先づ初に心月輪の上に爪字あり、次に五字を唱へ、次に順逆に三返之を唱へ、法本不生等と順逆に觀ず。

(二) 或はいふ、根本印にて火界呪、鉤印にて慈救呪さ。

(一)佛母加持四院流は必ず禮佛と大散念誦の後に之を用ふ、然れども當流は散念誦の一次第にみな散念誦の前後に兩處にあり。(二)佛眼云云或は云ふ、佛眼大日千反金剛薩埵一百反印一字殘一字可金丁時(三)八供養羯磨會の印明を用ゆ。

加持す。　唵嚩曰羅馱都鑁　○次に(一)佛母加持契　合掌して二頭指を中指の上節に着け、二小指開き立て二大指合せ立て中指の中節に着けよ、五眼成　曩謨婆誐嚩覩、鄔瑟抳灑、唵嚕嚕塞怖嚕入嚩攞底瑟吒悉馱路者寧薩嚩喇他沙馱你曳、娑嚩賀　○次に散念珠(二)佛眼、大日、金剛薩埵、降三世、一字金輪。　○次に(三)八供養印明　○次に金剛嬉菩薩　二拳腰側に、大小頭を伸ばす。　唵嚩曰羅、摩黎怛羅吒　唵嚩曰羅、涅嘌諦訖哩吒　○次に金剛歌菩薩　雙拳側め合し齊より口に至て散せよ。　唵嚩曰羅、補瑟笢唵　○次に金剛華菩薩　兩拳を上に向へ散せよ。　唵嚩曰羅、度笢娑　○次に金剛香菩薩　拳を並べ下に向へ散せよ。　唵嚩曰羅、鄔瑟抳灑　○次に金剛燈菩薩　兩拳を立て合せ大指針の如くせよ。　唵縛曰羅、路計你　○次に金剛塗菩薩　掌を開いて胸に塗れ。　唵嚩曰羅、獻第虎　○次に事供　行者左方　○塗香　○華　○燒香　已上眞言に曰く　唵阿密嘌帝、吽發吒　○飲食　唵阿謨伽、布惹磨抳、跛納麼、縛曰羅、怛他蘖多、尾路枳帝、三滿多、鉢羅薩羅吽　○次に燈明　唵阿謨伽、布惹摩抳、跛納麼、縛曰羅、怛他蘖多、尾路枳帝、三滿多、鉢羅薩羅吽　○次に閼伽　印は合掌して頭指を風し大指の末を以て逢取り中に器を置き奉獻して後に水を以て盤に入れよ、眞言に曰く。　娜謨三滿多沒馱喃、誐誐曩、三麼三麼、娑嚩賀。　本淸淨の水を以て　無垢の身を洗浴す

(一)閼伽云云印可、灌頂曼荼羅供等の時は閼伽の時は獻ずは布施の時は布施を供ずるは必ず後に用ふ、初心者は四度の內八行道と金剛界の加行には後に胎藏界の加行には護摩と鈴なし、初は自行には後に鈴あり、已達は自行には澤鈴を振る、方は多分後鈴を振らず、若し振るは左手に金剛盤を右手に金剛盤を持て二切に振るなり、左は二切に安しなり、燒香の間に二つ三つ靜かに振り後にカラ〳〵と振り終るなり。

本誓を捨てざるが故に　我が業事を證成す。(朱)(一)閼伽の次に布施を獻じ、次に後鈴　○次に讃　四智　唵嚩曰羅薩埵嚩、僧賀羅賀嚩曰羅、羅怛曩、摩努多覽、縛曰羅、達磨誐也奈、嚩曰羅羯磨、迦路娑嚩　○次に普供養印　唵阿謨伽、布惹麼抳、跛納麼、嚩曰斡、怛他蘖多、尾路枳帝、三滿多、鉢羅薩羅吽　○次に三力偈　合掌　以我功德力　如來加持力　及以法界力　普供養摩訶毘盧舍那佛　兩部界會　諸尊聖衆　護法天等　所設妙供　哀愍攝受　護持弟子　滅罪生善　無邊善願　決定圓滿　○次に禮佛　金剛合掌　南無摩訶毘盧舍那佛　南無阿閦佛　南無寶生佛　南無無量壽佛　南無不空成就佛　南無四波羅蜜菩薩　南無十六大菩薩　南無八供養菩薩　南無四攝智菩薩　南無金剛界一切諸佛菩薩　南無大悲胎藏界一切諸佛菩薩　○次に隨心廻向　金剛合掌、但し香鑪(朱)次に後夜の偈打磬次に打磬有り之を取る。　所修功德　廻向三寶願海　廻向貴賤靈等　廻向一切神等　廻向三界天人　廻向聖朝安穩　所修功德　廻向護持弟子　滅罪生善　增長福壽　無邊善願　決定圓滿　廻向房內安穩　諸人快樂　廻向天下法界　平等利益　廻向

施法界　廻向大菩提

○至心廻向　（朱）念珠を置く。　○次に五悔　（朱）金剛合掌　懺悔し隨喜して福を勸請したてまつる

願くは我れ菩提心を失はずして

諸佛菩薩妙衆の中にをいて　常に善友となつて猒捨せず

八難を離れて無難に生じ　宿命住智をもて身を莊嚴し

愚迷を遠離して悲智を具し　悉く能く波羅蜜を滿足す

富樂豊饒にして勝族に生じ　眷屬廣多にして恒に熾盛なり

四無礙辯、十自在　六通、諸禪悉く圓滿して

金剛憧及び普賢の如くならん　願くは讃し廻向したてまつること亦た是の如し

大悲毘盧舍那佛に歸命し頂禮したてまつる。

○次に解界　○地結　（朱）常に念珠所にを解かず。　唵枳里枳里嚩日羅嚩哩步羅滿駄滿駄吽發吒

○四方結　唵薩囉薩囉嚩日羅、鉢羅迦羅吽發吒　○虛空網　嚕尾娑普羅、捺羅乞灑、嚩曰羅、半惹囉、吽發吒　○火院　唵阿三莽儗寧、吽發吒　○降三世　唵蘇婆你蘇婆吽藥哩訶拏藥哩訶拏、吽藥哩訶拏、婆耶吽、阿曩野斛、婆誐虎嚩曰羅、吽泮吒

（一）或はいふ、次に三摩耶を結び一誦し奉り手を開き結ぶ一度外縛引開す。

（二）或はいふ、次に羯磨を結び三たび之を誦し奉り三たび手を開き中指を入れず、外縛して二地・二空端合せて三度引開す。

（三）（朱）次に三昧耶を結び一誦を奉り手を開き結ぶ。外縛を開いて中指を入れず。　唵縛曰羅穆　三摩耶穆　一度胸に塗る。

（三）（朱）次に羯磨を結び三たび之を誦し奉り、手

○次に偈を誦す。　現前の諸の如來　救世諸菩薩　大乘敎を斷せずして　殊勝位に到れば

唯願くは聖天衆　決定して我れを證知したまひ　各の隨所に當て安し　後ち復た哀赴を垂れたまへ。

○次に奉送の契　（朱）針印に花を挾みて壇中に投ず。　唵跋折羅薩埵牟　（朱）故僧正御房の御次第に云く、二手外縛して二中指立て合せ其の端に花を挿みて壇中に投ず。　○次に寶三昧耶　外縛して風空實形に作り分て繫靈甲冑を結べ。　唵嚩曰羅、羅怛那毘訖者鈴、薩嚩母捺囉咩捺哩稱矩嚕嚩羅、迦嚩制曩梵　○次に齊掌三拍　唵嚩曰羅、覩瑟也斛

○次に三部被甲　○佛部　合掌して二風を開いて二火の上節に附け、空を以て風の下文を捻せよ。　唵怛他誐都納婆嚩耶、娑嚩賀　○蓮華部　虛心合せて大小指を逢せて未開敷に作れ。　唵、跋娜謨納波嚩耶、娑嚩賀　○金剛部　二手左右に覆せ仰けて背を合せ相差へ、右の大指を以て左の小指に又へ又た同じ、中間の六指博けて手腕に着く、三昧印の如し。　唵嚩曰盧納婆嚩耶、娑嚩賀　○被甲　兩の地水各の内縛し火相ひ立て風は屈して三昧の如くし空並べ立て水を押す。　唵嚩曰羅、儗你、鉢羅捻、跋跢野、娑嚩賀

○次に禮佛　○次に出堂

（朱）御本に云く　法皇の御製作なり、廣澤の諸流の傳受本なり云云

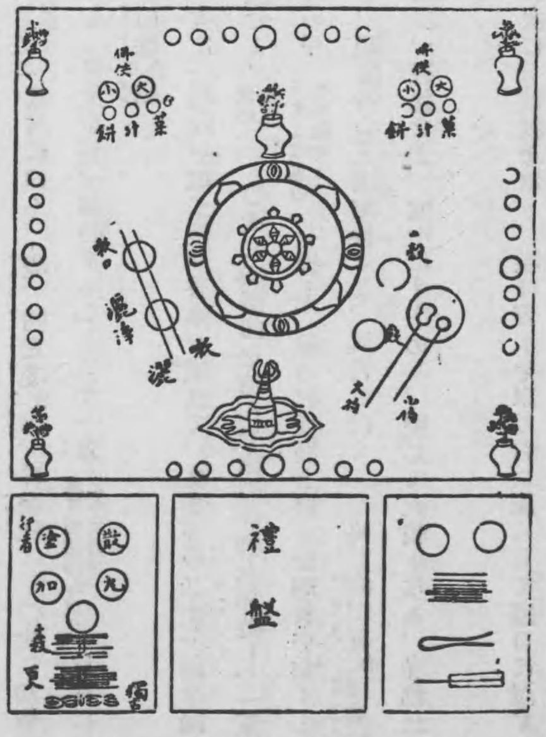
御本に云く　寛永十六天秋の日、仁和寺心蓮院の本を以て寫功し了る。　小池坊權僧正秀算

（朱）安永四乙未年。潤十二月之を寫し奉り了る。　金剛末資戒定拳

國譯金剛頂經蓮華部心念誦次第 終

國譯息災護摩次第

護摩壇の圖



護摩の支分を揭ぐれば、先づ壇一面、脇机二脚、禮盤、爐一口、大小杓二本、大器五、即ち飯食と五穀と酒水と嗽口と塗花器なり。蘇油器一、小器五、即ち塗香、芥子、散香、丸香、塗種器なり、花瓶五、香藥五寶、五香、五藥、五穀、以上甘糖香藥は今は中瓶に結び付く、火箸一本、鬲一柄、乳木長さ五寸六分即ち八指の量なり檀木八寸四分、乳木は一座に八百枚一把十二枚一把、檀木は一座に三十六枚なり護摩につき小野方は建立軌に由りて胎藏の次に之を行し、廣澤は瑜伽護摩の軌に由りて金剛界の次に之を行す。

本次第の作者は分明ならず

本次第には特に支分を説明すべきなるも紙數限りあり今之を略す。

(一)次に着座に登禮盤以後念珠を三遍四遍にし虚心合掌中に唱へ念珠の明一反を左の脇机に置き其の上に獨鈷を置く。

(二)加持云云　左手念珠獨股を取り左手に數を記し右手三股の印にて明を誦す。

(三)唵羅娜云云　文殊の眞言。

(四)散杖　傍註に左方とあり。

(五)或は云云　此の說を取らず。

(六)定印云云　外縛を仰げ二風を背合す、之れ彌陀定印なり。但し護摩次第には只定印とあるは皆彌陀定印なり。

(七)散杖云云　之れ嗽口の方なり、先づ右手にて外の散杖を取り器の緣を九つ打つ、即ち初に一、中間七、

○先づ禮佛　○(一)次に着座に(二)加持灑淨香水。三鈷印を結び軍荼利の心眞言を誦し、加持すること二十一遍(或は獨鈷杵を以て之を加持す。)眞言に曰く　唵、阿密哩二合諦、吽發吒　○次に加持嗽口香水　右手金剛拳にして進度を舒べ加持すること二十一遍(或は獨鈷杵を以て之を加持す。)眞言に曰く　(三)唵、嚩羅娜、嚩曰羅二合曇

○次に(四)散杖を取て灑淨香水を攪きて、そ(五)の各の二十一遍を誦し、即ち諸物の上に散灑せよ。(常の如し)　○次に羯磨印を結んで諸の供物を加持し、二手各〻禪智を以つて戒方の甲(五)(或は檀惠の甲を捻せよ。)を捻し、餘の三度開き竪て金剛杵の如くし、印相交へ右、左を押し、順逆各の三遍加持せよ、眞言に曰く　唵、嚩曰羅二合羯磨撿平　○次に(六)定印を結び、觀想せよ、爐中にそ字あり、變じて火輪となる、赤色三角形にして法界に遍すと。

○次に(七)散杖を取り、嗽口香水を以て右に旋らして爐口に灑ぐこと三遍せよ(△廻さず直に之を灑げ。)　○次に(八)獨鈷杵を取り三度抽擲して、吉理吉理の眞言を誦し、爐口を加持すること三遍せよ、眞言に曰く　唵、吉理吉理、縛曰羅二合吽發吒　○次に(九)杵を以

て大金剛輪眞言を誦し、諸の供物を加持すること七遍せよ(是れ諸の供物の闕少を補ふの意なり。)(△順逆に加持す)

曇莫悉底哩也、四合地尾二合迦引南、引但他蘖跢引南、引暗尾囉而、尾囉而、麼訶斫羯羅嚩曰哩、二合娑跢娑跢、娑囉帝、娑囉帝、哆囉二合以、但囉二合以、尾馱麼你、三畔惹你、但邏二合磨底悉馱、引儗哩耶二合但嚂、娑嚩訶

○(二)次に覽字觀乃至金剛持遍禮　○次に表白神分　○次に五悔、勸請等　○次に供養法(△四無量觀乃至散念誦護摩畢て後供養を行ず。)　○次に護摩。第一火天段(△獨古を取る)

○先づ支分等を置き改む。鈴、五鈷を取て壇の左方の角に置き、同じき傍に火舍を置き、左右に閼伽器各の一口、塗香花の奥に置き、爐邊に(三)散香、丸香、藥種等の器三口を置き、金剛盤上に(三)十二枝乳木を置き(結縛を解け)脇机の下に打鳴を置き、打鳴の跡に盛花器を置け。

○次に定印を結び觀想せよ、我が心月輪の上にそ字あり、變じて三角の火輪となる、我が身擧體火輪なり、此の火輪變じて白色の火天身となる、四臂具足し火焔身に遍ねし、是れ遍法界火身なり。此の觀を作し已て、(四)護摩眞言一百八遍を誦せよ、眞言に曰く　唵、阿哦那、二合曳扇底迦、娑嚩二合引訶

後一つなり、右に旋らすとあれども灑淨の如くにはあらず九つ叩き了りて散杖の端を少し儘の方に三度擧ぐる計りなり。

(八)獨股杵　左の手の獨股を右に移して三度抽擲、後に吉哩吉哩の明にて加持す先づ行者の右の方は之れ順、行者の左の方は之れ逆此くして爐口を加持す。

(九)杵　順逆に七反之を加持す。之の加持了りて念珠獨股を脇机に置く。

(一)次に覽字觀云云　覽字觀より持云云　邏迦は金剛界次第の如く之を修す。

(二)散香云云　品字の如く(梵字)を置く。

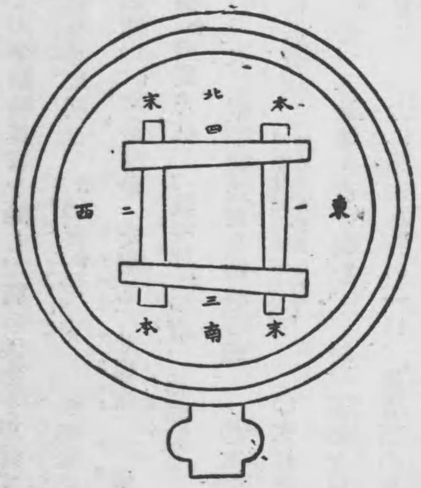
(三)十二枝　一座の行法に百八枚一把と十二枝一把とを要す、その中の一把を取る。長さ五寸六分。

(五)護摩眞言左の手念珠を持し右の手念珠を停し三珠を正念誦す百八反誦めての之を誦くの時の如く蟠入れげて盧合の中に捧げ唱へて至心願等ふ。其後の珠を持ち加へて。

○次に珠を捧げ祈願して曰く　至心發願　唯願火天　納受護摩　當賜成就

○次に法界定印を結び、三平等觀に住せよ、謂く本尊爐壇行者、各の身口意あり、三密平等にして法界に周遍す、本尊口、爐壇口、行者口、受用供具、食噉すること是れ同じ、本尊智火、爐壇智火、行者智火、同照見性、煩惱を燒盡す、之を三和三平等といふ。

○次に(一)爐中に薪を積め　十五枝を五重に之を積め、先づ四枝を以て井に作り、次に二枝を横たへ置き、其の上に九枝を以て三重に積め、謂く一重に各の三枝なり。



○(二)次に火を燃して薪に付けよ。　○次に扇を以て火を扇ぎ觀想せよ、扇上に𑖀字あり、黑大風輪となり、火輪法界を扇ぐ、眞言に曰く　曩莫、三滿多沒馱南、唵　○次に(三)灑淨香水三度。　○次に火天を(四)勸請して爐中に坐せしむる法。

右手に一花を取り火天の小眞言を誦し、爐中に投じて(五)定印を結んで觀想せよ、此の花爐中に至て荷葉座となる、座上に𑖀字あり、變じて寶瓶となる、寶瓶變じて火天となる、其の身白色にして四臂を具足せり、右の一手は施無畏、第二手には數珠を持し、左の第一手には仙杖を執り、第二手には軍持を執る、火焔身に遍ずと。是の觀を作し已て火天の印を結び、(一)左手を以て右の手腕を握り、右手は掌を舒べて外に向へ、禪度を屈して掌中に横たへ在き、進度鉤の如くして三度來去せよ、眞言に曰く　(二)眞言の末に召請の句並に四攝の明を加へよ。　唵、阿哦那二合曳、曳醯曳四、嚩吽鑁斛、娑嚩二合訶引　觀想せよ、曼荼羅本位の火天、爐中所觀の火天に冥會すと。

○次に嗽口香水三度　○次に(三)塗香三度　火天の小眞言を用ひよ。　唵阿哦那二合曳、扇底迦、娑嚩二合訶引　觀想せよ、火天の口に入り心蓮花に至るに、遍身中より無量の塗香雲海を流出して、一切の佛、菩薩、緣覺、聲聞及び一切の世天を供養すと、已下の供養眞言運心之に准知すべし。但し塗香の兩字を改めて次第に其の別名を稱へよ、所謂る乳木、蘇油、飯食、五穀、白花、丸香、散香、藥種等なり。

○(四)次に大杓蘇油三度　○次に小杓蘇油三度　○次に乳水三度　△一度に三枝を取り先づ末、次に本、蘇油に攪れて之を燒け。　○次に大杓に飯三度　○次に小杓に飯三度　○次に大杓に五穀三度　○次に小杓に五穀三度　○次に大杓に飯五

(六)灑淨香水は全く嗽口の如し、一度に九つ打ち攪げ三度灑ぐ。

(七)勸請右手に盛花器の一葉を取り爐中に投ぐ。

(八)定印彌陀定印にして火天の尊の種子、三形本尊を觀ず。

(一)左手云云左手に念珠を持ち、獨股を摺ち、右の腕を提り、總じて護摩の間は念珠獨股は左に持す。

(二)眞言云云召請火天の句即ち𑖀𑖭𑖀𑖭𑖀𑖭𑖀𑖭を結び召請エイキを加へて風輪を召くこと三度次に四攝の印を結び、下ソワカを唱ふ、次に弱吽鑁斛合金剛を唱ふ、次に召請四攝之に準ず。

(三)塗香三度　火天の眞言を以て三度に取り三度に塗る。

(四)次に大杓云云右手を以て飯五

穀の器に置く。所の大小の杓を取り、小杓を右器に上置く。大杓を左手に大器に置く。次に大杓を左手に大器の末に移し、大杓を左手に小器の末に方を蘇油の右手器の上に掛け、杓を持ち、蘇油を酌み、杓を入れ、こんで大杓に入るにこれを小器の杓の末に三度方を蘇油の器に掛け、柄を蘇油の器の闕伽器に掛け、其の後に作り、右手を不動の印、左手に作りの印を持つ。此の印は大指を以て火天の左手に念じ、亦火天の珠を取り、獨股を持ち、左手に結び、右手に添へて蘇油の印を腕程なる爐中に供養す。

(一)普供養云云、(二)明は奄を除く、祈願金剛合掌。

○次に小杓に五穀三度　○次に花三度　○次に丸香三度　○次に散香三度

○次に乳種三度　○次に大杓に蘇油一度　○次に(一)普供養印を結べ（金剛合掌して、二頭指を並べ立てよ、眞言に曰く。）

奄、阿上謨引伽、去布惹自羅の反、引麼抳、尼慈の反跛納麼、二合縛曰囉、二合引二怛他去蘖多、尼路引枳帝、三去滿多鉢羅二合薩羅吽引四

○次に(二)祈願に曰く　至心發願　唯願火天　納受護摩　當賜成就　○次に嗽口香水三度　○次に爐中の火天を(三)請出し、本位に歸せしむる法。右手に一花を取りて火天の小眞言を誦し、爐外火天の方（東南の方）に投せよ。　觀想せよ、此の花曼荼羅の火天本座に至り、方さに荷葉座となると、即ち(四)火天印を結べ。前印の如し、但し禪度を以て戒度の甲上に捻し、進度外に向へて三たび撥へ、眞言に曰く（眞言の末に撥遣の句を加へよ。）　奄、阿哦那二合曳、蘖捨蘖捨、娑嚩二合訶引　觀想せよ、火天火中より撥遣せられ、曼荼羅の本座に還り着きたまふと。

第二本尊段

○先づ(五)積薪三枝　○次に灑淨　○次に加持供物（羯磨印明常の如し。）

○次に加持爐口（吉理吉理の眞言前の如し。）　○(六)次に本尊を勸請して、爐中に坐せしめたてまつる

(五)積薪先づ右手を以て火箸に挿み、三支を取りて檀木を左手に移して、三支を火に以て本尊を右手に挿み、一度に末を束にして積む。前の三支を積むこれに重ねて第三段の九支を積む。竪横に積むなり。下皆之に准ずる。

(六)次に本尊云云是れ自觀なり。彌陀定印。

(一)本尊印是れ自加持の印明なり先づ右の頼に入れ、慈救呪を左の頼に拔き、返て右の乳の程にて返て四處加持す。

(二)本尊慈救云云呪一返。定印　彌陀定印。

(五)本尊印眞言本尊不動明王の故に二手鈷に作り左手は念持獨股を持

法。　凡そ本尊を觀ずるの法、必ず先づ自觀を修せよ、謂く自身本尊の相となるなり。(一)定印を結んで觀想せよ、我が身中に心月輪あり、本來自性淸淨にして、阿字本不生の理なり、此の心月輪上に本尊の種子の字あり、變じて三昧耶形となる、變じて本尊の身となる、相好威儀皆な悉く圓滿すと。是の觀を作し已て(二)本尊印を結び、眞言を誦して四處△心・額・喉・頂を加持せよ。

右手に一花を取て(三)本尊の眞言を誦し、爐中に投じて(四)定印を結んで觀想せよ、此の花、爐中に至て寶蓮花座となる、座上に本尊の種子の字あり、變じて三昧耶形となる、變じて羯磨身となる、相好圓滿せり。

又た(五)本尊印眞言を用ひよ（印を以て三たび招き、眞言の末に召請の句並に四攝の明を加へよ。）　觀想せよ、曼荼羅の本尊、爐中所觀の尊に冥會して、一體無二なりと。

○次に(六)嗽口香水　○次に塗香三度　本尊の眞言を誦して、眞言の末に扇底迦娑嚩訶の句を加へよ（已下の供物之に准ず。）

○次に大杓蘇油三度　○次に小杓蘇油三度　○次に乳木三度　○次に大杓飯三度　○次に小杓飯三度　○次に大杓五穀三度　○次に(七)小杓五穀三度　○次

に花三度　○次に丸香三度　○次に散香三度　○次に藥種三度　○次に雜和諸供物等　散香半分を飯器に入れ、丸香藥種全分、盛花四五房、次の如く同器に入れよ、即ち扇を叩いて承仕を喚んで、飯、五穀、香花等を雜和して、二器に入れ分けしめよ。

○次に百八の乳木を燒く　金剛盤上より取り去り、本乳木を置き替へよ、即ち右手に取て蘇油に拠れ、本尊の呪を誦して之を燒け。　○次に(一)五枝六度　○次に二枝一度　○次に雜和供物三度　奥の方の器に小杓を以て之を供へよ。　○次に五枝十度　○次に六枝一度　○次に雜和供物三度　○次に五枝四度　○次に雜和供物三度　○次に柄の上に蘇油の器を取て爐の下に置け　○次に加持物の器を取て金剛盤上に置き、不動一字の明を誦して加持すること七遍せよ　△獨古を以て之を加持せよ。　○次に觀想せよ、本尊の呪を誦して(二)加持物を投ぐること一百八遍せよ或は千遍　○次に本尊の口に入りて心蓮臺に至るに光明輪となる、遍身の毛孔より光明輪雲海を流出して、無邊の世界に至り一切の佛・菩薩を供養す、及び一切の三惡趣の苦惱を除くと。是の念を作し已て慇懃に祈願せよ。

○次に蘇油器を取て柄の上に返し置け　△又た乳木を取て金剛盤上に返し置け。　○次に大杓蘇油一度　○

其の左右鉢に作り、中へ三返に誦し末に召す。請ぐ共に召ぐ。

(九)之を召ぐ。嗽口常には嗽口呪ラダチンバラダを唱へ

(七)九打ラダチンバラダを唱へ三洒す。

(八)小杓云古來大小杓云小杓を越えず。小杓二杓を越えず。

(一)五枝一度　(二)五枝六度　(三)乳木五枝一度　(四)大杓蘇油一度　(五)蘇油皆之に準ず。

(六)大杓及び穀類を越えざる方に置く。

(七)小杓は今此に返し置く。

(八)小杓は今此に返し置く。

(九)小杓は今此に返し置く

第に開敷す、其の花座の上に三十七尊の種子の字あり、變じて三十七尊となる、身相微妙にして、一一の諸尊に無量の眷屬あり、惣じて十佛世界の微塵數の諸尊海會なり。即ち大日智拳印を結べ。(一)金剛拳に結んで等引に兩分し、右金剛拳にして、以て力端を握れ、眞言に曰く（眞言の末に召請の句並に四攝の明を加へよ。）唵、縛日羅、二合駄引都鑁、曳醯曳咽、弱吽鑁斛、娑嚩賀　觀想せよ、本曼荼羅の三十七尊、爐中所觀の聖衆と冥會して、大日如來に引かれて、五部諸尊皆な悉く集會したまふ。

○次に嗽口三度　○次に塗香三度　○次に(二)大杓蘇油三度　○次に小杓雜和供物三度

○次に乳木三度　○次に大杓雜和供物三度

○次に大杓蘇油一度　○次に普供養印明　○次に祈願して曰く　至心發願　三十七尊　納受護摩　當賜成就　○次に嗽口三度

○次に爐中の諸尊を請出して、各の本位に歸らしめたてまつる法。(三)右手に數多の花を取り爐の後方に投げて觀想せよ、本位處に至て各各の座となると。即ち大日印を結んで眞言を誦せよ（印を以て三たび攪し、眞言の末に攪遣の句を加へよ。）觀想せよ、大日如來に引かれて諸尊皆な悉く本座に還へり着きたまふと。

(一)金剛拳云云　先づ兩手金剛拳に作り、兩方へ引き分け、後智拳印を成す。印の惣體を以て三度動し召く、次に八指を合し、印明、次に金剛ソワカと唱ふ、亦觀文を唱ふ。

(二)大杓云云　先に大、小杓覆せて大に、小は左になれる故に、今手を覆せて取而して手を仰げ、小は右、大は左に成るなり。

(三)右手云云　三四葉一度に取り、チンバザラダドバンギヤツシヤ〳〵ソワカ。

第四後火天段

○先づ(一)積薪三枝　○次に扇火　○次に灑淨　○次に加持供物　○次に加持爐口　○次に勸請火天　○次に嗽口三度　○次に塗香三度　○次に(二)大杓蘇油三度　○次に乳木三度　○次に大杓雜和供物三度

○次に小杓雜和供物三度　○次に大杓蘇油一度　○次に普供養印明　○次に祈願　○次に嗽口三度　○次に請出火天

第五世天段

○先づ積薪（六枝を二重に之を積む。）

○次に扇火　○次に灑淨　○次に加持供物　○次に加持爐口

○次に(三)十天曜宿等を勸請して爐中に會坐せしめたてまつる法。　右手に(四)數葉の花を取て爐中に投げ、定印を結び觀想せよ、此の花、爐中に至て不動尊の座及び十天曜宿等の荷葉座となる、一中央不動尊の座上に𑖦字あり、變じて四辟不動尊となる、青肉色なり、二手金剛拳にして頭指、小指各の曲げ鈎形の如くして口の兩角に安ず、相牙の如し、右手に刀を持して竪てしめ、左手に索を持し半跏右、左を押して盤石上に坐す

(一)積薪云云　前後の火天段勸請の種子三形等全く同の觀文なり。

(二)大杓云云　此の時前の如く大小杓を打返して杓息に置く、即ち大杓は右に小杓は左に成り、杓之供養印明の段に小杓は左に成り、杓供養印明の段に小杓は左に成れば次に許りあり。故なり。

(三)十天　十二天の中の日月を除く。

(四)數葉の花　此の時は明なし。

威焔の光明あつて遍身火天等の如し、座上に各の𑖀字あり、變じて十天・七曜・二十八宿となる、色相威儀皆悉く分明なり。

即ち(一)大鈎召印を結んで、先づ不動の呪を誦し、次に大鈎召の明を誦せよ（風を以て三たび招き眞言の末に召請の句並に四攝の明を加へよ。）　觀想せよ、曼荼羅の本位不動尊、及び十天・七曜・二十八宿、爐中所觀の明王天衆等と冥會すと。

○次に嗽口三度（十天等を想ひ、同時に嗽口せよ。）　○次に(二)塗香三度（不動の眞言を用ひて同時に納受せよ。）　△器を取ること三度爐中に入れ盡せ。

○次に蘇油を取て雜和供物に入れ加へよ

○次に辨事眞言を以て加持すること七遍。

師傳に云く、(三)施甘露の印を結んで加持すること三遍せよ、眞言に曰く　曩莫三曼多、沒駄南、鑁

○次に小杓を取て不動の眞言を誦すること三度之を供せよ。　○次に十天曜宿等の眞言を誦すること一度して之に供せよ。（始め東方帝釋より順に廻りて之を供せ。）

(一) 大鈎召印　内縛右の風を舒べ、先づ慈救呪一返を唱へ、其印にて大鈎召明を唱へ、末にエイムイヤイキを加へ、三び召ぎ、次に四攝の印明、次に金合してソワカを唱ふ。

(二) 塗香三度　右手を以て不動一字三返唱へ、三度に左爐中に投げて、左手を以て左脇机の加持物の器の上に返し重さぬ。

(三) 施甘露云云　施無畏の印なり。

東方帝釋天眞言　唵、印捺羅二合耶、扇底迦、娑嚩二合訶。　東南方火天眞言　唵、阿哦那二合曳、扇底迦、娑嚩二合訶。　南方焔魔天眞言　唵、焰摩耶、扇底迦、娑嚩二合訶。

西南方羅刹天眞言　唵、乃哩二合底曳、二合扇底迦、娑嚩二合訶。　西方水天眞言　唵、嚩嚩拏野、扇底迦、娑嚩二合訶。　西北方風天眞言　唵、嚩耶吠、（微洗の反）扇底迦、娑嚩二合訶。　北方毗沙門天眞言　唵、吠室羅、二合嚩拏野、扇底迦、娑嚩二合訶。　東北方伊舎那天眞言　唵、伊舎那耶、扇底迦、娑嚩二合訶。　上方梵天眞言　唵、沒羅二合啓（敢心の反）麼寧、（尼奚の反）扇底迦、娑嚩二合訶。　下方地天眞言　唵、畢哩二合體、（地以の反）微曳、二合扇底迦、娑嚩二合訶。　七曜眞言　唵、蘖囉二合醯、濕嚩二合里耶、鉢哩二合跛多、而瑜二合底（丁以の反）摩耶、扇底迦、娑嚩二合訶。　二十八宿眞言　唵、諾乞灑二合担羅、二合涅寧吉（寧吉の反）須那你曳、扇底迦、娑嚩二合訶。

○次に(一)普供養眞言を誦すること三度之を供せよ（十天等の眷屬のためなり。）　△若し餘ほ餘あれば、小杓を以て爐中に入れ盡せ。

○次に(二)祈願に曰く　至心發願　不動明王　十天曜宿　納受護摩　當賜成就。　○次に嗽口三度

(一) 普供養云云　供物殘あらば悉く爐中に供ず。
(二) 祈願　金剛合掌。

○次に爐中の十天曜宿等を請出して本位に歸せしめたてまつる法。右手に數葉の花を取り、爐の(一)外方に投げよ △中瓶の邊なり。 觀想せよ、此の花各の本位に至て座となると。即ち(二)大鉤召の印を結んで(三)不動の呪を誦せよ 風を以て三たび撥し、眞言の末に撥遣の句を加へよ。 觀想せよ不動尊に引かれて諸天等本位に還り着きたまふと。

○次に(四)拾落物　○次に扇火　○次に嗽口三度 或は灑淨　○次に元の如く支分等を返し置く　○次に一字眞言 △百遍　○次に後供養、解界、撥遣等常の如し。

○次に禮佛　○出堂

寛永十六夷則日、仁和寺心蓮院の本書を以て之を寫し畢る。　小池坊　權僧正秀算

天和三癸亥年五月十六日、仁和寺眞乘院に於て傳授し交合し了る。　僧正尊如

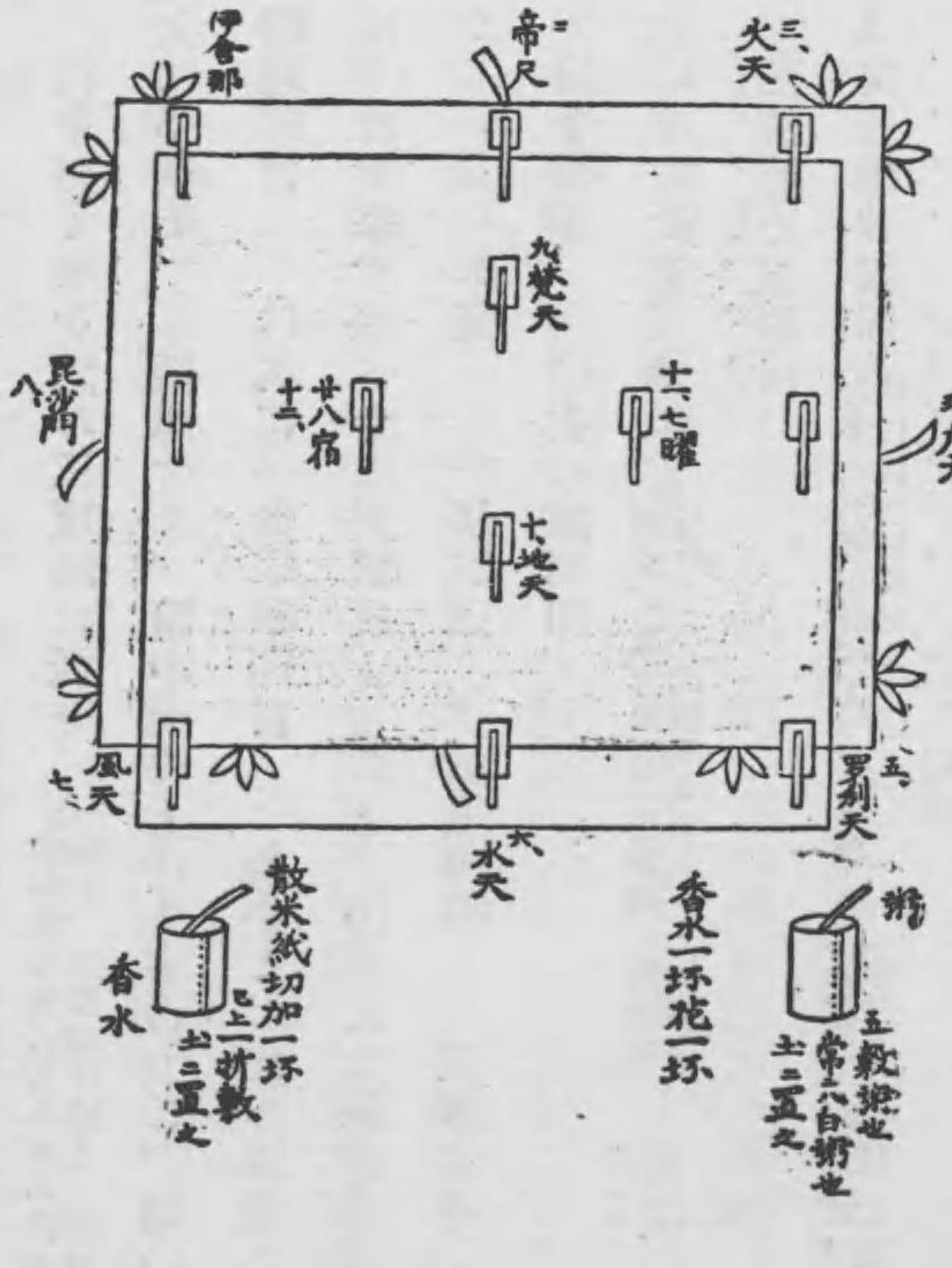
國譯息災護摩次第 終

(一)外方 爐の後方なり、投る時眞言なし。
(二)大鉤召云云 右の風指を以て三度撥す、慈救呪の末にギャシャヤ〳〵ソワカを加ふ。
(三)不動の呪 慈救の呪。
(四)拾云云 箸を以て爐中の散落物を拾ひて之を燒く即ち扇を以て之を扇ぎ燒き盡すなり

國譯神供次第

△(一)七日に三度なり、數日有らば十日に一度なり。

幣十二本、天等の位に隨て之を立つること圖の如し。



神供壇の莊嚴は圖の如し、本式は清淨なる露地に沙を敷き柱を立て注連を引くなり、然れども雨天等に難儀の故に四角の箱に砂を入れ柱を立て柱の長、幣串も定量なきも、普遍には方一尺二寸九分、高さ五寸、柱の長一尺六寸三分、箱の四角に四本柱を立つ、柱は四角にして上を四方より削り次に柱の中に削り目三ありて獨股の削り目の如くす、而して上分は六分、次の二は四寸三分とす、幣串は護摩の檀木を用ゐ先を割り幣紙を挾む、十二本なり、幣紙は先は幅一寸五分、長三寸。注連繩は藁藥にて左り繩なり、五色の糸を引く如く艮の方より始め一重宛卷きて下に取り引き納は男結にす、房花は五葉の花を繩に掛け一方に二房宛、注連に掛る紙は幅五分長五寸六分、二に折りワナに掛け下ゝ方にて一ネヂするなり、粥は略にては洗米に水を入る、當は常の抹香、花は切花、散米は散紙を細に切り入る。香と散米と切花は土器に入る。供物は丸折敷に置く。

(一)七日 四度の行者は初夜の護摩了りて自修す、開白と中日の初夜と結願の前夜となり。

○(一)先づ三部、被甲、護身　△(二)ば、東方に向つて坐す、東方若し便宜なく或は壇所の方、或は時處に向ふなり。　○次に(三)加持香水

杓を以て水を酌み三度地に沃せ　△杓を取て桶に入れ水中に散杖の如くし、主者を誦し、三度地に寫し、淨地の義を想ふなり。

○次に(四)敷柴　觀想せよ、壇中柴の上に〻字ありて、諸の不淨を燒淨す。　○次に淨地印言　○次に(五)如來拳印言　觀せよ、此の地變じて瑠璃地となる。　○次に(六)投葉華、想へ十二天葉座となると。○次に大鈎召印言　○次に金剛合掌して曰く　我今奉請　一切冥道　諸鬼神等　王城鎮守　大小諸神　降臨此座

納受供養　○次に四明印

○次に加持飲食三鈷印　△粥並に散米飯では花香等皆なこれを加持せよ云云　飯食を加持す　曩莫、薩嚩怛他蘗多、縛路枳帝、

唵、三波羅三波羅吽

○(八)次に施甘露印　右手の五指を舒べて外に向へ加持せよ。　△三遍　曩莫、蘇嚕鉢耶、怛他蘗多耶、怛你他、

唵、蘇嚕蘇嚕、鉢羅蘇嚕鉢羅蘇嚕、莎訶

○次に(九)施乳海　右の掌を食器の上に當て臨めよ。　曩莫三曼多、沒馱南、鑁　△七遍　觀せよ飲食の中に

ま字あり、甘露法食となる。

○次に(一〇)水三度　○次に香三度　○次に華三度　○次に散米三度　唵三波羅三波羅吽

○次に粥を酌み十二天各別の眞言を讀み、各の本方に供し、以て(一)殘る所の香花、散米、粥等和合し、唵、密止密止、毗舍南、蛩蛩、部馱南、莎訶三度を誦して丑寅の角に供し、殘りあらば皆な同じき角に寫すなり、諸魂冥衆同じく此の角に住するが故なり。

○次に又た水を供する三度　○次に普供養印言　○次に事由を啓白す　隨時なるべし。

△金剛合掌　敬て上天下界、天衆地類、郡內國中の大小諸神、當所の鎮守、眷屬部類、年中行疫、流行神等、別して本命元神、當年の屬星、北斗七星、諸宿曜等、惣じて當朝他土、權實二類、大小神等、慈悲境界を驚して白して言さく　(二)已下隨時の願の旨趣を述すべし。

○次に心經　△無限の大悲法施の心を發せ　發菩提心眞言　三昧耶眞言　尊勝陀羅尼　南無寶勝如來　南無妙色身如來　南無甘露王如來　南無廣博身如來　南無離怖畏如來

○次に撥遣　右手を以て彈指するなり。　△拳を仰く　唵嚩曰羅目及穆

國譯神供次第　終

(一)或は三部被甲の前に「先づ塗香」あり、此の時踏蹈して之を行ず。　(二)東方壇波羅蜜の方なり。　(三)加持云云　偖に云く右三古印軍茶利の小呪廿二反を誦して之を加持すと。　(四)敷柴　右手を以て細割せる付松二三枝を取り繩の下より壇の中央に敷く。　(五)如來拳印　チンポクケン七處加持、明七反、次に觀文(六)投葉華　十二天等の房花十二方位に隨て次第に之を一二三敷く、其の上に次第の如く幣を立つ。　(七)加持飯食　小三殷の印明三反右に轉ず。　(八)次に施甘露印明三返三度印を回す。　(九)施乳海　右手五指を伸べ覆せて明七反、七度印を回して次に觀念す、水云云　(一〇)水云云　次の香次の華皆無胄にて供ず。　(一)殘る所云云　香花散米を粥桶に入れ攪き雜ぜて眷屬に供ず、明三返、次に三度供ず、次に行者の本命星、元辰星一杓宛供ず　(二)已下隨時云云　四度の行者なれば護持弟子悉地成就の旨を唱ふ。神供了りて幣供等箱の中にて之を燒く。

本次第の眞言は多く梵字なるも讀者の便の爲に弘法大師の胎藏梵字次第に依據して對譯文字とせり本次は大師御作となす。

(一) 加持云云　廿一反加持、次にも順逆各廿一反、次に洒ぐ。

(二) 劔印　左は胎拳。

(三) 二丸云云　二丸は二小、二赤二風指。

(四) 表白云云　神分了りて念珠香呂を置く。

國譯胎藏界念誦次第

○先づ普禮　○次に着座　○次に塗香　○次に淨三業、三部、被甲　○次に

○竹香香丸日丑

(一) 加持香水　右手劔印に作り、廿一返之を加持せよ。　曩莫三滿多縛曰羅赦啗　○次に加持供物　前の如く(三)劔印に作り順逆△念珠を持せる。　吽縛曰羅底瑟姹吽　○次に

に之を加持せよ。　○次に驚覺金剛起　二手拳に作り共に仰けて(三)二丸を鈎し結び、二赤を側め合せよ。　△念珠を置く。

(四) 表白神分　△金二打　○次に一切恭敬禮常住三寶

○次に入佛三昧耶　虛心合掌して、二頭を並べ立て五處を印せよ。　曩莫三曼多沒馱喃、阿三迷、怛哩三迷、三麼

曳娑嚩賀　○次に法界生　二手拳に作り共に仰けて二赤を側め合せよ。　曩莫三曼多沒馱喃、達麼馱睹、薩嚩

婆嚩句含　○次に九方便

△作禮方便

歸命十方正等覺　三世一切具三身　歸命一切大乘法　歸命不退菩提衆　歸

命諸明眞實言　歸命一切諸密印　以身口意清淨業　慇懃無量恭敬禮　歸命

頂禮大悲毗盧遮那佛

△出罪方便

我由無明所積集　身口意業造衆罪　貪欲恚癡覆心故　於佛正法賢聖僧　父

母二師善知識　及以無量衆生所　無始生死流轉中　具造極重無盡罪　親對

十方現在佛　悉皆懺悔不復作　△歸依方便　歸命頂禮大悲毗盧遮那佛

曩莫十方三世佛　三種常身正法藏　勝願菩提大心衆　我今皆悉正歸依　歸

命頂禮大悲毗盧遮那佛

△施身方便　我淨此身離諸垢　及與三世身口意　過於大海刹塵數　奉獻一切諸如來　歸

命頂禮大悲毗盧遮那佛

△發菩提心方便　淨菩提心勝願寶　我今起發濟群生　生苦等集所纏身　及與無知所害身　救

攝歸依令解脫　常當利益諸含識　歸命頂禮大悲毗盧遮那佛

△隨喜方便　十方無量世界中　諸正遍知大海衆　種種善巧方便力　及諸佛子爲群生　諸

有所修福業等　我今一切盡隨喜　歸命頂禮大悲毗盧遮那佛

△勸請方便　我今勸請諸如來　菩提大心救世者　唯願普於十方界　恒以大雲降法雨　歸

命頂禮大悲毗盧遮那佛

△奉請法身方便　願令凡夫所住處　速捨衆苦所集身　當得至於無垢所　安住清淨法界身　歸

命頂禮大悲毗盧遮那佛

△廻向方便　所修一切衆善業　利益一切衆生故　我今盡皆正廻向　除生死苦至菩提　歸命

頂禮大悲毗盧遮那佛

○次に轉法輪（二手共に五指を舒べて背を合せ、頭指もれの八指互に鉤し結びて、左右を以て右の掌に置き、右頭を屈して左頭と端を合せ五處を印せよ。）　恐歸命、嚩曰囉

但麼句舍

○次に無動金剛能成就明（左手五指を舒べ、衣頭相捻して三度結護せよ。）　曩莫三曼多縛曰羅赦、戰拏（一）唵□阿者

運迦拏者嚕沙駄耶、吽泮吒

○次に（二）勸請　△念珠を執る。（三）　仰願胎藏大日尊　八葉蓮臺諸如來　十三大會塵刹衆

救令輪者不動尊　兩部界會諸如來　外金剛部威德天　不越本誓三昧耶　降

臨壇場受妙供　護持弟子除不祥　滅罪生善成大願　天下法界同利益　△（眷屬を置く。）

（イ本に）（なし。）

○五大願　誓願斷除一切惡　誓願度脫一切生　誓願修習一切法　誓願奉仕一

切佛　誓願證得大菩提

○次に（四）虛空藏轉明妃　△金剛合掌　曩莫薩嚩怛他引蘖帝嚩、一尾濕嚩二合目契弊、二薩嚩

他三欠、四　嚩那蘖底、　薩頗合囉四鉢、五　誐誐娜劒、六　娑嚩二合賀

（一）唵の下、衣の對譯脫ぜるか。（二）勸請　香呂を取り金を打たず、五大願の誓願證得大菩提の句にて香呂を置く、次に金合して自他法界同利益を願へば、次に轉明妃は是れ晴明の時なり、後夜日中の時は初夜の時なり、用ゆる珠を取りて呂を取らず、金一打、次に至心發願より三力の了り迄金剛合掌なり自行には三時共に發願なり。（三）朱に云く、香呂を取り、金丁。（四）虛空藏云云本訳言の對譯は廣大儀軌上卷に載りて出す。

(一)三力了り て金一打、三力了り珠を置く、巳上前方便にして巳下は結跏座にす。

(二)初字門 一より九まで圓く觀ず、但し中央に合して一刄なり。

(三)法界生 金剛界の字觀の印の如し。

(四)上節に屬し云云 少し計り付け云ふ古形の如くす。

(五)字觀 觀じ了りて歸命をソワカ三返。

(六)三世不動三世降三世、三世降三世は降三世の大印なり。結び逆順三世各三轉大呪先二返、順に不動二返、先に降三世呪二返、順に不動二返、逆に降三世呪二返、順に降三世呪二返、逆に降三世呪二返、順に降三世呪二返、逆に降三世呪二返、順に降三世呪

變じて百光遍照王の布字と成る。　○次に滿足句金剛合掌阿鑁覽哈欠　自身即ち如來なり

○次に器界觀外縛して二頭・二頭端を立て合せ、掌を開き身に向へて臍に當てよ。相註　下方の空中に𑖭字あり、空輪雜色圓形となる、次上に𑖮字あり風輪黑色半月形となる、其の上に𑖯字あり、火輪赤色三角形となる、其の上に𑖰字あり、水輪白色圓形となる、其の上に𑖱字あり、地輪黃色方形となる、地輪の上に𑖲字あり、七金山となる、上方の空中に𑖳字あり、大日如來となる、臍輪の間より乳雨を流出して、山間に注降して八功德の香水海となる、海中に𑖴字あり、金龜となる、龜の背の上に𑖵字あり、五股金剛となる、其の上に𑖶字あり、大蓮花となる、其の上に鉢羅素吽鑁等の字あり、變じて妙高山王となる、其の形ち八角、四寶の所成なり。

○次に(一)五大前の如し、但し𑖭字を以て初となす。　○次に大海十輪仰け交へて緊しく轉ぜよ。　唵尾摩嚧娜地吽　○次に金龜前の印小指背を合せ、指を以て三度來去せよ。大　唵縛曰羅縛羅　○次に金剛手持花內五股印　縛縛曰羅幡抳

○次に持花藏八葉印　曩莫三曼多沒馱南阿　○次に須彌山內縛して腕を合せよ。　唵阿者攞吽

○次に五色界道外五鈷印　囉覽迦摩訶　○次に曼荼羅觀如來拳印　須彌山王の上に𑖷字あり八峯の樓閣となる、四門開通し七寶莊嚴せり、其の中に𑖸字あり、八葉蓮華となる、華臺上に𑖹字あり、率都婆となる、轉じて大日如來となる、身相具足して光明遍照す

(一)五大　依報の五大。

四佛、四菩薩、十三大會の聖衆、前後に圍繞して坐す七處加持常の如し。

○次に虛空藏明妃　○次に三力偈前の如し　○次に小金剛輪二手拳に作り、二頭二𑖺鉤し結び印を以て心上に安け。又た本尊像に觸れよ。又た虛空界に通して後、口に收めよ。　唵嚩曰羅斫訖囉吽。　○次に鉤內縛して右の𑖺を立て、鉤の如くし三たび招け。　曩莫三曼多沒馱喃、阿、薩嚩怛囉鉢囉底賀帝、怛他蘗多矩奢、冒地摎囉耶鉢哩布囉迦、娑嚩賀

○次に入佛三昧耶前の如し　○次に不動前の如し　○鈷印　𑖼　○次に怖魔右手拳に作り、𑖼を舒べて眉間に竪てよ

歸命、摩訶沫羅嚩底、捺奢嚩路、嗢婆吠、摩賀昧怛哩也、毗庾、嗢蘗底、娑嚩呵

○次に(一)大界虛心合掌して二𑖼を屈して掌に入れ、甲を合せ二𑖼を並べ立て、二𑖼の側を押し、二𑖼を立てゝ屬する勿れ。　歸命、麗魯補哩、尾矩囉、尾矩囉娑婆呵

○次に(二)南方無堪忍大護虛心合掌して、二𑖼を開き屬する勿れ。　欠　○次に東方無畏結護內縛して二𑖼を立て合せよ。

嚩　○次に北方壞諸怖大護內縛して二𑖼を立て合せ上節を屈して鉤の如くせよ。　博　○次に西方難降伏大護內縛して二𑖼か合せよ　索。　曩莫薩嚩怛他蘗帝毗藥、薩嚩佩也尾蘗帝蘗、尾濕縛目契蘗、薩嚩他、

嚩、欠、嚩、博、索、囉乞灑、摩訶沫麗、薩嚩怛他蘗多、奔尼也涅左帝、吽吽怛囉吒

怛囉吒、阿鉢羅底訶諦、娑嚩訶

○次に空網右の𑖼を以て左の𑖼の間に入れ、右の𑖼を以て左の𑖼の背を押し、二頭・二𑖼各の端相ひ註へ、二𑖼を以て二𑖼の側に附けて、印を覆せて頂上に於て

(一)大界　三轉明二反。遶順各

(二)南方云云　押紙に歸命并びに娑賀を加ふ。四大護皆之に準ず。

三度右に旋らせ。　唵尾娑普羅、捺羅乞灑、縛曰羅泮惹羅吽發吒。　○次に火院　二手五指を舒べ、左手を以て右手の背を掩ひ相ひ着けしめ、二頭を開き立てゝ右に旋すこと三匝せよ。　唵阿三莽儗寧吽發吒　○次に大三昧耶　内三鈷印、右に旋すこと三匝せよ。

唵商迦隷、摩訶三昧焰、娑縛賀

○次に(一)閼伽　不動鉤印一字明加持　曩莫三曼多沒駄南、誐誐曩三摩三摩娑縛賀。

○次に花座　八葉印　曩莫三曼多沒駄南阿。　○次に(二)振鈴　唵縛曰羅健吒都使也斛

○次に(三)中臺羯磨印　二手五指を舒べて相ひ重れ、右上に左下に二大指柱へ合せ、掌を仰けて臍下に當てよ。　冒地阿菩提心左哩也阿菩提行三

冒駄暗成菩提涅縛拏惡涅槃惡方便

○次に(四)大威德生　虚心合掌して二丑二頭開き立てゝ屬する勿れ。　歸命、嚂嗒、娑嚩訶　○次に金剛不壞　虚心合掌して二頭を並べて、二頭を風して端を合せ、二頭上に置け。　歸命、鑁嚩、娑嚩賀　○次に蓮華藏　八葉印　歸命、縛索、

娑嚩訶　○次に萬德莊嚴　虚心合掌して二丑を風して掌内に入れ甲を合せよ。　歸命、唅鶴、娑嚩訶　○次に一切

支分生　鉢印　歸命、暗惡、娑嚩訶　○次に法住　虚心合掌して二丑を開き立て屬する勿れ。　歸命、阿吠娜尾

泥、娑嚩訶　○次に世尊陀羅尼　虚心合掌して二丑を風して掌中に入れ甲を合せよ。　歸命、沒駄達囉尼、娑沒嚩

底、沫羅駄、曩迦履、駄囉駄囉、駄羅耶駄羅耶、薩鑁婆誐嚩底、阿迦囉嚩底、三麽曳、

娑嚩訶　○次に迅疾持　金剛合掌して先づ右を上にして三旋し、次に左を上にして三旋せよ。　歸命、摩訶瑜誐、瑜擬寧、瑜詣

誐嚩利、欠若利計娑嚩賀

○次に滿足一切智智　外五鈷印　曩莫三曼多沒駄南、阿尾羅吽欠。　○次に無所不至　虚心合掌して二頭を並べ立て、二頭を風して端を合せ、二頭上に置け。　曩莫薩縛怛他蘖帝毗庾、尾濕縛目契毗藥、薩嚩縛他、阿阿

暗惡。

○次に(一)百光王　前の如し　○次に入佛三昧耶　前の如し　○次に(二)淨法界　前の如し　○次に轉

法輪　前の如し

○次に大惠刀　虚心合掌して二頭を並べ立て、二丑を風して端を合せ、二頭上に置け。　歸命、摩賀鶴伽、尾囉惹、達麽、珊捺

囉耆、伽娑訶惹、薩得迦野、捺嚩瑟耻砌諾迦、怛他蘖多、尾目乞底、你扼多、尾囉誐

達麽你惹多、吽。　○次に法螺　虚心合掌して二頭を並べ立て、二丑を風して二頭上に絞へ。　歸命暗

○次に蓮華　八葉印　歸命、惡　○次に金剛大惠　外五鈷印　曩莫三曼多縛曰羅赦吽

○次に如來頂　内三鈷印　歸命、吽吽　○次に毫相　右手(三)拳に作り肩間に置け。　歸命、阿唅惹　○次

に(四)大鉢　左手裟裟の二角を取り、右手五指を申べ、小しき風して左手の上に置け。　歸命、婆

○次に(五)施無畏　右手五指を舒べて、掌を仰けて外に向へしめ、左手裟裟の角を執ること前の如くせよ。　歸命、薩嚩他、爾那爾那、佩野曩

奢那、娑縛賀

(一)百光王　金合なり。　(二)淨法界　前の法界生の印なり。　(三)拳　胎拳。　(四)大鉢　裟裟二角を取るは七條等なり、常の時の五條の點なり。裟裟には二角を取り、一角を取るは左手裟裟の角を取り、一角を付けざる方の儀なり。故に只だ前の法界定印なり。　(五)施無畏　左手の裟裟の角を取り、右手の乳の程に當て、右手施無畏の印也。

(一)鈎　常の大鈎召の印言にて三び召く。
(二)如來心　右の𑖨𑖨の間𑖨は左の𑖨𑖨に入れ餘は印文の如し。

○次に與願　右手五指を舒べ、掌を仰けて膝上に置き、左は尙は袈裟の角を執れ。　歸命、嚩囉那、嚩曰羅、怛麽迦、娑婆賀

○次に怖魔　前の如し　○悲生眼　右手拳に作りて𑖨を申べ、𑖨を以て𑖨𑖨の甲上を押し、左右の眼先づ右、次に左を拭ひ、明一遍せよ。　歸命、誐誐曩、嚩囉落、吃叉儞、迦嚕拏摩野、怛他蘖多、作吃芻、娑婆賀　○次に索　內縛して二𑖨圓かに合せよ　歸命、係係摩賀播捨、鉢羅娑嚩、那里也合薩埵駄睹、微謨訶迦、怛他蘖多、地目吃底、你佐多、娑婆賀　○次に(一)鈎　大鈎召印明、前の如し。　○次に(二)如來心　內縛して右の𑖨𑖨を申べ立て小しき屈せよ　歸命、阿沒嘿都、嚩婆嚩、娑婆賀　○次に如來臍　內縛して右の𑖨𑖨を申べ立て小しき屈せよ。　歸命、怛他蘖多、三婆嚩娑婆賀　○次に藏　虛心合掌して一𑖨・二𑖨を屈して掌內に入れ甲を合せ、二𑖨を並べ立てて二𑖨の側を押し、二丸圓かに合せよ。　曩莫、薩嚩怛他蘖底藥、嚂嚂、嗒嗒娑婆賀　○次に大界　○次に無堪忍大護　○次に普光　虛心合掌して、二𑖨・二𑖨相ひ柱へ、餘の六指開き申べて着くる勿れ。　歸命、入嚩攝、摩嚩你、怛他蘖多、嘿旨娑婆賀　○次に如來甲　虛心合掌して二𑖨を屈し二𑖨の上節に屬し、二𑖨を並べ立て、二𑖨の中節を押せ。　歸命、鉢囉戰拏、嚩曰囉、入嚩攝、尾娑普囉、吽娑婆賀　○次に如來舌　虛心合掌して二𑖨を屈して掌內に入れ、甲を合せ、二𑖨を並べ屈して二𑖨の甲を押せ。　歸命、怛他蘖多、爾訶嚩、薩底也、達摩、鉢囉底瑟多娑婆賀　○次に如來語　虛心合掌して二𑖨・二𑖨掌內に入れ、二𑖨を並べて二𑖨を押す、或は二𑖨を上に向へ少しき屈して口形の如くせよ。　歸命、怛他蘖多、摩訶嚩吃怛羅、尾濕縛枳孃曩、摩護那也娑婆賀　○次に如來牙　虛心合掌

(一)慈氏　印相は大悲刀の印なり、二の印相あり、二𑖨を以て二𑖨の側を押せば塔印なり二𑖨を付けず二𑖨を二𑖨の間少し開きて口形とすれば寶瓶の印なり。
(二)觀自在　已下觀音院の七尊なり
(三)得大　得大勢至なり。

して二𑖨を屈して掌に入れ甲を合せ、二𑖨を並べ立て二𑖨の側を押せ。　歸命、怛他蘖多、能瑟吒囉、囉娑囉娑、乾囉參鉢囉博迦、薩嚩怛他蘖多、尾濕也、糝婆嚩娑婆賀　○次に如來辨　虛心合掌して二𑖨を鉤して二𑖨を立て、背着くる勿れ。　歸命、阿振底也、那部多、嚩波嚩三麽多、鉢囉鉢多、尾輪駄娑嚩囉娑婆賀　○次に如來十力　虛心合掌して二丸を屈して掌中に入れ、二𑖨を並べ屈して二丸の甲を押せ。　歸命、捺奢沫浪、誐、誐、達囉、吽三髯娑婆賀　○次に如來念處　虛心合掌して二𑖨を並べ立て二𑖨を屈して端を合せ、二𑖨の上に置け。　歸命、怛他蘖多、娑麽嘿底、薩怛嚩二係怛嚩、毗庾嗢蘖多、誐誐曩、三忙、糝麽娑婆賀　○次に平等開悟　虛心合掌して二𑖨を屈して掌內に入れ、二𑖨を並べ屈して二𑖨の甲を押せ。　歸命、薩嚩達麽、三麽多、鉢囉鉢多、怛他蘖多、弩蘖多、娑婆賀　○次に如來語　虛心合掌して二𑖨を屈し、二𑖨の上節に屬せよ。　歸命、參麽多弩蘖多、尾囉惹、達麽伊社多、嚩薩怛嚩、奢野、弩蘖多、娑嚩賀　○次に(一)慈氏　虛心合掌して二𑖨を屈し甲を合せ、二𑖨を並べ立て二𑖨の側を押せ。　歸命、阿爾單惹野、薩曼多、弩蘖多、尾質怛嚂、嚩囉達囉娑嚩賀　○次に虛空藏　虛心合掌して二𑖨を並べ掌內に入れよ。　歸命、阿迦奢、三命、阿、薩怛嚩係多藥、嗢蘖多、怛嚂怛嚂、嚂嚂娑嚩賀。已上如來身會　○次に除蓋障　虛心合掌して𑖨𑖨を屈し掌中に入れ、甲を合せよ。　歸命、薩嚩怛他蘖多、嚩囉吉多、羯囉儞麽野、囉囉囉、吽惹娑嚩賀。○次に(二)觀自在　八葉印　歸命、薩嚩怛他蘖多、娑麽嘿底、薩怛嚩二係賀。○次に(三)得大　虛心合掌して二𑖨を微し開き屈する勿れ。　歸命、參髯索娑嚩賀。○多羅　內縛して二𑖨立て合せよ。　△本說、二𑖨を

(一) 吡俱胝 下の朱書を用ゐず。

(二) 賀耶儗哩嚩 馬頭の梵語なり。

(三) 曼殊室利 已下文殊院の八尊なり。

(四) 光網 左胎拳を風して鈎形の如し。右胎拳腰に安す。

(五) 無垢光 印の面は右に向ふ。

(六) 擬るが如く 不動の鈎印の面左に向へ少し外へ向け左より右へ三反物を切る勢の如し

並べ立て二れの側に附けよ。　歸命、躭多嚩多哩抳、羯嚕奴、嗢婆吠、莎嚩呵　○次に(一)吡俱胝 前印の如し、但し二頭右を以て左を押し交へ立てよ。　△本説、二頭を並べ立て前の如くせよ。　歸命、勃哩、薩嚩婆野、怛囉散伊吽、娑頗吒野莎嚩呵。　○次に白處 虛心合掌して二指を風して掌内に入れ、甲を合せ、二頭を並べ風して二指の甲を押せ。　歸命、半、怛他蘖多、尾灑野、三婆吠、鉢娜麼、忙履伊、莎嚩呵。　○次に(二)賀耶儗哩嚩 虛心合掌して二れを風し甲を合せ、二頭を並べて二れと相去り積麥の如し。　歸命、唅吽、佉那野、畔惹、薩叵吒野莎嚩呵。　○次に地藏 内縛二頭・二指・二頭竪て合せよ。　歸命、訶訶訶、索怛弩莎嚩呵　△已上觀音院

○次に(三)曼殊室利 虛心合掌して、二れを以て二指の背に屢し、二頭を並べ立て　二れを風して二頭の上に置け。　歸命、曩、係係、俱麼囉迦、尾目吃底、鉢他悉體多、娑麼羅娑麼羅、鉢羅底然莎嚩呵　○次に(四)光網 左手拳に作り形の如くせよ。　歸命、髯、係係、俱摩囉、忙野蘖多、娑嚩婆嚩、悉體多莎嚩呵　○次に(五)無垢光 左手五指を舒べ微しき風せよ。　歸命、係、矩忙囉、尾質怛囉蘖底、矩忙囉、摩弩娑麼囉莎嚩呵　○次に計室尼 右手劍印に作れ。　三遍(六)擬るが如くするなり。　歸命、枳履、係係、矩忙嚩計、那耶壤難、娑麼羅、鉢羅底然、莎嚩賀　○次に烏波計設尼 右手拳に作り、頭を立て頭を以て刃者れ三指の甲上を押せ　歸命、你履、頻那野壤難、係矩忙哩計、莎嚩呵　○次に地惠幢 左手拳に作り刃者を申べ竪て、頭を以て刃者れ二指の甲上を押せ。　歸命、咽嚩係、娑麼囉、莎嚩呵　○次に請召童子 右手拳に作り、頭を風して鈎の如くせよ。　△或は云く頭三たび招け。　歸命、

(一) 大愛樂 是れ除疑惟菩薩なり、已下除蓋院八尊。

(二) 除惡趣印を高く擧げ左の股の方に向け三度打つ勢にす即ち惡趣を破る義なり。

(三) 訶娑難 或本此の三字なし。

(四) 地藏旗 已下地藏院六尊、此印二大並べ立て風指に付け餘は文の如し。

(五) 寶處 胎拳頭れ捻して寶の如く三指伸し散し印の面左に向く。

(六) 持地 三部の金剛部の印の中の如く三度跏の上を押す。

阿迦囉灑野、薩鑁、矩嚕阿然、矩忙囉寫、莎嚩呵　○次に諸奉敎者 金剛合掌 歸命、阿尾娑麼野、儞曳莎嚩呵　△已上文殊院

○次に(一)大愛樂 内縛して二頭を立て合せ、上節を風して鈎の如くせよ。　歸命、訶尾麼底、掣諾迦、莎嚩呵。　○次に施無畏 右手五指を舒べ、掌をして外に向へしめよ。　歸命、囉、阿佩演那那、莎嚩呵。　○(二)除惡趣 前印、高く擧げよ。　歸命、特情、阿毗庚達囉泥、薩怛嚩駄敦、莎嚩呵　○次に救護惠 右手五指を舒べ、掌を以て身に向へ心を掩ひ頭を竪て上に向へよ。　歸命、尾(三)訶娑難係摩訶摩訶、娑摩羅、鉢囉底然、莎嚩呵。　○次に大慈生 右手持花の印に作れ。　歸命、諂、娑嚩制妒、嗢蘖多、莎嚩呵。　○次に悲旋閏 右手五指を舒べ、掌を以て身に向へ頭を風して心を柱へよ。　歸命、焰、迦嚕儞、沒嚕昵多、莎嚩呵。　○次に除一切熱惱 右手五指を舒べ、掌を仰げて膝の上に置け。　歸命、縊、係嚩囉娜嚩囉、鉢囉鉢多、莎嚩呵。　○次に不思議惠 右手五指を舒べ、頭を相捻して寶形に作れ。　歸命、汗、薩嚩捨、鉢哩布囉迦、莎嚩呵　△已上除蓋障院

○次に(四)地藏旗 内縛して二頭を立て屬する勿れ。　歸命、訶訶訶、尾娑麼曳、莎嚩呵。　○次に(五)寶處 右手拳に作りて刃者を立て、頭を以て刃者れの三指を申べ竪てよ。　歸命、難係、麼訶麼訶、娑嚩賀。　○次に寶手 右手拳に作りて頭を立て、頭を以て刃者れの三指の甲上を押せ。　歸命、衫、囉怛怒、嗢婆嚩婆嚩賀。　○次に(六)持地 金剛部印の如し、三たび上下せよ。　歸命、嗡、達囉尼、達囉、娑嚩賀。　○次に寶印手 外五鈷印　歸命、唅、囉怛曩、你利

（一）二頭云云　左右へ開くなり。

（二）虚空無垢　以下虚空藏院五尊なり。

（三）清淨惠　前の法螺の印。

（四）執金剛　巳下金剛手院六尊なり

（五）金剛鏁　轉法輪の印を内に反して二大外に出して並べ立つるなり。

（六）金剛針　二頭並べ立て、二頭に副るなり、餘は文の如し。

（七）金剛拳　打つ勢の如くすれば心に思ふばかりにて少しく打勢を作すなり。

（八）無能勝　巳下二十尊釋迦院。

（九）拳　釋迦院。

誓多、娑嚩賀　○次に堅固意　蓮花合掌して（一二）微しき開け。　歸命、赦、嚩曰囉、三婆嚩、娑嚩賀。△巳上地藏院

○次に（二）虚空無垢　大惠印刀　歸命、憾、誐誐曩、阿難多、遇者囉、娑嚩賀。　○次に虚空惠　轉法輪印　歸命、陵、斫吃囉伐唎底、娑嚩賀。　○次に（三）清淨惠　商佉の印　歸命、蘖丹、達麽、三婆嚩、娑嚩賀。　○次に行惠　入葉印　歸命、地藍、鉢納麽、阿賴耶、娑嚩賀。　○次に安住惠　内縛して二頭を立て、小しき屈して屬する勿れ、二頭並べ立てよ。　歸命、吽、壤弩、納婆嚩、娑嚩賀。△巳上虚空藏院

○次に（四）執金剛　内五鈷印　怒命、戰拏、摩賀嚩娑拏、吽。　○次に忙莽雞　内三鈷印　赦、怛哩吒怛哩吒、惹演底、娑嚩賀。　○次に（五）金剛鏁　轉法輪の印、内に反して二頭外に出せ。　赦、吽、滿駄滿駄野、冐吒冐吒野、嚩曰嚕、嗢婆吠、薩嚩怛囉、鉢囉底賀帝、娑嚩賀。　○次に月鬣　外五鈷印　赦、紇林、吽泮吒、娑嚩訶。　○次に（六）金剛針　内縛して二頭を立て合せよ。　赦、薩嚩達磨、你嚈吠達你、嚩曰囉索爾、嚩囉禰、娑嚩訶。　○次に（七）金剛拳　内縛して二頭を並べ立て、肘を合せ左の耳を擧げて、打つ勢の如くせよ。　赦、娑怖吒野、嚩曰囉、三婆吠、娑嚩訶。△巳上金剛手院

○次に（八）無能勝　右手（九）拳に作り、頭を堅て心上に當て、左手同じく此の印に作り高く擧げ頭と齊ふせよ。　赦、訥羅駄嚩灑、摩訶駄灑拏、佉捺野、薩鏁怛他蘖多、然矩嚕娑嚩訶。　○次に阿毗目佉　前の如し。但し左の印を心に當て、右の印を高く擧げよ。　赦、係阿鼻目佉、摩賀鉢囉戰拏、佉于種那野、緊旨囉也徒、三摩野、摩拏娑摩囉　娑嚩訶。　○次に（一）釋迦鉢　前の大鉢印の如し。　歸命、薩縛吃哩捨、涅索娜曩、薩嚩達磨、嚩始多、鉢囉鉢多、誐誐曩、三摩三摩娑嚩訶。　○次に釋迦毫相　右手（二）拳に作り眉間に置け。　歸命、縛羅泥嚩囉、鉢囉鉢囉鉢帝吽、娑嚩訶。　○次に一切佛頂　右手五指の峰を聚め頂上に置け。　歸命、鑁鑁吽吽（三）吽泮吒娑嚩訶。　○次に降三世　内五鈷印　赦、訶訶訶、尾娑麽曳、薩嚩怛他蘖多、尾灑野、三婆吠、怛頞路枳也、尾惹野吽惹、娑嚩訶。　○次に如來頂　内三鈷印　歸命、伽伽那、嚩囉、落吃灑妳、伽伽那糝迷曳、薩婆都、嗢蘖多、尾灑野、三婆吠、怛頞嗢蘖多、避娑囉三婆吠、入嚩囉、那謨伽難、娑嚩訶。　○次に白傘蓋佛頂　左手五指を舒べ掌を覆せて傘と爲し、右手（五）拳に作て之を竪て左掌を柄へ柄と爲せ。　歸命、嚂、悉怛多、鉢怛囉、娑嚩訶。　○次に勝佛頂　大惠刀印　歸命、苦惹、鄔瑟尼灑、娑嚩訶。　○次に最勝佛頂　轉法輪印　歸命、旨施尾惹、鄔瑟尼灑、娑嚩訶。　○次に除業佛頂　右手（六）拳に作り之を立て、鉤の如くせよ。　歸命、訶林、尾枳羅拏、半祖鄔瑟尼灑、娑嚩訶。　○次に火聚佛頂　内三鈷印　歸命、怛陵、帝儒囉施、隣瑟尾灑、娑嚩訶。　○次に廣生佛頂　内五鈷印　歸命、吒嚕吽二合鄔瑟尼二合灑、

（一）釋迦鉢　製裝の二角を取りて定印。

（二）拳　胎拳。

（三）吽　一本にな し。

（四）不動　無言にして輔に入れ輔を拔きて逆順各一反慈敎呪にて身の五處を加持す。

（五）拳　胎拳。

（六）拳　胎拳。

(一) 惹の下 一本に𑖨の一字あり。
(二) 眞陀婆尼云云 迦毒相の如し。 (三) 佛眼 印言共に前の釋 開かず二頭を火の背に風し二空並べ少し屈して火の中節に挾む是れ佛眼の即なり。 (四) 自在天 諸茶吉尼に至る四十四尊外金剛部院なり。此の印傾け舒べて少し曲めて顔を承け、顔を左に少し但て如意輪の思惟の手の如く然れども直に顔に當つるにあらず。 (五) 耳を掩へ 眞に掩ふにあらず觀心なり。 (六) 地天 虛合少し風して圓にして二空を開きて風の中節に着く。 (七) 右の五指を垂下し地水火風の四指を四方に散し垂れ空を中央に入れ三びふ

婆嚩訶。 ○次に發生佛頂 八葉印 歸命、輸嚕吽、鄔瑟尼灑、娑嚩訶。 ○次に無量音聲佛頂 商佉印 歸命、吽惹(一)鄔瑟尼灑、娑嚩訶。 ○次に(二)眞多麼尼毫相 右手拳に作て眉間に置け。 歸命、嚩、唅、弱。 ○次に(三)佛眼 內三鈷印 歸命、但他誐多、作乞芻尾野、嚩路迦野、娑嚩訶。 ○次に無能勝妃 右手持花の印を作り心に在き左手五指を舒べて外に向へよ。 歸命、地嚩地嚩、嚩嚩惹惹、娑嚩訶。 ○次に無能勝明妃 內縛して二頭と二れを並べ立て、離し開いて之を屈し鉤の如くし口の狀をなせ。 歸命、阿跋羅爾帝、惹惹底、但抵帝、娑嚩訶。 △已上釋迦院

○次に(四)自在天 右手五指を舒べて頰を承けよ。 歸命、播囉你、怛麼囉底毗藥、娑嚩訶。 ○普花天子 右手拳に作りまを立てれを屈しまの上節に附け、頭を以てまの側を押せ。 歸命、摩拏羅麼、達磨糝婆嚩、迦詑迦詑那、糝糝忙縒泥、娑嚩訶。 ○次に光鬘天子 右手持花印に作せ。 歸命、阿唵加寧耻毗藥、娑嚩訶。 ○次に滿意天子 右手五指を舒べ頭を屈し、頭を以て其の甲を押し(五)耳を掩へ。 歸命、阿婆、薩嚩嚩、葬、娑嚩訶。 ○次に(六)地天 鉢印 歸命、鉢哩體、吠曳娑嚩訶。 ○次に火天 右手施無畏印に作り頭を屈して掌中に在け。 歸命、阿擬曳、娑嚩訶。 ○次に一切諸仙。 縛斯右手五指を舒べ頭を以前印の如し、但し其の中節を押せ。 歸命、嚩斯、瑟吒嚩鉢、娑嚩訶。 阿跌哩尾哩體 前印の如し、但し其の中節を押せ。 歸命、惡帝囉也、摩訶嚩鉢、娑嚩訶。

(一) 蹉魔妃 右の五指を垂下し地水火風の四指を四方に散し垂れ空を中央に入れ三びふ (二) 嬌末離 左手燈明の印の如し。 (三) 那羅延后 右に三びふ轉ず、頭を相捻して輪の如くす。 (四) 二頭相絞ふ 先づ二手五指を申べ覆せ歸命の句を誦し次に離陀の句を誦して右の大指を上にして絞ひ三轉し次に婆羅陀にして左の大指を上に絞ひ次に右にエイソワカにて左に三びフウ轉ずるなり。 (五) 商羯羅 右胎拳。

婆哩輸怛麼、摩訶嚩鉢、娑嚩訶。 嬌答磨 前印の如し、但しまの中節を押せ。 歸命、俱怛摩、摩訶嚩鉢、娑嚩訶。 蘖哩伽 右手五指みな散ぜよ。 歸命、蘖嚩伽、摩訶嚩鉢、娑嚩訶。 ○次に蹉魔但茶 虛心合掌して、二頭二刃掌中に入れ、二頭を以て二頭の側を押せ。 歸命、嚩嚩娑嚩多野、娑嚩訶。 ○次に(一)蹉魔妃 右手五指を舒べ垂下し、頭を屈して掌中に入れ、三たび之を振れ。 歸命、沒哩底野吠、娑嚩訶。 ○次に暗夜天 左手鉤印に作せ。 歸命、迦攞囉、底哩曳、娑嚩訶。 ○次に嚕達羅 左手拳に作りまを立て、頭を以て刃頭の三指の甲上を押せ。 歸命、嚕捺羅野、娑嚩訶。 ○次に嬌末離爍底 左手拳に作り、まを立てれを屈してまの上節に附け、頭を以てまの側を押せ。 歸命、嬌摩哩、娑嚩訶。 ○次に(二)那羅延后 左手五指を舒べ、頭相捻し外に向へ三轉せよ。 歸命、尾瑟弩弭、娑嚩訶。 ○次に遮文茶 左手五指を舒べ、小しき曲げて掌を仰け胸前に當て、髑髏を承くる狀の如くせよ。 歸命、護嚕護嚕、左門拏、娑嚩訶。 ○次に涅哩底 左手鉤印に作れ。 歸命、囉吃察娑、地跛跢曳、娑嚩訶。 ○次に那羅延 左手五指を舒べ散ぜよ。 歸命、尾瑟拏吠、娑嚩訶。 ○次に(三)二頭相絞ふ 二手五指を舒べ掌を覆せ、上に絞ひて三轉せよ。 歸命、難徒鉢難娜曳、娑嚩訶。 ○次に(四)商羯羅 左手五指を舒べて刃を屈し、頭を以て其の甲を押し、まを離れ三指散し立て、三戟の如くせよ。 歸命、商羯利、娑嚩訶。 ○次に商羯羅妃 前印、頭小しき屈せよ。 歸命、商羯利曳、娑嚩訶。

(一)左手赤蓮花を持すと想へ。(二)月天手に蓮花を持し、蓮花の上に月輪あり、月輪の上に兎住ると想へ、此の印は持花の印を心の前に仰ぐ。(三)左手等或は右手を以て此の印を作る。(四)妙音天右手左の掌上に望めて右の方へ引くこと三度絃を彈する形の如くす。(五)諸龍此の印二臂を並べ立つ。

(六)拳　胎拳。

○次に梵天(一)左手持花の印に作れ。　歸命、鉢囉惹、鉢多曳、娑嚩訶。　○次に(二)月天前印の如し。　歸命、戰捺囉野、娑嚩訶。　○次に日天顯現合掌して二音を風し、二臂を以て二音の甲を押せ。　歸命、阿你怛也野、娑嚩訶。　○次に社耶毗社耶虛心合掌して二羽・二氣を風して掌に入れ甲を合せ、二音・二臂圓かに合せて弓の如くし、二臂を並べ立て二氣の側を押せ。　歸命、曩莫社耶、娑嚩訶。　○次に風天(三)左手拳に作り羽音を申べ立て、臂を以て氣の甲上を押せ。　歸命。嚩野吠、娑嚩訶。　○次に(四)妙音天左手五指を舒べて掌を仰け膝に當て、琵琶を承くる狀の如くし、右手また五指を舒べ、氣臂相ひ捻し運動して、彈絃の狀の如くせよ。　歸命、蘇囉娑嚩帶曳、娑嚩訶。　○次に(五)諸龍內縛して二氣圓かに合せよ。　歸命、阿播鉢多曳、娑嚩訶。　○次に阿修羅前の妙音天の印の如し、但し右手は運動せざるを異となす。　歸命、蘖羅遲延、娑嚩訶。　○次に乾闥婆右手拳に作り、音を立て、臂を以て羽氣の甲上を押せ。　歸命、尾戍馱、薩嚩囉嚩係你、娑嚩訶。　○次に一切藥叉左手(六)拳に作り、氣を風して鈎の如くせよ。　歸命、藥乞叉、濕嚩囉、娑嚩訶。　○次に藥叉女左手五指を舒べて羽を風し、臂を以て其の甲を押し、氣を風して臂節上を捻せよ。　歸命、藥訖叉、尾你也達哩、娑嚩訶。　○次に毗舍遮內縛して二手を立て合せよ。　歸命、毗舍遮蘖底、娑嚩訶。　○次に比舍旨前印の如し、但し二手圓かに合せよ。　歸命、毗旨毗旨、娑嚩訶。　○次に一切執曜虛心合掌して二臂相並べ離れ立たしめよ。　歸命、揭栗係濕嚩里也、鉢囉補多、乳底麼也、娑嚩訶。　○次に一切宿臂共に交へ立てよ。二臂を以て羽氣の甲上を押せ。　歸命、那乞叉哆羅、你羅惹達、你曳、娑嚩訶。　○次に諸羅刹虛心合掌して二音を掌中に入れ甲を合せよ。　歸命、囉乞察沙、地跛多曳、

(一)諸茶吉尼心に近け舌を少し出して物を舐る勢をなす、是れ運心なり、印は胸の程となす。(二)唵阿夜嘔云云御本に此呪を脫す、今私に之を加ふ。

娑嚩訶。　○次に(一)諸茶吉尼左手五指を押して小しき風し、掌を仰けて口に近づけよ。　歸命、頞唎訶、娑嚩訶、△巳上外金剛部院　○次に四攝鈎大鈎召印明前の如し。(二)唵阿夜嘔弱。　索內縛して二氣圓かに合せよ。　唵阿嗢吽吽。　鏁博法輪印內に反へし二臂外に出せ。　唵係薩普吒鑁。　鈴右手五指を舒べて垂下し臂を風して掌中に入れ三び之を振れ。　唵縛曰羅健吒嚩嚩。　○次に五供　塗左手を以て右腕を握り、右手五指を舒べて掌を揚げ、外に向へ、施無畏の勢に作せ。　歸命、尾輸馱健度、納婆嚩、娑嚩訶。　花內縛して二氣圓かに合せよ。　歸命、摩賀昧怛哩也、毗庾訥蘖帝、娑嚩訶。　焚丸音を六指背側め合せて、二臂の側に屬けよ。　歸命、達磨馱怛嚩、弩蘖帝、娑嚩訶。　飯鉢印　歸命、阿囉囉、迦羅羅、沫隣捺禰、摩訶沫哩、娑嚩訶。　燈右手拳に作り音を立て衣を風して音の上節に附け、臂を以て音の側を押せ。　歸命、怛他蘖多、囉嗢娑頗囉儞、嚩婆娑曩誐誐揉、娜哩耶、娑嚩訶。　○次に(三)事供塗香・花・燒香・飲食・燈明。是れ行者の右方なり。　○次に讚心略に唵を加ふ。　○次に(四)虛空藏轉明妃

○次に三力祈願　以我功德力　如來加持力　及以法界力　三力加持力　無量無邊　殊勝妙供　周遍法界　恭敬供養　大日世尊　五部海會　諸尊聖天　願垂哀愍　納受微供　圓滿善願

○次に禮佛　南無摩訶毗盧遮那佛　南無寶幢佛　南無開敷花王佛　南無无量

(一)概し金剛界の如し、但し塗香は左手の大香の三種は左手の頭相捻して其の上に置き右手不動反加印にして唵に兩手次に兩手同印指を合せて供す、飯一字にて食は壇に置き先の如く飯先加持し右の風空捻して即牢鉢の印にて三反して供す、燈明も加持は先の如し。(四)虛空藏云云金剛合掌。

(三)事供作法大金剛界の如し、燒花は三種花鬘、燒香の塗香

(一)三部　此は彌陀定印にて處々に當つ次の四處輪亦同じ、或は之を内五貼印にする説もあり。

(二)八印　仰に曰く此の八印は處々に用ゐる先づ大惠刀印にて𑖭𑖭𑖭𑖭次に外五貼印にて𑖭𑖭𑖭𑖭

○次に(一)散念誦　○次に本尊加持前の如し　○次に佛母加持前の如し　○次に五供前の如し

○次に(二)事供行者の左方　○次に讃前の如し　○次に虛空藏轉明妃前の如し　○次に三力祈願前の如し　○次に禮佛前の如し　○次に(三)廻向方便所修一切云云　○次に後鈴

○次に廻向(四)金一丁、常の如し。所修功德　廻向三寶願海　廻向三界天人　廻向一切神等

廻向貴賤靈等　廻向聖朝安穩　所修功德　廻向護持弟子　滅罪生善

增長福壽　無邊善願　決定圓滿　廻向房內安穩　諸人快樂　廻向天下法界

平等利益

○次に解界四方結・空網・火院・三世・不動・　○次に撥遣印は常の如し。唵鉢娜目叉穩。(オンハンドマボキシヤボク)

○次に三部被甲　△金一丁　念珠を取る　○次に禮佛　○出堂

寛永十六夷則日、仁和寺心蓮院の本書を以て之を寫し畢る。

小池坊權僧正秀算

（朱　安永四年乙未年潤十二月之を寫し奉る。

金剛末資戒定孝

國譯胎藏界念誦次第　終

(一)散念誦　作法前の如し。

(二)金剛界の眼目は百八反、大日は百八反、或は百千反、或は百反。次に珠を擦り一反念、次に百金剛薩埵百八反、次に一反般若菩薩百八反、次に一反不動慈救呪百八反。擦り了て一反、或は百八反擦り祈念一字一珠ならず。脇机に置く。作法前の如し。

(三)廻向方便　作法前の如し。

(四)金一丁　香呂を取りて金一打。

(一)不動供次第

不動供七箇日支度　蘇。蜜。名香。丁子・沈・白檀　壇一面。燈臺二本。脇机一脚。半疊一枚。壇供米。常の如し　御明油。常の如し　壇敷布一端。閼伽桶一口。

杓を加ふ　閼伽折敷一枚。長櫃一合。阿闍梨。承仕。聢仕。(ノジ)淨衣。白色

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

（壇圖あれども之を略す。）

○不動供次第

○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持灑水　○加持

供物　○も字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○(二)運禮　○表

白開白許り　敬て眞言教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、金剛界會の三十七尊、九會曼荼羅中の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺十三大會界會の諸尊、殊に本尊聖者大聖不動威怒王、四大八大諸大忿怒、外金剛部の護法天等、惣じては佛眼所照の普賢境

國譯小卷　明王部

○(一)不動供次第

不動供七箇日支度　蘇。蜜。名香。丁子・沈・白檀　壇一面。燈臺二本。脇机一脚。半疊一枚。壇供米。常の如し　御明油。常の如し　壇敷布一端。閼伽桶一口。

杓を加ふ　閼伽折敷一枚。長櫃一合。阿闍梨。承仕。聢仕。(ノジ)淨衣。白色

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

（壇圖あれども之を略す。）

○不動供次第

○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持灑水　○加持

供物　○も字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○(二)運禮　○表

白開白許り　敬て眞言教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、金剛界會の三十七尊、九會曼荼羅中の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺十三大會界會の諸尊、殊に本尊聖者大聖不動威怒王、四大八大諸大忿怒、外金剛部の護法天等、惣じては佛眼所照の普賢境

(一)不動供次第　不動の法、不動供、不動の次第といふ。

(二)運禮　金剛持運禮。

界中の若干の三寶願界を毎に驚して白して言さく、　夫れ大聖不動明王とは、暫く常寂の體を祕して、假りに奴僕の相を示す、三千世界の間、憍慢の主足を承け、一百由旬の內の鬼神の類、蹤を創る、纔かに智惠の利劍を振へば難化の波旬自ら伏し、適〻四攝の寶索を展ぶれば、强剛の天魔忽ち縛す、是を以て大施主、瑜伽瑜祇の道儀を整へて阿梨耶阿遮羅法を修す、若し爾らば忿怒降魔の本誓効驗此の時に施し、速かに衆願の誓約勝利を成じ修中に顯さむ、彼の一たび神呪を持するに、必ず加護を生生に豪る、呪んや深く弘誓を憑む、定んで隨逐して處處に垂れん。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○(一)勸請　大聖不動威怒王
四大八大諸忿怒　○五大願　○普供養三力　○四無量觀　○勝心　○大金剛輪　○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

壇中に𑖭字あり變じて瑟瑟座となる、座の上に憾𑖩の字あり、變じて(二)智劍となる、智劍變じて不動明王となる、身色青黑にして童子肥滿の形なり、頂に七結の髮あり、七覺分を表す、左に一の辮髮を垂れたり、一子の慈悲を顯す、右手に利劍を執れり、三毒の惑障を斷ず、左手に羂索を執れり、難調の者を繫縛す、遍身に迦樓羅炎を現ず、煩惱の惡龍を噉食することを顯す、寶盤山に坐したまへり、淨菩提心の傾動なきことを表す、左右に二童子あり、右を矜迦羅と名け恭敬小心の者なり、左を制多迦と名く、難共語惡性の者なり、乃至四大明王・十二大天無量の眷屬前後に圍繞せり。

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○(一)辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴　○(三)大日印明　○(四)本尊印明　○根本印（二羽內に相ひ叉へ輪輪各の環の如くす、二空を水側に住め火峯を空の面に住め二風和合し立てよ。）　火界呪　曩莫、薩嚩、怛他蘗帝毗藥二合薩嚩目契毗藥二合薩嚩他怛囉吒、中音贊拏摩訶路灑拏、欠佉吽、佉吽薩縛、尾覲南、吽怛囉吒二憾𑖩。

○又た劍印　左手空を以て地水の甲を捻し、左の膝上に置く、右手左の如くす、左手中に差し入れて右手を抽きだして胸の右方に置く、眞言三反（或は一反）次に印逆三反、順三反、次に心・額・喉・頂を加持し眞言各の一反す、而して本の如く左手の中に差し入るゝなり

慈救呪或は先づ逆順に加持して後にササゲ持ちて、三反誦して四處を加持する樣あり。

慈救呪　曩莫三滿多嚩曰囉赦、戰拏摩訶路灑儞娑破二合吒也、吽怛囉吒、憾𑖩二字種子

○八供養　○事供　○讃　四智、本尊　○普供三力等　○禮佛　南無、阿利耶、

(一)勸請　云く、御記に云く、至心發願、唯願、大日、本尊、四大、八大、不動、尊、大聖、大怒、四諸、大忿、兩尊、諸尊、聖衆、會、之、中、の、御、室、と。

(二)の御記にしては之れ仰に云れ、贊願なり、初夜日中勸請を用ゐ後夜には發願なりと。

(三)裏書に云へり、智劍は獨鈷と云へり、或は三形の異說なり。

(一)辟除　降三世なり、結界は多分は佛部は不動、金剛部は降三世、寶部は軍荼利、蓮花部は馬頭、又諸尊部は降三世なり。

(二)智劍　裏書に云へり、獨鈷は降三世なり。

(三)大日印明　智拳印、羯磨の呪なり。

(四)本尊印明　四處加持をなす。

(一)正念誦は金界の次第に準ずべし。略に諸尊の法を引き入れて行ずるなり。故に正念誦に先づ金剛界の次に日の眞言百反、次に大日の本尊明百八反、次に四大明王の持念百反なり。(二)加持念誦の作法は一度なり。

阿左羅曩拏(アシャラナウタ)　三反

琰鬘特迦(エンマントクカ)　南無、バザラ、夜叉(ヤキシャ)　已上四攝の次に之を加ふ。

○入我我入　○本尊加持　先づ智拳印並に大日眞言をもて四處加持、次に根本印言劍印言前の如し。　○(二)正念誦　○本尊加持　前に同じ　○散念誦　佛眼・大日・本尊・(二)四大明王・一字。　○佛母加持　○八供　○事供　○讃

○普供三力等　○(三)禮佛　○廻向並に解界以下は金剛界次第の如くなり。

○(四)結願作法　神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施。(閼伽の前)　次に金二打卷敕。　次に事由。一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、還た本座蓮臺に復へりたまふ。然れば則ち一念の功能無量にして越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成ぜん。(五)抑、神分、祈願、

次に後鈴以下は常の如し。

○不動供所　○奉修(ブシュ)　(六)供養法　○奉念(ホウネン)　(七)佛眼眞言　大日　本尊　同火界　降三世軍荼利　大威德　金剛藥叉　一字金輪。

右は　禪定仙院のために御息災安穩にして寶壽を增長し、無邊の御願決定して成就し、決定して圓滿ならしめ奉らんとして、始め　月　日より今日に迄るまで七箇日夜の間、殊に精誠を致し修し奉り念じ奉ること右の如し。

建久元年十二月廿九日　阿闍梨權律師法橋上人位

○降三世供七箇日支度。　蘇。　蜜。　名香。丁子・沈・白檀。　壇一面。　燈臺二本。　脇机一脚。　半疊一枚。　壇供米。常の如し　御明油。常の如し　壇敷布一端。　閼伽桶一口。杓を加ふ　閼伽折敷一枚。　長櫃一合。　阿闍梨。　承仕。　駈仕。　淨衣白色

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

(壇圖あれども之を略す。)

○降三世供次第

○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持灑水　○加持供物　○ま字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○逼遮　○表白

開白　許り

部護世威德天等を始め奉りて云云。(八)供養法　此の下に何箇座と記す。(九)佛眼眞言　此の下に何十遍と記す。下皆之に準ず。

(一) 匪石　堅固不動轉の心なり。

(二) 敎令○の次　敎令輪なり、不動供の次第には敎令輪者降三世の次に大聖不動或怒王四大八大諸忿怒と入る、今は敎令輪者不動尊と改めて次に降三世を加ふ可きか。

(三) 裏字　裏書に種子三形等の異を出す、七卷抄に出づ。

敬て眞言敎主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、金剛界三十七尊九會曼荼羅中の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺十三大會界會の諸尊、殊に本尊聖者降三世明王四大八大の諸大忿怒、外金剛部の護法天等、惣じては佛眼所照の普賢境界中の若干の三寶願界を毎に驚して白して言さく、夫れ降三世明王とは、暫く常寂の體を祕して、假りに奴僕の相を示し、三千世界の間に、難調の怨讎を降したまふ、須臾持念の功速疾に悉地を成ず、茲によりて吉日を擇び良辰を定めて、瑜伽三祕密の道場を餝り、縛日羅蘇婆你の祕法を修す、(一)匪石至て苦なり、悉地豈に疑はんや、若し爾らば忿怒降魔の本誓の効驗此の時に施し、速かに衆願の誓約を成じ、勝利を修する中に顯さん、〻〻

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○勸請(二)敎令○の次に之を加ふ。　降伏三世大明王　四大八大諸忿怒　○五大願　○普供三力　○四無量觀　○勝心

○大金剛輪　○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提

○道場觀　須彌山頂に五峰の樓閣あり、樓閣の中に八葉の白蓮花あり、蓮花上に(三)𑖮字あり變じて五股金剛杵となる、杵變じて降三世明王となる、四面正・青色、右・黃、左・綠、後・紅　八臂　二羽印を結んで心に當て、惠手に五股・箭・劒を持す、定の上鈴、次に弓、次に索なり。　身色青黑にして火光體に遍ねし、左足は大自在天を踏み、右足は烏摩后を踏めり、乃至金剛部の諸尊、無量の眷屬圍繞せり。

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○(一)辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴　○大日印明

○本尊印明　印は常の如し。　唵蘇婆你、蘇婆吽、蘖哩二合訶拏、二合蘖哩二合訶拏、二合吽蘖哩二合訶拏、波耶吽、阿引曩野斛、引婆誐嚩、嚩日羅二合吽發吒。

○八供　○事供　○讚　○普供養三力等　○禮佛　曩謨バザラソバニ　三反

曩謨、アリヤ、ア遮ラ曩タ　曩謨バザラ、軍ダリ　曩謨バザラ、琰鬘特迦

曩謨ハサラ、夜乞叉。

○入我我入　○本尊加持　前の印明　○正念誦　○本尊加持　○散念誦　佛眼大日本尊四大明王、一字　○佛母加持　○八供　○事供　○讚　○普供養三力等　○禮佛

○廻向並に解界以下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法　神分祈願ヲセズシテ五悔以下は常の如し、後供養の時佛布施　閼加の前　次に金二打卷數、次に事由。　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨し

(一) 辟除　不動又は降三世を用ふ。

たまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて内外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿せしめ、還た本座の蓮臺に復りたまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成ぜん。

抑、　神分　所願　次に後鈴以下は常の如し。

○降三世供所　。奉修　供養法　。奉念　佛眼　大日　本尊　四大明王

一字金輪

右は　禪定大王の玉體安穩にして寶壽を增長すること無邊なる御願決定して成就し、決定して圓滿ならしめ奉らんとして、始め　月　日より今日に迄るまで七箇日夜の間、殊に精誠を致して修し奉り念じ奉ること右の如し。年　月　日　阿闍梨

○軍荼利供次第

軍荼利供七箇日支度。

蘇。蜜。名香。丁子・沈・白檀。壇一面。燈臺二本。脇机一脚。半疊一枚。

壇供米。常の如し　御明油、常の如し　壇敷布一端。閼伽桶一口。杓を加ふ　閼伽折敷

一枚。承仕。駈仕。淨衣。白色

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

（壇圖あれども之を略す。）

○軍荼利供次第

○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持濁水　○加持供物　○ま字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○遍禮　○表白

開白許り

敬て眞言教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、九會万タラ並に十三大會の諸尊聖衆、別とに分けて本尊聖者甘露軍荼利大明王、四大八大の諸忿怒尊、外金剛部護世威德天、惣じて佛眼所照の恒沙世界の現不現前の三寶境界に白して言さく、夫れ仰ぐべき者は三寶境界、利物の功殊勝なるが故に。憑むべき者は諸尊の本誓誠諦の言虛しからざるが故に。誠に丹誠を至せば即ち冥顯の利益を蒙り、素念を抽んずれば必ず現當の悉地を成せん、中ん就く此の明王は、内には慈悲柔耎の心を深くし、薄福の群類を哀愍し、外には忿怒暴惡の相を示して難化の波旬を調伏したまふ、是を以て速かに内外の障難を除いて、爲めに理運厄難を拂ふ、瑜伽瑜祇の道場を飭りて軍荼利

の法を修す、然れば則ち本誓願りなく、遠かに怨讎を降伏し、悲願捨てざれば必ず悉地を成就せん。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○勸請（敎令○の次に之を加ふ。）　大聖軍荼利　大明王　四大八大諸忿怒　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心

○大金剛輪　○地結　○方結　○召罪　○攝罪　○業障除　○成菩提

○道場觀　壇上に寶樓閣あり、樓閣中に𑖀字あり、兩邊に𑖀字あり變じて三鈷杵となる、三鈷杵變じて軍荼利明王となる、大悲方便を以て大忿怒形を現ず、四面四臂なり、右の手に金剛杵を執り左手は滿願の印、二手には羯磨の印を作り、身に威光焰鬘を佩びて淨月輪中に住す、青蓮花色にして瑟瑟盤石に坐す、（正面慈、右面忿怒、左面大咲の容に作れ、後面微怒して口を開くの。）東方に𑖀字を觀せよ、是れ降三世法身の種子、南方に𑖀字を觀せよ、是れ金剛軍童子法身の種子、西方に𑖀字を觀せよ、是れ金剛羂索（一）羯抳法身の種子、北方に𑖀字を觀せよ、是れ金剛羂索（一）羯抳法身の種子、皆な無量の眷屬を具し恭敬し圍繞せり。

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○闕伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

（一）羯抳　金剛童子。

○大日印明　○本尊印明　○根本印（智、惠度の甲を押し、餘三鈷の形の如くし、惠手亦た之の如くして右、左を押し臂を交へよ。）

唵婀密哩帝吽發吒。

○又た云く　擅惠相ひ交へて掌に入れ、戒方を並べ屈して丈間を押せ、忍願並べ申べて進力屈して鈎の如くして、忍願の初節の後に住めて三股金剛杵の形の如くせよ、禪智並べ申べて戒方の背を押して忍願の間に處け。　曩謨羅怛那、二合怛羅野耶、曩莫室旃拏、摩訶嚩折羅具嚕駄也、唵戸嚕戸嚕、底瑟吒底瑟吒、摩駄摩駄、訶曩訶曩、阿弭哩帝、吽頗吒。

○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　曩謨、ハサラ、軍荼利三反　曩謨、アリヤ、ア遮ラ曩タ　曩謨、ハサラ、ソハニ　曩謨、ハサラ、瑛曩特迦

○入我我入　○本尊加持（前の印明）　○正念誦　○本尊加持　○散念誦（眼日本四大明王一字）

○佛母加持　○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　○廻向　○解界已下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法　神分祈願ヲセスシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施（闕伽の前）次

に金二打卷數　次に事由　一七箇の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿らしめて、還た本座の蓮臺に復りたまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、神分、祈願、次に後鈴以下常の如し。

○軍荼利供所　。奉修　供養法　。奉念　佛眼　大日　本尊　四大明王眞言各の　一字金輪。

右は　(一)國母仙院の玉躰安穩にして寶壽を增長すること無邊ならん御願決定して成就し、決定し圓滿ならしめ奉らんとして、始め　月　日より今日に迄るまで、七箇日夜の間、殊に精誠を致して修し奉り念じ奉つること右の如し。年　月　日　阿闍梨

○大威德供次第

大威德供七箇日支度　蘇。蜜。名香。丁子・沈・白檀　壇一面。　燈臺二本。

脇机一脚。　半臺一枚。　壇供米。常の如し　御明油。常の如し　壇敷布一端。　閼伽桶一口。杓を加ふ　閼伽折敷一枚。　長樻一合。　阿闍梨。　承仕。　駈仕。淨衣。白色

(一)國母仙院　女院の御事なり。

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

（壇圖あれども之を略す。）

○大威德供次第　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持瀧水　○加持供物　○i字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○遍禮　○表白　開白　許り

敬て眞言教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、九會曼荼羅並に十三大會等の諸尊聖衆、別とに分けては本尊聖者大聖熖慢德迦明王、四大八大の諸忿怒の尊、外金剛部護世威德天、惣じては佛眼(一)所當の恒沙世界海に現ずると現前せざる三寶境界を毎に驚し申す。夫れ仰ぐべきは三寶の境界、利物の功殊勝なるが故に。憑むべきは諸尊の本誓、誠諦の言虛しからざるが故に。誠に丹誠を至さば即ち冥顯の利益を蒙り、素念を抽んずれば必ず現當の悉地を成せん。中んずく今此の明王は、內に慈悲柔耎の心を深うし、薄福の群類を哀愍す、外には忿怒暴惡の相を示して難化の波旬を調伏したまふ、是を以て其速かに內外の障難を除き理運厄難を拂はんがために、瑜伽瑜祇の道場を飭り、熖慢特迦の秘法を修す、然れば則ち本誓空りなうして速かに怨家を六頭眼

(一)所當　所照となす本あり。

(一)勸請　或は發願に換ふる時は文の如し。本尊聖者、燄魔德迦、大悲明王、四大八大、諸大忿怒。

(二)忿怒　異書に異說を示す。

(三)六通　異本には六道とあり。

(四)根本印　此を棒印といふ、三字明を用ふ、大呪は用ゐず。

(五)心印　二大は右を上にし左を下に重ね二水の側を押す。

(六)唵云云　此の眞言は怨家調伏の眞言なり、云く設(シヤ)ト。嗚嚧の次に怨家の名を加へ、娑發吒(ソハタ)の次に吽發吒を加ふるなり。

下に降伏し、悲願捨てたまはずして必ず惡夢を大悲心の中に消除したまへ。

○次に神分　○次に五悔　○菩提心　○三昧耶　○次に(一)勸請　敬令輪の次に之を加ふ。

琰鬘特迦威怒王　四大八大諸忿怒　○次に五大願　○普供養三力偈　○四無量觀　○勝心　○大金剛輪　○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

寶樓閣中に大曼荼羅壇あり、壇中に(二)𑖭字あり、變じて如意棒となる、如意棒變じて燄曼德迦明王の身となる、六首・六臂・六足を具して、六趣を淨め六度を滿て(三)六通を成ず、靑水牛に乘じて種種の器杖(ギヤウ)を持せり、髑髏を以て瓔珞頭冠となし、虎皮を裙とせり、其の身長大にして無量由旬なり、遍身に火焰あり、洞(トウ)然として劫燒の如し、四方を顧視すること師子奪迅の如し、乃至無量忿怒の眷屬前後に圍繞せり。

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○闕伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

○大日印明　○本尊印明　○(四)根本印　內縛して二火竪て合せよ。大呪　常の如し　或は唵惡吽を用ふ。

○(五)心印　二手內に相ひ叉へて拳に作り、二中指直く竪て頭之を合す、二頭指を舒べて風して三轉叉のごとし、即ち成ず。

(六)唵紇(クム)里瑟(シツチリ)室嚧、尾紇(ヒキリ)哩、多那曩(ナウ)、吽薩縛(ムサラバ)設(シヤト)咄(ロタ)嚧娜捨也、薩(サ)埵(タンハヤ)婆也、薩(サ)埵(タンハヤ)婆(ソハタ)也娑發吒(ソハタ)、娑發吒(ソハタ)娑縛賀。

○(一)心中心印　前の心印の如し、二頭指を直く竪て、即ち成ず、惡夢の時之を誦せよ。　唵(オム)、瑟致(シツチリ)唎迦(キヤラ)羅(ラ)嚩(ハム)跋(クム)吽欠、娑縛賀

○八供養印明　○次に事供　○次に讚　○普供養三力等　○禮佛　曩謨ハサラ琰鬘特迦(ドクキヤ)三反　曩謨アリヤア遮ラ曩タ　曩謨ハサラソハニ　曩謨ハサラ軍茶利　曩謨ハサラヤ乞刄。

○入我我入　本尊加持　前の印明の如し。　○正念誦　○本尊加持　○散念誦　佛眼　大日　本尊　四大明王　一字

○次に佛母加持　○八供　○事供　○讚　○普供三力等　○禮佛

○廻向　○解界已下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法　神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施　闕伽の前　次に金二打卷數　次に事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、還た本座の蓮臺に復(かへ)りたまふ、然れば則ち一念の功德無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして、必ず自他の所願を成せん。

抑、神分、祈願、次に後鈴以下は常の如し。

(一)心中心印　前の如し但し二頭を鉤せず直く立つ惡夢の時、東に向て此の咒廿一反を誦すれば即ち消滅す。

○大威德供所　。奉修　供養法　。奉念　佛眼　大日　本尊　四大明王眞言各の　一字金輪。

右は　太上天皇のために玉體安穩にして寶祚延長すること無邊ならん御願、決定して成就せしめ奉らんとして、始め　月　日より今日に迄るまで七箇日夜の間、殊に精誠を致して修し奉り念じ奉ること右の如し。年　月　日　阿闍梨

○金剛藥叉供次第

○金剛藥叉供七箇日支度

蘇。　蜜。　名香。丁子・沈・白檀。　壇一面。　燈臺二本。　脇机一脚。　半疊一枚。壇供米。常の如し　御明油。常の如し　壇敷布一端。　閼伽桶一口。灌ぐ加ふ　閼伽折敷一枚。　長櫃一合。　阿闍梨。　承仕。　駈仕。　淨衣。白色

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

（壇圖われども之を略す。）

○金剛藥叉供次第　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲

○加持灑水　○加持供物　○ɨ字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺

金剛藥叉供此の法は東寺家に於ては最も大事の法とす、故に禁中に於て五壇を修する時、胎密東密交つて修する必ずしも此の法に勅して仍て守に修せしむ、東密の規模となす。

○遍禮　○表白　開白許り

敬て眞言教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、九會万太ラ並に十三大會等の諸尊聖衆、別とに分けては本尊聖者金剛藥叉大明王、四大八大諸大忿怒、外金剛部護世威德天、惣じては佛眼所當の恒沙世界海の現と不現前の三寶境界に白して言さく、夫れ仰ぐべきは三寶境界、利生の功殊勝なるが故に。願むべきは諸尊の本誓、誠諦の言虛しからざるが故に。誠に丹誠を至さば即ち冥顯の利益を蒙り、素念を抽んずれば必ず現當の悉地を成ず、中ん就く今此の明王は、内に慈悲柔耎の心を深うし、薄福の群類を哀愍したまふ、外に忿怒暴惡の相を示して難化の波旬を調伏したまふ、是を以て業遠かに内外障難を除き、理運厄難を拂はんがために瑜伽瑜祇の道場を飭り金剛藥叉の秘法を修す、然れば則ち本誓鄭なうして速かに怨家を(一)六頭眼下に降伏し、悲願を捨てずして必ず(二)惡夢を大悲の心中に消除し給へ。

○次に神分　○次に五悔　○菩提心　○三昧耶　○勸請　敬今輪の次に(三)之を加ふ　金剛夜叉大明王　四大八大諸忿怒　○次に五大願　○普供養三力　○四無量觀

○勝心　○大金剛輪　○地結　○方結　○召罪　○懺罪　○業障除

(一)六。或はいふ三の字か。
(二)惡夢。或はいふ凶災か。
(三)之を加ふ勸請に本尊聖者金剛藥叉大明王四大八大大悲明王諸大忿怒。

○成菩提　○道場觀

壇中に蓮花あり、花臺上に𑖀字あり、變じて金剛牙となる、金剛牙變じて金剛藥叉となる、五眼忿怒形にして三面六臂あり、左の第一手に鈴を執り、次に弓、次に輪、右の第一手に五股を執り、次に箭、次に劒、三首にして馬王髻あり、瓔珞をもて其の身を莊る、威猛暴惡にして火焔熾盛なり、乃至金剛部の眷屬前後に圍繞せり。

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空網　○火院　○三大昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

○大日印明　○本尊印明　○(一)根本印（戒方忍願の指、內に相ひ叉へて齒となし、檀慧曲げて鉤の如くし、進力及び禪智由ほし笑眼の形の如し）

咤、摩賀、藥叉、嚩日羅、薩怛嚩弱、吽鑁斛、跋羅吠捨吽

○八供養　○事供　○讃　○普供養三力等　○禮佛　曩謨ハサラヤ乞叉三反

曩謨アリヤア遮ラ曩タ　曩謨ハサラソハニ　曩謨ハサラ軍荼利　曩謨ハサラ琰鬱特迦

○入我我入　○本尊加持（前の印言）　○正念誦　○本尊加持　○散念誦（唄日本四大明王一字）

○佛母加持　○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　○

(一) 根本印　進力を屈し甲を合せ、禪智を以て進力の頭を押す、禪智の間は笑眼の如し。

廻向　○解界已下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法　神分、祈願ヲセズシテ五悔已下は常の如し、後供養の時佛布施、（閼伽の前）

次に金二打、卷數、　次に事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、還た本座蓮臺に復へりたまふ、然れば則ち一念の功能無量にして、早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、　神分、　祈願、　次に後鈴已下は常の如し。

○金剛藥叉供所　。奉修　供養法　。奉念　佛眼　大日　本尊　四大明王眞言各の　一字金輪

右は　女院殿下のために御息災安穩にして寶壽を增長し、無邊の御願決定して成就し決定して圓滿なしめ奉らんとして、始め　月　日より今日に迄るまで七箇日夜の間、殊に精誠を致して修し奉り念じ奉ること右の如し。年　月　日　阿闍梨

○愛染王供次第

愛染王供七箇日支度。蘇。　蜜。　名香。白檀。丁字。　壇一面。　燈臺二本。　脇机

一脚。半疊一枚。壇供米。常の如し　御明油。常の如し　壇敷布一端。閼伽桶一口。杓ふ加ふ

閼伽折敷一枚。長樽一合。阿闍梨。承仕。駈仕。(一)淨衣。赤色

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

(壇圖あれども之を略す)

○愛染王供次第　敬愛に之を修す。　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲

○加持灑水　○加持供物　○ぁ字觀　○淨地　○淨身　○觀佛

○驚覺　○逼禮　○表白　明白許り

敬て祕密教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、金剛界會四波羅蜜の十六尊八供四攝等の諸尊聖衆、並に大悲胎藏の八葉蓮臺の十三大會界會の諸尊、殊別に本尊聖者金剛愛染大明王、三十七尊の諸尊聖衆、外金剛部の護法天等、惣じては佛眼所照の恒沙世界海の三寶境界に白して言さく、夫れ金剛愛染大明王とは、內には慈悲寂靜の相を祕して、外には忿怒威峻の姿を示す、神力測り叵し、普ねく三世三界に被り功能至高にして獨り尊尊最勝を稱ふ、命業胎等の宿、永く七曜の凌逼を離れ、扇底迦等の法蓮かに一念に成就するを得。凡厥そ延算の妙術、攘災の祕方、此の尊に歸するに非るよりんば、又た何の謀を運さん、方今吉日を白月に撰び、深信の丹誠を抽んずれば、法力能く諸魔を伏す、三密薰修の力豈に呪の功を空うせんや、通じて衆患を除き七日持念の功蓋し及ばん、然れば則ち大施主永く(一)妖魔を拂ひ、金剛の體彌〻動ずるなく、忽ちに甘露を降して(二)綺儀の味乖き和せず、四王天帝釋鎭に潛衛を施し、一切惡心の衆敢て遂越せざらん。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○勸請　金剛愛染大明王　三十七尊諸薩埵　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪

○地結　○方結　○召罪　○攝罪　○業障除　○成菩提　○(三)道場觀

須彌山頂に弋字あり、變じて七寶の宮殿となる、宮殿の中に壇場あり、其の上に𑖀字あり變じて八葉の蓮花となる、花臺上に弋字あり淨月輪となる、月輪の中に𑖀字あり、率堵婆となる、率堵婆變じて大日如來となる、大日如來の心月輪の中に𑖀字あり、五古杵となる、杵變じて愛染明王となる、身色日暉の如し、熾盛輪日輪光焰に住せり、三目威怒して視たまふ、首髻に師子冠あり、利毛忿怒形にして頂に五髏鈎を安き、五色の花鬘を垂れ、天帶耳に覆へり、左手には鈴を持し右手には五峰杵を執る、儀形は薩埵の

(一)淨衣　此法は阿闍梨壇仕者赤色淨衣にて餘色を交へず、敬愛に修する故に。普賢延命供の時は黃色の淨衣にして餘色の雜へず凡そ諸尊法の內淨衣の色一尊なるは此の二尊のみ。

(一)妖　一本に妖に作る。

(二)綺　或はいふ奇の字か。

(三)道場觀　仰に云く此の尊の道場觀は餘法と異る。大日の種三尊を觀じ次に本尊の種三尊を觀ず。

如し、衆生界を安立せり、次に左手には金剛弓、右手には金剛箭を執る、衆星の光を射るが如し、能く大染の法を成ず、左下手には彼を持し、右は蓮をもつて打つ勢の如くす、一切の惡心の衆速かに無有の疑を滅して、諸の花鬘索を以て絞結して以て身を嚴り、結跏趺坐を作し赤色蓮に住せり、蓮の下に寶瓶あり、兩畔に諸寶を吐く、乃至三十七尊並に無量の眷屬、圍繞し恭敬せり。云云七處加持

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

○大日印明　○本尊印（内縛して二中立で交へよ。）　○入我我入　○本尊加持（前の印明）　○正念誦

薩埵嚩（サトバヴァク）、吽鑁（ムバムコク）穀　○又の印（外五古）　吽擁枳（ムタキ）吽（ムジヤク）惹

○次に羯磨會の三十六尊の印明　○事供　○讃（四智）　○普供三力等　○禮佛

南無金剛愛染（三反）（四攝の次に之を加ふ）

○本尊加持　○散念誦　○佛母加持　○八供　○事供　○讃　○普供

三力等　○禮佛　○廻向　○解界已下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法　神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施（閼伽の前）　次に

金二打卷數　次に事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、還た本座の蓮臺に復へりたまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、神分、祈願、後鈴已下常の如し。

○愛染王供所　。奉修　供養法　。奉念　佛眼眞言　大日　金剛薩埵眞言　本尊眞言　(一)同二種眞言各　(二)三種眞言各　一字金輪

右は　女大施主三品殿下息災安穩にして福壽を增長し、無邊の御願決定して成就し決定して圓滿ならしめ奉らんとして、始め正月一日より今日に迄るまで、並に三百五十五箇日の間、殊に精誠を致し、修し奉り念じ奉ること右の如し。

建久元年十二月廿九日　阿闍梨權律師法橋上人位覺

○故法印大和尚位御卷數此の體に草す。

。奉供　供養法、　箇度。　。奉念　大日、　佛眼、　本尊、　同眞言各、　不動眞言、　降三世、　三種眞言各、　大金剛輪眞言、（數運之を減ず、二十一反定めか。）　金輪眞言

(一)同二種眞言ウンダキ吽ウヤクの呪とウンシツチとの二なり。
(二)三種云云は成就一切明、二は被諸宿曜、三は金剛吉祥との三なり

右は　太上天皇の玉體安穩にして、寶壽を增長し、恒に快樂を受くること無邊ならん、御願、決定して成就し、決定して圓滿ならしめ奉らんとして、始め某月　日より今日に迄るまで、一七箇日夜の間、殊に精誠を致し、修し奉り、念じ奉ること右の如し。

年　月　日

○烏樞沙摩供次第
○烏樞沙摩　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持
灑水　○加持供物　○ぇ字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○
通禮　○表白

敬て眞言教主大日如來、金剛胎藏の兩部曼荼羅の諸尊聖衆、殊に本尊聖者烏樞沙摩大明王、金剛部中の諸の忿怒尊、惣じては佛眼所照の帝網重重の一切寶に白して言さく

夫れ烏樞沙摩明王とは、內外の威儀相ひ分れ、暴惡を顯して慈悲を隱す、印呪の功力自在にして穢觸を改めて淸淨なることを得、凡厥そ功能得て稱すべからず。方今瑜伽の道場に就て祕密の儀軌を飭るに、感應空しからずして水月暗に通せん。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○(一)勸請　積迹金剛大明王
金剛部中諸忿怒　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪
○地結　○方結　○召罪　○擯罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

須彌山の頂に𑖭字あり、變じて八葉の蓮花となる、花臺の上に𑖭字（或は𑖭字）あり變じて龍索（或は拂）となる、龍索變じて烏芻沙摩明王となる、髮髻に白蛇を遶ふ、身相長大にして青色なり、金剛寶をもて瓔珞とせり、甚大の忿怒の形、左の定には絹索を執り、左の理には寶數珠なり、右の惠には三(二)劒を執り、右の智は滿願の印なり、惠方願を以て屈し智力は直くせよ、加へ哺め獸皮を以て衣とせり、左(三)肩に兩の赤蛇蟒絞して胸臆に垂れたり、本尊の面を瞻せしむ、其の色甚だ靑白なり、亦た四臂、兩膊に一の蛇ありて之を遶る、寶池の蓮上に住したまへり、二大龍王乃至阿修羅王等前後に圍繞せり。（儀形色は經に出づ、成就院七卷抄に之を用ふ。）

○大壇空敷　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空
網　○火院　○大三摩耶　○闕伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴
○大日印明

(一)勸請　或は發願に換ふる時は、文左の如し。本尊界會、積迹金剛。
(二)劒　鉾の誤か
(三)肩の上に右の字脫せるか。

(一) 笈 傳流抄五に茲に作る、マヽと讀むなり。

○本尊印　右手の無名・小指を以て左手の無名指の背後より、中指・無名指の(一)笈間に入れ、右の大指を以て右の無名・小指の甲の上を押し、左の無名・小指を屈し、復た左の大指を以て左の無名・小指の甲の上を押し環に作り、相鈎して各の兩の頭指及び中指を竪て、頭相ひ拄へて頭指來去せよ。　眞言に曰く　唵、一跋折羅、二俱嚕馱、三摩訶婆羅、四訶那馱訶、五跛者毗枳羅、六毗馱崩合寫夜、七闍置羅、八藍藭陁羅、九烏樞沙摩、十合俱嚕馱十一烏斛泮泮、十二涉訶十三　○又の印　右手の四指を以て拳に作て頭指を直く竪てよ。

眞言に曰く　唵俱路引馱曩吽弱。

○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　南無縛日羅烏樞瑟摩尾地也羅惹　○入我我入　○本尊加持　○正念誦　○本尊加持　○散念誦

○佛母加持　○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　○廻向

○解界等は金剛界次第の如くなり。

軍荼利儀軌に云く、部母の印密言を以て自身の五處を加持し、便易及び諸の穢處には嗚葛瑟摩金剛心密言印を用ひ五處を加持すれば、諸魔其の便を得ずして速かに成就することを得。　一字軌に云く　(二)唵特勒合迦　此の眞言を以て先印を用ひよ。

○金剛童子供次第

○金剛童子　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持

(二) 唵等原本には梵字あり今は省略す。

灑水　○加持供物　○ま字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○遍禮　○表白

敬て眞言教主大日如來、金剛胎藏兩部の万荼羅の諸尊聖衆、殊に本尊聖者金剛童子忿怒尊、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の一切三寶に白して言さく。今此の金剛童子とは、花臺の尊なり、假りに其の化を示して金剛手と現ず、屢〻彼の軌則を說いて齊月の白分を擇べば殊勝の果を成就し、隨方の精勤を致せば切利の報を獲得す、身口意を淨めて悲願を仰げば則ち地中の寶涌出す、二十一遍を限りて密語を誦せよ、亦た空界の華纈紛たり、彼れと云ひ是れといひ、仰ぐべし信ずべし。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○(一)勸請　金剛童子忿怒尊

金剛部中諸聖衆　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪

○地結　○方結　○召罪　○懺罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

大海の中に寶山あり、寶山の上に𑖩字あり、變じて三股杵となる、杵變じて聖迦抳忿怒金剛童子となる、身吠瑠璃色にして六臂を具足せり、面に三目あり其の目赤色なり、首に寶冠を戴いて狗の牙上さまに出づ、口は下の唇を咬へたり、眉を嚬めて威怒せり、

(一) 勸請或は發願を以て換ふる時は、文左の如し。大悲大聖、金剛童子、金剛部中諸大眷屬。

(一)底里商俱金剛杵を持して擲勢に作る、右第二の手に(二)母娑羅棒を持す、謂く棒の一の頭鐵杵の形の如し、右の第三手に鉞斧を執る、左の第一手に棒を把る、左の第二手は擬る勢の如くす、金剛拳を作りて頭指を舒べ、左の第三の手に劒を持す、一の大蛇を以て身上に於て角絡結繫せり。又た一切の毒蛇を以て膊釧臂釧腰(三)條瓔珞及び耳璫繫髮と作す、又た大蛇を以て腰に繞すこと三匝、背に圓光あり火焔圍繞す、火焔の外に於て其の雲電ありて以て相輔す、左の足を以て寶山を踏む、山の上に妙蓮花あり、以て其の足を承く、右の足は海水中にありて其の半膝を沒たり、乃至無量の眷屬前後に圍繞せり云云

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

○大日印明

○本尊印明　(四)根本印　虛合して二羽の水をもて交へて虎口に入れ風を鉤して空の下を捻して地輪を堅てゝ牙の如くせよ。　眞言に曰く　吽嚩曰羅二合俱摩引羅、迦尼度尼、吽吽泮

○又た根本眞言　軌本　曩謨、囉怛曩二合怛囉二合野引夜曩莫室戰二合拏縛曰羅、二合跋引拏上曳

(一)底里商俱　三股なり。
(二)母娑羅棒　玉を以て作りたる棒なり。
(三)膊釧　鄽の土刀の切にしてゝ、の事。
(四)根本印　二水左を内にし右を外にして掌に入れ指を風に連ひ指の端を二風に入れ二水の間に空を少し出し此の二風を以て屈し方へて鉤をなし二風を以て二大を押す、二中指を立てゝ鉤合せて二小指を立てゝ如く牙の此の印亦明次に用ふ。

摩賀、藥乞灑二合細曩引鉢多上曳、怛你野他、唵迦抳度顎吽發吒、娑嚩二合賀。　心眞言に曰く　唵、引一迦顎吽引發吒半聲

○八供　○事供　○讃　○普供三力　○祈願　○禮佛　○入我我入

○本尊加持前の印　○正念誦　○本尊加持　○散念誦　○佛母加持

○八供　○事供　○讃　○普供三力　○祈願　○禮佛　○廻向　○解界已下は金剛界次第の如し。

(朱)元祿十一二月九日、池上の成願寺に於て、印玄法印御自筆の御本を以て再び交し了る。

國譯小卷

如來部

○阿閦佛供次第

阿閦　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持灑水

○加持供物　○ま字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○遍禮

○表白

敬て眞言教主大日如來、金剛胎藏兩部万荼羅九會十三大會の諸尊聖衆、殊別には本尊界會の阿閦如來、金剛部中の諸眷屬等、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の一切三寶に白して言さく、夫れ阿閦如來とは亦た寶幢佛と名く、幢旗を得て而も怨敵を降すが如くなれども、還て波旬の子の來るを憐む、威光を耀して普ねく闇冥を破する、猶し漢日の東に出づるに似たり、遍照薄伽の四智於焉に始めて發り、菩提薩埵の大悲此れより普ねく彰る、甚深の德誰か端倪を知らむ。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○(一)勸請　大圓鏡智阿閦尊

金剛部中諸眷屬　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪

(一)勸請　或は發願にかふる時は文の如し。阿閦如來、左の如し。金剛部中、諸大眷屬。

○地結　○方結　○召罪　○擯罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

壇中に八葉の蓮花あり、蓮花上に㗚字あり、變じて白象となる、象の上に㘑字あり、變じて淨月輪となる、月輪中に㘑字あり、八葉の蓮花となる、花臺に㘑字あり、變じて五鈷金剛杵となる、杵變じて阿閦佛となる、觸地印に住して身不動を得たり、頂より青色の光を放ちて諸魔を摧伏す、乃至四親近の菩薩、及び金剛部の諸尊、各の本幟幟を持して前後に於て圍繞せり。

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空

網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

○大日印明

○(一)本尊根本印　右の羽開き並れて地に觸れよ。　(朱)左拳を腰に安け。　唵(オムアビラ)　(朱)外縛して二中指を立て合せ。　唵(オムアキシュ)乞芻(ヒヤム)、毗也吽(シヤナウム)　○又た(二)獨古印

○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　(朱)南無阿閦如來　○入我

我入　○本尊加持　前印明等　○正念誦　○本尊加持　○散念誦　(三)佛眼降三世　大日本尊一字

○佛母加持　○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　○廻

(一)本尊根本印　金剛界羯磨の印。　(二)獨古印　仰に云く、外縛二中を立て合す、即ち金剛界三昧耶會印。

(三)佛眼等細字は原本に朱書す。

向　○解界已下は金剛界次第の如くなり。

○寶生供次第

寶生　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持瀧水

○加持供物　○ぁ字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○逼禮

○表白

敬て秘密教主三世常住の淨妙法身摩訶毗盧遮那如來、金剛界會の三十七尊、九會万荼羅の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺十三大會塵刹の聖衆、殊別には本尊界會の寶生尊、惣じては佛眼所照の恒沙塵數一切三寶に白して言さく、夫れ寶生如來とは、身相金色にして、普ねく光明を放ちて、蓮花南葉に專ら座位を列す、開敷佛の名稱は離垢三昧より發得す、菩提心の種子大悲の萬行を長養す、因緣測られず濟度旁〳〵深き者か。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○(一)勸請　平等性智寶生尊

寶部內證諸眷屬　○五大願

○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

壇の中に爲字あり蓮座となる、座上に爲字あり滿月輪となる、月輪の中に爲字あり、

(一)勸請或は發願に換ふる時は、文左の如し。寶生如來、寶部內證諸大眷屬。

八葉の蓮花となる、花臺に丕字あり變じて如意寶珠となる、如意寶珠變じて寶生如來となる、頂より金色の光を放ち如意寶珠を雨らして、一切衆生をして所求を滿足せしめたまふ、及び四親近の菩薩寶部の諸尊恭敬し圍繞せり。

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

○大日印明

○本尊根本印（右羽施願にす。）　眞言に曰く　唵羅怛嚢（アラタンナウ）、三波縛（サム）、怛嚩（ダラク）　○又の印（外縛して火を寶形に作れ。）　眞言に曰く　唵嚩日羅、枳惹（キシャナウタ）嚩怛嚩（ラク）。

○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　南無寶生如來　○入我我入　○本尊加持（前の印明）　○正念誦　○本尊加持　○散念誦（一）佛眼大日軍荼利本尊寶菩薩一字

○佛母加持　○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　○廻向　○解界已下は金剛界次第の如し。

○阿彌陀供次第

阿彌陀供七箇日支度

(一)佛眼等細字は原本に朱書す。

蘇。蜜。名香。丁子・沈・白檀。　壇一面。　燈臺二本。　脇机一脚。　半疊一枚。　壇供米。常の如し　御明油常の如し　壇敷布一端。　閼伽桶一口。杓加ふ　閼伽打敷一枚。　長櫃一合。　阿闍梨。承仕。　駈仕。　淨衣。白色

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

（壇圖あれども之を略す）

阿彌陀供次第

○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持灑水　○加持供物　○ま字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○遍禮　○表白開白許り

敬て三世常住の淨妙法身摩訶毘盧遮那如來、兩部界會の諸尊聖衆、外金剛部の護世威德天等、殊別には極樂の教主彌陀善逝、蓮花部中の諸尊聖衆、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の三寶境界に白して言さく（一）夫れ以れば阿彌陀如來とは、壽命無量にして光明遍照せり、自然覺の菩提を究竟し三身備はり本迹相ひ兼ねたり、妙觀察智の德を圓滿し、五眼鑒みて邪正謬たず、隨類の化甚厚にして念佛の衆生を攝取す、持呪の益取も

（一）夫れ云云註に云く北院御室御作と。

深うして結使の諸惑を除盡す、行者心を運ぶ中、鐘谷の感應速かに至り、壯士の臂を申ぶる頃に金刹の往詣拘ることなし、斯の時に當ては流轉を離れて六趣の垢塵を淨め、泛遊を瑠璃池の波に恣にす、果位に進んで九品の階級に登り、快樂を芙蓉臺の月に受く、縱ひ末世なりと雖、其の世を救はむこと、若し今尊に非ずば何れ〻尊にか憑まむ、是れ大施主なるを以てなり。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○勸請　本尊界會彌陀尊　觀音勢至諸薩埵。　人祈修の時平生の時ナラバ　護持大施主菩願を成じ　罪を滅し善を生じて滿足せしむ。　早世後ナラバ　過去尊靈極樂に生じ　上品の蓮臺に正覺を成す。　若し發願ならば　至心發願　唯願大日　本尊界會　彌陀如來　觀音勢至　諸大薩埵　極樂界會　諸尊聖衆　以本願故　大慈悲故　降臨壇場　所設妙供　哀愍納受　護持〻〻

○五大願　○普供養三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪　○地結　○方結　○召罪　○擯罪　○業障除　○成菩提。

○道場觀　如來拳印を結べ。　面前に於て安樂世界を觀せよ、瑠璃を以て地と爲す、中に八功德

水あり、其の海中に於て𑖮字を觀せよ、大光明を放ち、色紅頗梨の如し、遍く十方世界を照すに、其の中の有情此の光に遇へば悉く罪障消滅せざるなし、是の字變じて微妙の開敷紅蓮花となる、獨鈷を莖となす、即ち其の花變じて無量壽如來となる、寶蓮花の上にあり、滿月輪中に處せり、首に五智の寶冠を着し奢摩他印に住す、身は紅頗梨色にして結跏趺坐し、頂上より無量の光明を放ちて恒沙の世界を照せり、乃至觀音勢至等の諸大菩薩及び蓮花部の聖衆前後に圍繞せり。云云

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅

○次に(一)迎請本尊（内縛して右の大指を立て身に向へて之を招け、眞言に曰く、）　唵阿盧力迦曳醯嚕娑縛賀

○次に辟除（(二)馬頭。合掌して二頭指・二無名指相ひ背け各の二大指を合せ並べ竪て鐵しき屈して頭指を着くる勿れ。）　唵阿密栗都特婆鞞、吽𑖨

吒娑婆訶　○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝

○拍掌　○振鈴

○大日印言（智拳印　駐恒の明）　(三)本尊定印　大呪　○(四)又の印（二手外縛して二中立て合せ蓮花形の如くせよ。）

眞言（金剛界羯磨會無量壽眞言。）　○次に(五)觀音（蓮花部心印）　唵阿盧力迦莎曷　○次に勢至（未敷蓮花印。）

唵、髯々索、莎曷

(一)迎請　其部相應の印明を用ふ、此の尊には蓮花部、三昧印明を用ゆ、此の印蓮花部心軌に出づ、金剛界次第の初にあり。

(二)馬頭　印順逆各三轉。

(三)本尊定印　十甘露の呪即ち根本陀羅尼。

(四)又の印　金剛界三昧耶の印、羯磨會の明を用ゆ。

(五)觀音　迎請を用ふ、内縛右の大を立つ。

○八供　○事供　○讃　○普供三力　○禮佛　南無阿里耶彌陀婆耶（三反四擬の次に之を加ふ。）

○又の印　○入我我入　○本尊加持（前の本尊印言）　○次に定印　阿密栗多帝際賀羅吽。

○又の印言（外縛して二中を蓮華形にす。）　唵縛曰羅達磨訖利。

○又の印言（外縛して二中を蓮華形にす。）　唵阿密栗多帝際賀羅吽。　○正念誦（羯磨會の眞言百反、小呪。）　○本尊加持（前の如し）　○散念誦（佛眼、大日、本尊、前の羯磨會の眞言。大呪、小呪、光明、金剛薩埵、正觀音、勢至、不動等か。）　○佛母加持　○

八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　○廻向　○解界已下は金剛界次第の如し。

○結願作法　行法は常の如し、但し神分祈願ヲセズシテ（或は金二打）五悔勸請供養法護摩等は常の如し、行了て後供養の塗花燒飲燈佛布施（兩手に捧げて供養眞言を誦み、後に壇上の遍水器口器の傍に置くなり。）

阿伽、　次に金二打、（或は一打）　卷數、（本尊の左方に立つべし。）

○次に結願事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲の本誓に任せて內外供養を納受し、現當の悉地を圓滿せしめて本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲は甚深にして必ず自他の祈願を成せん。

抑、神分、祈願、次に後鈴以下常の如し。

○阿彌陀供所　○奉修　供養法、箇、度、○奉念　佛眼　大日　本尊　同大呪

○釋迦供次第

釋迦供一七箇日支度　合

蘇。蜜。名香。沈　壇一面。脇机一前。禮盤一脚。壇供米。御明油。

壇敷布一段。阿闍梨。承仕一人。淨衣 白色　(一)手作布一段。監仕淨衣新

右注進すること件の如し。

年　月　日　阿闍梨

釋迦供次第　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持

灑水　○加持供物　○ゑ字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○

遍禮　○表白 開白 許り

敬て三世常住の淨妙法身摩訶毗盧遮那如來、兩部界會の諸尊聖衆、外金剛部の護世威德天等、殊別には一代教主釋迦牟尼無上大薄伽梵、惣じては佛眼所照帝網重重の三寶境

(一)手作布　下品の布。

界に白して言さく、夫れ以れば、今此の如來は刹利の姓を裏け悉達の名を得たり、白馬促行して塵網を伽耶城の中より逃れ、青雀瑞を現じて果を菩提樹の下に究ひ、權乘實乘の理趣を演ぶるや、雷音を振ひて長夜の眠を驚し、漸機頓機の佛會に集まるや月容を禮して開曉の益を蒙れり、誠に是れ朽宅の慈父、豈に迷衢の導師にあらずや、自ら方便に從て化を泥洹に窮め斯に至て以降、金蓮の臺露消然として猶ほ發迹の餘芳あり、赤檀の薪煙盡然として猶ほ遺骨の眞色を留む、之を覺て正見に通じ、之を敬て惑目を除かんに、功力測られず、恩德酬い難し。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○(二)勸請　本尊界會釋迦尊

三十七尊諸聖衆　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪

○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

樓閣中に妙座あり、四方正等なり、其の上に月輪あり、輪の上に白蓮花臺あり、臺上に婆字あり、字變じて大鉢となる、鉢變じて本尊となる、金色の身にして四八の相を具す、袈裟を被服し應身說法の相なり、右手は吉祥印 掌を開いて水、空相ひ拾し 臂を立つる是れなり。 左手を上に向へ齊前に置く 掌を開いて之を仰くるなり。 無量の眷屬圍繞し恭敬す、寶處三昧に入れば眷屬同

(二)勸請　或は發願にかふれば文左の如し。釋迦如來、十方分身、諸佛菩薩。

じく入る、乃至天等は皆な是れ如來所化の身なり（七處加持）

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○迎請　○辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

○大日印明

○本尊印（智吉祥印）定惠各の五輪を舒べて空火を相ひ捻せよ、(一)左、心の前に仰け、右は左の上に覆せ、相ひ着くる勿れ（云云既所之を尋ねべし）　眞言（同軌に云く）　曩莫縛曼多沒駄喃薩、薩縛（ウラバ）吃（レイ）哩拾（シャ）涅（ナウ）素（タ）娜曩、薩縛（サラバ）達磨（タマ）、縛（シ）日（タ）羅、縛（ハ）始多、鉢（ハ）羅鉢（ハ）多（タ）誐誐（ガガ）曩（ナウ）三摩（サムマ）三摩（サムマ）、娑（ソ）縛（ハ）賀

○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○(二)禮佛　南無釋（ナウボ）迦牟（セキヤボ）尼佛（ニ）（三反、四攝の次に之を加ふ）

○入我我入　○本尊加持（前の印明）　○正念誦　○本尊加持　○散念誦(三)（佛眼）

○佛母加持（大日、本尊、普賢、降三世、一字、）　○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　○廻向　○解界已下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法　神分祈願ヲセスシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施（閼伽の前）次に金二打卷數　次に事由　一七箇日の行法結願只今に在り、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめて本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成ぜん。

抑、神分、祈願、後鈴已下常の如し。

○釋迦供所　○奉供　供養法〻〻度　○奉念　佛眼眞言　大日眞言　本尊眞言　同小呪　彌勒眞言　金剛夜叉眞言　無能勝明王眞言　一字金輪眞言

右奉爲〻〻　年　月　日　阿闍梨

○藥師供次第

藥師供七箇日支度

蘇。　蜜。　名香。（丁子・沈・白檀）　壇一面。　燈臺二本。　脇机一脚。　半疊一枚。

壇供米。（常の如し）　御明油。（常の如し）　壇敷布一端。　閼伽桶一口。（杓を加ふ）　閼伽折敷一枚。　長横一合。　阿闍梨。　承仕。　聚仕。　淨衣（白色）

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

（壇圖あれどもこれを略す。）

藥師供次第　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持

(一)左云云左右の指樣は梵網印の如きなり。

(二)禮佛註に云く或は普賢、文殊、觀音、彌勒之を加ふ。

(三)佛眼等細字は原本には朱書す。

灑水　○加持供物　○ま字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○
遍禮　○表白（開白 許り）

敬て眞言教主大日如來、兩部曼荼羅の諸尊聖衆、殊別には十二上願の醫王藥伽日光月光等諸大薩埵十二神將護法の聖衆、外金剛部の護世威德天、惣じては不可說不可量の世界海世界種の佛法僧の御許を驚して白して言さく、　夫れ藥師如來とは、淨瑠璃界の教主、像法轉時の能化なり、總かに誓願を仰ぐ者は九横永く却ぞけ、適〻名號を聞くの人は衆病悉く除く、四大天王威力を振て以て鬼神を摧伏し、十二夜叉擁護を致して以て苦難を解脫す、加之らず長壽を求むる者は長壽を得、遙かに年算を梅生松子に伴なふ、財寶を求むる者は財寶を得、殆んど富饒を陶朱猗頓に爭ふ、啻に利益を一生の間に施すのみに非ず、剩へ又た道路を三有の外に示す、現と云ひ當といふ仰ぐべし信ずべし、是を以て大施主懇篤の誠を運んで供養の儀を整ふ、眞言の密契は果德を五智四身に顯し、合掌至心は供具を香花燈塗に添ふ、志念堅固なり感應定んで及ぶらむ、然れば則ち天怪を萬里に拂ひ、四大鬼業の悉名を削り、壽福を千年に保ち、二世欣求の願を熟せむ。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○勸請　藥師瑠璃光如來　日月
（一）大士諸眷屬　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪
○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

觀想せよ心前に𑖭字あり變じて淨瑠璃世界となる、其の上に大宮殿あり、七寶を以て莊嚴せり、其の中に大曼荼羅壇あり、壇中に𑖭字あり月輪となる、輪の中に𑖭字あり、變じて八葉の蓮花となる、花臺に𑖭字あり、變じて藥の壺となる、藥の壺變じて藥師如來となる、光明映徹して相好圓滿せり、殊に十二の大願を發して濁世の衆生を化度したまふ、日光月光等の諸大菩薩、及び十二神等、七千の藥叉と與に前後に圍繞す（七處加持）

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

○大日印明

○本尊印明（法界定印）　眞言に曰く

薩野、怛他藥多野、羅喝帝、三藐三沒駄野怛你也他、唵佩殺尒曳佩殺尒曳、佩殺紫野三沒藥帝、娑婆賀。

（一）大士　埵に作る。又は薩

(一)日光金剛界三昧耶會光菩薩の印なり。

(二)佛眼等細字は原本に朱書す。

○次に(一)日光菩薩 二風、二空頭拄へ圓に合せ、餘の六指散し舒べて逆に轉せよ。 唵嚕(オムロ)奚(ホウニ)你庾(ユタ)多、莎(ソハカ)訶。

○次に月光菩薩 右手空風相ひ捻し持花の勢の如くし、餘の三指は立てゝ少し開いて外に向へ上に擧げ、左は拳に作りて腰に安け。 歸命、戰拏羅(センタラ)、鉢(ハ)羅婆野(ヘヤバ)縛、莎訶。

○八供 ○事供 ○讃(四智本尊) ○普供三力等 ○禮佛 南無藥師如來(三反四振の次) 三力等 ○禮佛 ○廻向 ○解界已下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法 神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施(閼伽の前)次に金二打卷數 次に事由 一七箇日の行法結願只今にわり、日來の間道場に降臨し給ふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功德無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、 神分、 祈願、 後鈴已下常の如し。

○佛眼供次第

○佛眼供次第(佛眼作法は小卷傳・流抄には如來部に屬し七卷抄には佛頂部に入る。)

佛眼供七箇日支度

蘇。 蜜。 名香。沈・白檀 壇一面。 燈臺二本。 脇机一脚。 半疊一枚。

壇供米。常の如し 御明油。常の如し 壇敷布一端。 閼伽桶一口。 閼伽折敷一枚。

長櫃一合。 阿闍梨。 承仕。 駈仕。 淨衣。白色

右注進すること件の如し。年 月 日 阿闍梨

(壇圖あれども之を略す。)

佛眼供次第(臭香に之を行ず。) ○普禮 ○着座 ○塗香 ○三部被甲 ○加持灑水

○加持供物 ○ま字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮

○表白(開白 許り)

敬て眞言教主三世常住の大日如來、兩部界會の諸尊聖衆、別しては本尊聖者佛眼佛母尊、外金剛部の金剛天等、惣じては淨法界宮殿嚴世界の不可說不可量重重無盡若干の佛界を每に驚したてまつりて白して言さく、夫れ歸依すべきは佛法の境界、憑仰すべきは諸尊の本誓なり、中に就て此の尊は、纔かに持念する者は宿殃立ちどころに滅し、暫く歸依する者は壽命久しく保つ。今此の本願を案ずるに、若し人あつて常に此の明

を持てば、身は金剛山の如く、佛の眞身の如く、所出の言語は即ち眞言となり、支節の擧動は便ち手印となり、所有の心願時に應じて便ち遂げ、佛母身を現じて大悉地を獲ん、然れば則ち大施主なり。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○(一)勸請　金剛吉祥佛眼尊

八大菩薩諸聖衆　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪

○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

七寶宮殿の中に大曼荼羅壇あり、壇中に𑖭字あり、三層の八葉蓮花となる、花臺に𑖭字あり、淨月輪となる、月輪中に穴字あり、變じて佛頂眼となる、變じて佛眼佛母となる、大白蓮花に住して身は白月の暉の如し、兩目微咲せり、二手臍に住して奢摩他に入るが如し、一切支分より凝餓沙の佛を出生す。一一の佛皆な本出生する所を禮敬したてまつる、當前蓮葉の上に一切佛頂輪王あり、定印を結び八輻の金輪を持す、次に右に旋りて七曜の使者第二の花院の頂輪王の前に金剛薩埵あり、次第に右に旋りて八大菩薩あり、第三の院に右に旋りて八大明王あり、輪壇の四隅に內四供養あり、外院の四方に四攝あり、四隅に外の四供養等あり、皆な師子冠を戴き各の本標幟を執る。七處加持

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

○大日印明　○(二)本尊印明　○(三)金輪印明　○次に七曜(惣印明)(朱)入佛三昧耶印

○金剛手菩薩印　左手金剛慢印を作り右手五智杵を抽擲す　眞言に曰く　曩莫三曼多沒馱南、引吽、引　○觀自在菩薩印　止羽(四)觀羽臂之を開く。　歸命紇里。二合引入　○(五)虛空藏菩薩印　二羽外縛して進力を反し屈し、猶ほ寶形の如くす(朱)羯磨會寶菩薩印　眞言に曰く　歸命、怛嚂。　○金剛拳菩薩印　二拳を用ふ、(朱)羯磨會拳菩薩印　眞言に曰く　歸命、惡。　○文殊師利菩薩印　二羽外縛して忍願立て合せ上節を屈して劍の如き勢にせよ。　又た梵夾印眞言に曰く　歸命、菴。　○纔發意轉法輪菩薩印　(六)二羽を用ひて臂を申べ前に當て之を轉じて輪の如くせよ。　又た小金剛輪印眞言に曰く　歸命、吽。

○虛空庫菩薩印　右掌を仰けて心前に着け想へ羯磨金剛杵を持すと、定羽拳に作て腰の左に安け。　眞言に曰く　歸命唵。

○摧一切魔菩薩印　(七)二羽を用ひて檀嵩進力等度を展べ、口の兩傍に置いて牙の如くせよ。　又た普賢三摩耶印　眞言に曰く　歸命、赧。

○步擲明王印　前三(八)昧金剛杵の契印を以て心に於く。　(朱)內縛三古印被甲護身印の如し、二大右左を押す。　眞言に曰く　唵一縛哩二合二

(一)勸請　或は發願に換ふる時は文左の如し。本尊聖者、金剛吉祥、佛眼佛母、諸大眷屬。

(二)本尊印　眞言に曰く二手虛心合掌して二頭指風し二中指の文に附け眼上節の如し、二空各の忍願の中節の文を捻して亦眼の如し、二小指微しき開いて亦た眼形の如し、是れ根本の大印と名くと常の佛母加持の印なり。

(三)金輪印　註に云く、內縛して二中立て合せ鈷形の如くし、二風を屈して二中の上節を捻し二大並べ立て恣に歸命す。

(四)觀羽　云云　右台拳小指を申べ左小指より次第に大指に至るまで開き一指を開く毎に數を誦す明五反なり。

(五)虛空藏　金剛寶菩薩印　云く、金剛界羯磨又云云　(六)羯磨會寶菩薩印　二羽云云　界羯磨會因菩薩印、二拳二風伸べ甲を齊ふ

し印を心の前に覆せ指の端を向の方にして右に三轉す明三反。（も）二羽云云又云く、金剛界羯磨會金剛夜叉印、二手急怒拳にして口の兩傍に置いて牙の如くす。（八）味　或は古か

（一）大印交は小金輪の故に或は小の誤りか。尤も傳流抄七卷抄には皆大となれり。

（二）阿波羅尒多内縛二中を立て合す。（三）眞言　或はいふ、鉢印納に入れたるまゝにて唱ふなり。

屈嚕二合三部嚕二合四素嚕二合五儒隣二合六虐。

○降三世明王印　二羽臂を交へ金剛拳にし、檀惠相ひ鉤して進力を堅つる是れなり。　眞言に曰く　唵遜婆你遜婆吽嚩曰羅吽發吒。

○大威德明王印　二羽内に叉へ拳に作り忍願直く堅て相ひ合す、即ち成ず。（朱）捧印なり　眞言に曰く　唵紇哩二合瑟室嚧三尾紇哩二合多娜曩二合吽薩嚩二合設咄嚕娜引捨也薩擔婆也薩擔婆也娑發吒娑發吒涉㝹。

或は三字密言を用ふ。　唵嚩吽。

○大咲明王印　禪智進力忍願等内に向へて相ひ叉へ左右の戒方堅て、頭相ひ拄へ檀惠相ひ押す。　眞言に曰く　唵翳門若隣吽。又た云く　唵嚩日羅二合阿吒賀娑吽吽發吒。

○（一）大金剛輪印　二手各の金剛拳に作り、進力檀惠相ひ鉤す、即ち是れなり。　唵嚩日羅二合斫訖羅二合吽。

○馬頭明王印　二羽合掌して進力戒方掌の内に於て屈し甲相ひ背け、禪智を堅て開いて左に轉じて三匝せよ、心に想へ諸の作障の者か辟除すと。　眞言に曰く　唵引賀耶紇里野吽發吒。

○（二）阿波羅尒多明王　無能勝なり。　印　二羽惠定を押し、内に叉へて忍願を直く堅て相ひ拄へよ、即ち成ず。　唵護嚕護嚕戰拏引里摩蹬儗而爲の反去娑縛二合引賀。

○無動金剛印　劍（三）　眞言に曰く　唵引阿左羅羯拏戰拏娑馱耶吽發吒。

○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　南無佛眼佛母　三反　四攝の次に之を加ふ。　○入我我入　○本尊加持　前の印明　○正念誦　小呪　○本尊加持　○散念誦

○佛母加持　○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　○廻向　○解界已下は金剛界次第の如し。

○結願作法　神分祈願セズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施　開伽の前　次に金二打卷數　次に事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲の本誓に任せて内外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、本座蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、神分、祈願、後鈴已下常の如し。○（トシヨ）俊與法橋集　佛眼供所、○奉修　供養法、箇度　○奉念　佛眼、大日、不動、降三世、一字金輪。

右奉爲

大佛頂、金輪、尊勝の三卷は法住菴願證の作なる旨、奥書に見えたり。

國譯小卷

佛頂部

○大佛頂次第

大佛頂供一七箇日支度の事

蘇。蜜。名香。沈・白檀　壇一面。燈臺二本。脇机一脚。半疊一枚。

壇供米。常の如し　御明油。常の如し　壇敷布一端。閼伽桶一口。杓を加ふ　閼伽折敷一枚。

長横一合。阿闍梨。承仕。駈仕。淨衣。白色

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

（壇圖あれども之を略す。）

大佛頂供次第　魚炎に之を修す。また增益　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被

甲　○加持灑水　○加持供物　○ॐ字觀　○淨地　○淨身　○觀佛

○驚覺　○遍禮　○表白

敬て祕密教主三世常住淨妙法身摩訶毘盧遮那如來兩部曼荼羅の諸尊聖衆、殊別には本尊聖者金輪佛頂八大佛頂の諸轉輪王、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の三寶境界に白して言さく　大佛頂陀羅尼の祕法とは、神通變化の不思議、陀羅尼門の最第一なり、八萬四千の金剛衆、行住坐臥に離れずして隨身し、十方三世の諸の如來、取捨屈伸に常恒に擁護す、誠に知んぬ八萬の法藏廣しと雖、此の明の功力尤も勝る、三密の教法妙なりと雖、此の法の利益甚だ深し。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○勸請　金輪佛頂轉輪王　八大佛頂諸轉輪　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪

○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

壇上に衆字あり、法界に遍して大蓮花王となる、王上に𑖭字あり、七寶の大殿となる、殿中に七師子座あり、其の上に白蓮花あり、其の上に𑖭あり變じて金輪となる、輪變じて攝佛頂輪王となる、身紫金色にして定印に住す、印上に八輻の金剛輪を安く、右に佛身を旋りて光聚佛頂・發生佛頂・白傘蓋佛頂・勝佛頂・除障佛頂・黃色佛頂・最勝佛頂・無量音聲佛頂あり、此の外に七寶圍繞し、八恒河沙俱胝の諸佛如來圍繞す。

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

○大日印明　○本尊印明

○業障除印　二手虛心合掌して二頭指を屈し甲を合せ、二大指を並べ立てゝ二頭指の側を押す　又た(一)師説の印あり。　(二)眞言　怛(タンニヤ)你也(ヤ)二(ハンタ)合他唵(アウンレイ)引阿(アウンレイ)嚩(ヒ)尾舍(シヤタ)娜、尾舍(シヤタ)娜、滿駄(ハンタ)滿駄(ハンタ)、滿駄(ハンタ)你(ニ)滿駄(ハンタ)你(ニ)、吠(ヘイ)引囉(ヘナラ)、嚩(ハ)引日羅播(ハンダ)引捉(ハンタ)泮吒(ムボロンハンタ)、吽(ムボ)敞(ロン)泮吒(ハンタ)、娑(ソ)縛(ハ)引訶　○又の印　智拳四處を加持す　眞言小呪　○八供　○事供　○讃　四智不動　○普供三力等

○禮佛　南無一字金輪三反　○入我我入　○本尊加持　前印明　○正念誦小呪

○本尊加持　○散念誦　佛眼、大日、本尊、八佛頂、辨事佛頂、孔雀、大佛頂、不動、一字、師命の句なし。　○佛母加持　○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　○廻向　○解界巳下金剛界次第の如くなり。

○結願作法　神分祈願ヲセズシテ五悔巳下常の如し、後供養の時、佛布施開伽の前　次に金二打卷數　次に事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲の本誓に任せて內外供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、本座の邊臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑〻、　神分、　祈願、　後鈴巳下は常の如し。

○大佛頂供所　。奉供　供養法〻〻〻　。奉念　佛眼眞言　大日〻〻　本尊〻〻

右奉爲〻〻　年　月　日　阿闍梨

小卷物六十七卷の內、大佛頂・金輪・尊勝、の三卷失ひ了れり、仍て處處に之を尋求すと雖も終に感得せざるの間、抄の解を補闕せんとす、尤も恐ありと雖、且く自行の爲めに之を草する者なり。　金剛佛子顯證

○一字金輪供次第

一字金輪供一七箇日支度の事

蘇。　蜜。　名香。沈・白檀　壇一面。　燈臺二本。　脇机一脚。　半疊一枚。

塗供米。常の如し　御明油。常の如し　塗敷布一端。　閼伽桶一口。杓を加ふ　閼伽折敷一枚。

長槓一合。　阿闍梨。　承仕。　駈仕。　淨衣。白色

右注進すること件の如し。　年　月　日　阿闍梨

（塗圖われども之を略す。）

(一)或はいふ、釋迦金輪大日金輪あり、星宿ダラ中央に座するは釋迦金輪なり、黄金色なり、大日金輪は白色智拳印にして八葉の獅子座に坐するなり。

(二)勸請　或は發願に換ふる時、文は左の如し。本尊聖者(又は界會)一字金輪(又は最勝頂、諸大轉輪(又は八)佛頂轉輪王等に云く遍照尊と。

(三)一字金輪　一本に餘七に作る。一本に諸尊一本に聖衆四方の四字あり。

(四)智拳印　印の面身に向ふは自受用の意、常には外に向ふは他受用の意、是れは祕說なり、真言書には釋迦金輪の印を出す。

(五)勝身印　註に云く此の印は佛形の顯す、二印は佛鉢、二風は兩肩なり、二大は獅子座なり、小名交へたる光なり、智拳印に住したまふ獅子の座に住したまふ尊なりと。

(六)幅輞　「幅輞より次の輪内に至るまでは異本になしと稱す。

一字金輪供次第　凶災に之を修す　若くは增益　行者面を東に向く。

○三部被甲　○加持灑水　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業

○觀佛　○驚覺　○遍禮　○加持供物　○ム字觀　○淨地　○淨身

敬て祕密教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、兩部曼荼羅の諸尊聖衆、殊別には本尊聖者一字金輪最勝佛頂諸大轉輪外金剛部金剛天等、惣じては佛眼所到の微塵刹土の三寶境界に白して言さく　一字金輪王とは佛頂の尊名を顯し、法身の聖位に叶ふ、威光衆日に逾え昏衢の中を照す、靈德群星に被り蒼穹の上を鎭む、若し密語を誦せば彼の人如來に同じ菩薩に同ず、專ら懇誠を運べば其の處魔界を退け、怨家を退く、或は頓に神通力を得、眼目相瞬の頃に於て色究竟天に往き、或は現に佛菩提を證し、父母所生の身を以て大普賢地に至る、揭焉の威憑みあり、速疾の用仰ぐに足れり。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○(一)勸請　一字金輪(二)轉輪王

八大佛頂諸轉輪　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪

○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

妙高山の頂に𑖀字あり、變じて大寶蓮花となる、其の上に𑖀字あり、七寶の宮殿となる、殿の中に𑖀字あり、變じて八葉の白蓮華となる、華臺に𑖀字あり、變じて八輻の金剛輪(コム)となる、(二)「輻輞(フクマウ)皆な鋒(ホウ)鋭れり、其の色は檀金の如く聚塵數に過ぎたり、日金剛は極堅固を表し、福智の滿するを顯し、利は無戲論を表し、光は一切智を表し、貪嗔癡を除破し諸の妄執を斷壞す、斯の智輪虛空に遍周す、故に諸佛靈く輪内に入至」即ち此の輪變じて一字頂輪王となる、形色素月のごとく、輪鬘をもて法身を飾る、五佛の寶冠を戴き大智拳印を結び、熾盛日輪に住して師子座に處す、無量の光明を放ちて十方の刹土を照せり、當前の葉上に佛眼尊在す、(三)一一の葉上右に繞りて輪王の七寶(金輪、象、馬、珠、女、兵、主藏)を布列せり、乃至十佛刹微塵數の(三)諸尊圍繞せり。

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空網

○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

○大日印明　○本尊印明

○(四)智拳印　中・小・名をもつて拳を握り、頭指大の背を柱へ、金剛拳にせよ、乃ち成ず、右左の頭指の一節を握り面を心に當て四處を加持す。　眞言に曰く　奉(帰命)の句なし、或は帰命の句あり。

○(五)勝身印　堅固金剛合掌せよ、即ち中指を並べ堅て、由ほし青蓮葉の如くせよ、頭指を屈し各の中指の背上節に安じ心・額・喉・頂を印せよ、　軌に金剛合掌とは師(朱)師說は指を刃へす。

は虚合なるは經説に合せず。　眞言に曰く

歸命唵吒嚕滿駄莎訶。　唵步欠。　○又の印　二手虚心合掌して寸指相ひ交へ其の掌を虚ならしむ。眞言に曰く

○八供　○事供　○讃　四智　○普供三力等　○禮佛　或は梵讃　南無一字金輪三反　南無諸大轉輪　四攝の次に之を加ふべし。　○入我我入　○本尊加持　前の印明　○正念誦　一字呪　大日、降三世、　本尊、五字、　孔雀、　○佛母加持　○八供

○本尊加持　○散念誦　佛眼、不動、　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　○廻向　○解界巳下金剛界次第の如くなり。

○結願作法　神分祈願ヲセズシテ五悔巳下常の如し、後供養の時佛布施　閼伽の前　次に金二打卷數　次に事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆各の慈悲の本誓に任せて内外供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、　神分、　祈願、　後鈴巳下常の如し。

○一字金輪供所　○奉供　供養法〻〻　○奉念　佛眼眞言　大日眞言

本尊眞言　不動眞言　降三世眞言

右奉爲、、、　年　月　日　阿闍梨

小卷物六十七卷の内、大佛頂金輪尊勝の三卷失し了る、仍て處處に之を尋求すと雖、終に之を感得せざるの間、補闕せん爲めに之を抄し畢る、尤も恐ありと雖も、自行のために之を草する者なり。

寛永十六年八月廿五日　金剛佛子○證

○尊勝供次第

尊勝供一七箇日支度

蘇。　蜜。　名香。沈・白檀。　壇一面。　燈臺二本。　脇机一脚。　半疊一枚。

壇供米。常の如し　御明油。常の如し　壇敷布一端。　閼伽桶一口。杓を加ふ　閼伽折敷一枚。

長櫃一合。　阿闍梨。　承仕。　駈仕。　淨衣。白色

右注進すること件の如し。　年　月　日　阿闍梨

（壇圖われども之を略す。）

尊勝供次第　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持
灑水　○加持供物　○ぞ字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○
遍禮　○表白

敬て祕密教主三世常住の淨妙法身摩訶毗盧遮那如來、兩部曼荼羅の諸尊聖衆、殊別には本尊界會の尊勝佛頂八大佛頂諸大轉輪、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の三寶境界に白して言さく、　尊勝佛頂とは、妙用を除障の門に專らにして無量劫の衆罪を消滅し、善巧を利生の道に廻して十方界の諸尊に卓礫せり、悲願繫憑の處、丹露鑒誠にして擁護を垂る、法力驗を得るの人は白風身に入て而も厄難を拂ふ、有相悉地、無相悉地袷恰滿足し、現世の勝利後生の勝利願望するに心に任す、萬萬の願德は一一陳說し難し。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○(一)勸請　尊勝佛頂(二)大轉輪
八大佛頂諸轉輪　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪
○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

觀想せよ、五大所成の宮殿の中に大圓明月輪あり、三昧を以て界道となし、寶瓶を以て分齊となす、其の中央に大蓮花臺あり、上に𑖭字あり、法界率堵婆となる、率堵婆

(一)勸請　或は發願の時、文左の如し。本尊界會、尊勝佛頂、八大佛頂。
(二)大轉輪　俗に轉輪王といふ。

變じて大日如來となる、五智の寶冠を戴き輪鬘を以て法身を嚴り、法界印に住して結跏趺坐す、淨月輪に處して七師子の座なり、左圓明の中に𑖀字あり、白傘蓋佛頂となる、右圓明の中に𑖨字あり、最勝佛頂となる、中圓明の前に訶啾字あり、變じて金剛鉤（蓮花上に鉤を安くなり。）となる、鉤變じて尊勝佛頂となる、首に五佛の冠を戴き、手に金剛鉤を執る、項背に圓光あり、遍身車輪の如し、暉曜赫奕として三摩地に住せり、中後圓明の中に怛陵字あり、放光佛頂となる、尊勝の左圓明中に苦字あり勝佛頂となる、尊勝の右圓明の中の吒嚕吽字廣生佛頂となる、光聚の左圓明の中に輸嚕吽字あり、發生佛頂となる、光聚の右圓明の中に𑖩字あり無邊聲佛頂となる、光聚の左圓明の中に輸嚕吽字あり降三世となる、右邊の三角光中に𑖭字あり不動尊となる、前に香爐像あり、上に寶蓋あり、兩邊に六箇の飛天あり、各の香花を執れり。云云

○大虛空藏　○小金剛輪　○逐車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴
○大日印明　○本尊印明
○(一)白傘蓋佛頂　惠拳風を立て定慧せて蓋と爲せ。　歸命藍悉(二)跢鉢怛羅烏瑟尼舍莎曷　○勝佛頂　大惠

(一)白傘蓋云云　已下胎藏界法に出たり。
(二)跢　一本に怛多に作る。

刀印　歸命、苦惹欲、烏瑟尼舍、莎曷　○最勝佛頂　轉法輪印　歸命、施泉尼惹欲烏瑟尼舍莎曷　○除業佛頂　内縛して惠の風之を鉤せよ。　歸命訶林尾枳羅拏半祖烏瑟尼舍莎曷　○大聚佛頂　内三古　歸命怛陵帝儒羅施烏瑟尼舍莎曷　○廣生佛頂　内三古　歸命吒嚕吽烏瑟尼舍莎曷　○發生佛頂　八葉印　歸命輸嚕吽烏瑟尼舍莎曷　○無量音聲佛頂　商佉印　歸命吽惹欲烏瑟尼舍莎曷　○(一)不動　刀印　唵阿左羅羯拏戰拏娑駄耶、吽發吒。

○降三世　印は常の如し。　唵吽惡吽　○八供　○事供　○讃　四智　○普供三力等　○禮佛　南無尊勝佛頂　三反　○入我我入　○本尊加持　○本尊印　二手合掌して二頭指を屈し、甲相ひ背け、二大指を以て二頭指を押し、彈指の勢の如くせよ。　尊勝陀羅尼　常の如し。七反、三反　○又の印　内縛して右の頭指を鉤せ。　歸命訶林尾枳羅拏半祖烏瑟尼舍莎曷　○正念誦　陀羅尼　○本尊加持　○散念誦　佛眼、大日、本尊、小呪、延命、不動、降三世、一字、陀羅尼、　○佛母加持　○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　○廻向　○解界

已下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法　神分祈願ヲセズシテ五悔以下常の如し、後供養の時佛布施　聞加の前　次に金二打卷數　次に事由　一七箇日の行法結願只今に在り、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、慈悲の本誓に任せて内外供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、　神分、　祈願、　後鈴已下常の如し。

○尊勝供所　○奉供　供養法〻〻　○奉念　佛眼眞言　大日眞言　本尊陀羅尼　延命〻〻　不動〻〻　降三世〻〻　一字金輪〻〻

右奉爲〻〻　年　月　日　阿闍梨

小卷物六十七卷の内、大佛頂金輪尊勝の三卷失し了る、仍て處處に之を尋求すと雖、終に感得せざるの間、補闕の爲めに之を抄し了れり、恐ありと雖、且く自行のために之を草する者なり。

寛永十六年八月廿六日

金剛佛子顯證

國譯小卷　經法部

○法華　○普禮　○著座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持淵水
法花　○加持供物　○ぞ字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○逼禮
○表白。

敬て眞言教主大日如來、金剛胎藏兩部曼荼羅九會十三大會の諸尊聖衆、殊には平等大會一乘妙典證明法華多寶善逝、惣じては佛眼所照微塵刹土帝網重重の一切三寶に白して言さく　夫れ一乘の妙典は難解難入の妙門、無二無三の寶輅なり、界如三千の月は、疑網を利智の聲聞に致し、塵點五百の霜は、智力を補處の薩埵に失ふ、凡て厥の本迹の妙理得たりと稱すべからざる者か。方今祕密の道儀に就て瑜伽の勝行を修するに、丹誠至て懇なり、玄感豈に空しからんや。若し爾らば平等大會の雨は、行輪に隨て普ねく福田を霑し、常樂我淨の風は帆を吹飛して早く覺りの岸に到らん。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○(一)勸請　一乘教主釋迦尊

(一)勸請　或は發願にかふれば其の文に曰く、本尊聖者、釋迦牟尼、多寶如來、靈山會上、諸大薩埵。

多寶分身諸如來　普賢文殊諸菩薩　身子迦葉諸賢聖　梵釋多聞十羅刹　靈山界會諸聖衆

○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪　○地結　○方結　○召罪　○攘罪　○業障除　○成菩提　○道場觀　觀想せよ、妙高山上に百寶莊嚴の大蓮華臺あり、蓮花上に高妙の塔婆あり、七寶の所成なり、其の中に師子座あり、座上に𑖀字あり、變じて八葉の蓮花となる、其の上に𑖭字あり、淨月輪となる、月輪中に𑖀字あり(變じて寶鉢となる)變じて釋迦如來となる、光明赫奕として說法の相に住せり、傍らに𑖭あり、多寶世尊となる、久遠の願力に依て並座し、共に妙法蓮花經を演說す、八葉の上、右に旋て普賢、文殊、觀音、彌勒、藥王、妙音、常精進、無盡意等の諸大菩薩あり、又た舍利弗、目連、迦葉、須菩提等の大聲聞、及び內外八供養、四攝薩埵、四大明王、外金剛部の護法天等、前後に圍繞し、雲海を供養して虛空に充滿せり。

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

(一)根本印　智吉祥印なり、印文の如し。
(二)口傳云云　の尊法に至りて知らるゝなり、即傳流抄請雨經の下にあり。
(三)定印云云　定印とは法界定印、又口傳とは無所不至印なり。
(四)眞言　此は遍法界無處不至の眞言なり。
(五)又た眞言云云　烏梵夫薩即ち開示悟入の四字なり
(六)無量壽命　如來の眞言なり
(七)傳流抄に出づ。　一座の行法には法花の中或は一品又は一卷之を誦す、一品の時は壽量品の自我の時は偈なり、七ヶ月の時は一部八卷なり

○大日印明

○釋迦(一)根本印　定惠各の五輪を舒べ、空火相ひ捻し左は心前に仰け、右は左の上に覆せ相ひ着くる勿れ。或は鉢印　又た(二)口傳あり、之を尊ぬべし。　眞言に曰く　曩莫三曼多、沒馱南、婆、薩嚩、吃里捨、涅素娜曩、薩嚩達摩、嚩始多、鉢羅鉢多、誐誐曩、三摩三摩、莎訶　○多寶印　(三)定印、又た口傳あり。(四)眞言に曰く　曩莫薩嚩怛他引蘖帝驃、尾濕縛目契弊、薩縛他、阿阿暗惡。

○(五)又た眞言あり　之を尊ぬべし。　○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛

南無釋迦牟尼佛　南無多寶佛　南無妙法蓮花經王　南無普賢菩薩　南無文殊師利尊　南無觀世音菩薩　南無彌勒菩薩　南無多聞持國　南無十羅刹女

南無金剛界一切諸佛　南無大悲胎藏界一切諸佛。

○入我我入　○本尊加持　二尊印明先の如し　○正念誦　(朱)釋迦眞言　○本尊加持　○散念誦

佛眼、大日、(兩界)、釋迦、多寶、普賢、(二種)(六)無量壽命　法花肝心、不動、降三世、(七)經、一字、

○普供三力等　○佛母加持　○八供　○事供　○讃

○六字經　○禮佛　○廻向　○解界以下は金剛界次第の如し。

六字經　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持灑水

○加持供物　○ま字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○遍禮

○表白。

敬て眞言教主大日如來、金剛胎藏の兩部曼荼羅の諸尊聖衆、殊別には本尊聖者六字尊、惣じては佛眼所照帝網重重の一切三寶に白して言さく、夫れ以れば忿怒威猛の形は偏へに惡人を伏し、眞言難思の力は忽ちに魔魅を除く、以て神呪を結んで百年の壽命を堅め、假りに尊像を摸して無邊の所求を滿す、草木の無言なる、呪猶ほ枝葉を生じ、人倫の有情祈れば早く感應あり、帝釋奉事して一天を施し護持し、四王恭敬して利益を萬願に與ふる者なり。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○(一)勸請　大聖慈悲六字尊

蓮花部中諸聖衆。

○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪　○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

觀想せよま字あり、八功德水となる、廣く法界に遍して崖際あることなし、其の水中に欠字あり變じて寶山王となる、四寶所成なり、其の上に大樓閣あり、高ふして中邊な

(一)勸請　或は願はくは、願にかふる時は、其の文は本尊界會六字句、六大八大諸大菩薩とふ。

し、諸大妙寶玉種種に嚴飾せり、其の中に𑖀字あり變じて蓮花座となる、座上に𑖀字あり、轉じて獨古杵となる、杵轉じて觀自在菩薩となる、及び蓮花部の聖衆皆な壇上にあり、乃至天龍八部前後に圍繞す云云

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○(一)迎請　二羽內縛して右の大指を鉤の如くして之を招く　唵阿嚕力迦壹醯枳莎訶。　○(二)辟除　馬頭道順

○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴　○大日印明　○本尊印明　(三)二小指●二無名指內に相ひ叉へ、二中指直く立て、風を以て中の背に付け、二大指を以て二無名指を押せ(朱)內三古(キャチ)なり。佉知佉知(チウ)毗知絨壽(カムシュ)絨壽、多知(タチバチ)婆知。

○(四)叉の印　二手各の大指を以て中指の頭を捻し、而して左手は掌を仰け右手は掌を覆ひ、(五)頭を以て左右の(六)指、中指の間に入れ(七)右の小指を以て左の無名指の頭を押せば成ず、四處を加持せよ。(朱)左右各の空火相ひ捻して左を仰けて右を覆ふ

押せ、右の無名指を以て左の頭を押せば成ず、四處を加持せよ。

て、右の風指を左の空火の中に入れて、左の小指、右の空火が中に入れよ、右の無名指をもて左の風指を押せ、右の小指を以て左の無名指を押せ、四處を加持せよ。

○不動　劒印、慈救呪　○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○次に禮佛

(一)迎請の召請なり。蓮花部

(二)辟除の結界。蓮花部

(三)二小指云云明仙律師傳といふ、此の印は經軌になし、(四)又の印日本感得の印なり則ち寬宿僧都の感得する所なり。

(五)頭右の頭指か。

(六)指大指か小指か。

(七)右の小指の上に、左の小指を以て右の大指、中指の間に入れ、の文脫するか。

南無六字章句觀世音　或は六字明王　○入我我入　○本尊加持　○正念誦　大日本尊　○本尊加持　○散念誦　佛眼、大日、正觀音、六字、十五結なり、但し結願の時八結、(一)時別に五百反　結線は百反に一結、三時に合せて寸なり所入五六尺許りなり。)　大威德、經(時別に一卷或は三卷)　一字

○佛母加持　○八供　○事供　○讃　○普供三力　○禮佛　○廻向

○解界已下金剛界次第の如し。

○六字供所

○奉供　供養法〻〻〻度　○奉讃　六字神呪王經〻〻〻部　○奉念　佛眼眞言

大日眞言　聖觀音眞言　(二)八字文殊眞言　如來慈護眞言　馬頭眞言

大威德眞言　一字金輪眞言。

右奉爲常の如し　年　月　日　阿闍梨

(一)時別に五百反一時に五百反白一反に一時に一結宛なれば一日に十五結なり。二十時は百結なり。一時に五結なれば百八結なり。

(二)八字云云朱註に云く、諸尊に此の眞言を加へ誦せば能く成就眞言成ずと雖も必ず能成就眞言を加ふと。

國譯小卷　觀音部

○聖觀音供次第

聖觀音供七箇日支度

蘇。蜜。名香 丁子・沈・白檀　壇一面。燈臺二本。脇机一脚。半疊一枚。

壇供米 常の如し　御明油 常の如し　壇敷布一端。閼伽桶一口 杓を加ふ　閼伽折敷一枚。長櫃一合。阿闍梨。承仕。駈仕。淨衣。白色

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

（壇圖あれども之を略す。）

聖觀音供次第 付淨澤(一)小次第。息災に之を修す。

水　○次に驚覺　○先づ淨三業三部被甲護身 常の如し　○次に加持香

敎主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、金剛界會三十七尊、九會曼荼羅中の諸尊聖衆、並に大慈胎藏入葉蓮臺十三大會界會の諸尊、殊には本尊聖者聖觀自在尊、蓮花部中の諸尊聖衆、惣じては佛眼所照の普賢境界中の若干の三寶願界に白して言さく

○聖觀音供次第

聖觀音供七箇日支度

蘇。蜜。名香 丁子・沈・白檀　壇一面。燈臺二本。脇机一脚。半疊一枚。

壇供米 常の如し　御明油 常の如し　壇敷布一端。閼伽桶一口 杓を加ふ　閼伽折敷一枚。長櫃一合。阿闍梨。承仕。駈仕。淨衣。白色

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

（壇圖あれども之を略す。）

聖觀音供次第 付淨澤(一)小次第。息災に之を修す。

水　○次に驚覺　○次に四禮　○次に金剛持遍禮　○次に表白　敬て眞言

敎主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、金剛界會三十七尊、九會曼荼羅中の諸尊聖衆、並に大慈胎藏入葉蓮臺十三大會界會の諸尊、殊には本尊聖者聖觀自在尊、蓮花部中の諸尊聖衆、惣じては佛眼所照の普賢境界中の若干の三寶願界に白して言さく

(一)小次第　淨澤遍照寺寛朝大僧正所製の金剛界略次第と小次第とを合ふ。此れ略次第に諸尊法を引入して行ずるなり。

夫れ以れば隨類應度の方便は、三世諸佛の本誓、普門示現の玄應は觀音大士の悲願なり、所以に弘誓は深く一子平等の哀を垂れ、慈悲は厚く六趣隨類の形を示す、誠に六十二億壷形壽の供養も一時の禮拜に異ることなし、三十三身遍法界の利益自ら須臾の歸依に顯る、中ん就く此の大士の本誓を案ずるに云く、常恒に憶念相續不斷なれば、聖觀自在金色身を現じて諸の垢障を除き所願を滿足す、加之らず惡夢惡想百千萬種の諸の不吉祥一時に現前するも、斯の呪力に由て即時に消滅し、能く淸淨にして成就安樂ならしむ。文是を以て此の本誓悲願を憑仰し、息災安穩のために此の法を勤仕せしめ給ふ所なり、御願鄭重なり悉地唐捐ならんや、然れば則ち無畏を晝夜に施し、擁護を常恒に致す云云

○次に神分　○次に五悔　○次に發菩提心等 常の如し　○次に(二)勸請　大聖慈悲觀世音　蓮花部中諸聖衆　○次に五大願三力偈等　○次に勝心印明　○次に大金剛輪　○次に地結　○次に四方結　○次に(三)慶吒　○次に金剛合掌

○次に召罪　○次に道場觀　壇中に𑖭字あり八葉の蓮花となる。

○次に摧罪　○次に寶髮藥(ホウヒンスヤ)を具す、其の上に𑖭字あり淨月輪となる、月輪の中に𑖭字あり、黃金色にして

(一)勸請　或は發願に換ふる時は文左の如し。至心發願、唯願大日、本尊界會、大慈大悲、觀自在尊、蓮花部中、諸大聖衆、兩部界會。

(二)慶吒　金剛眼の印明なり、金剛界次第に出づ。

無量の光明を具す、其の字變じて蓮花となる、蓮花變じて觀自在菩薩となる、身色黃金にして光明赫奕たり、輕穀の衣を被、赤色の裙を着す、左の手は臍に當てゝ未敷蓮を執り、右の手は胸に當てゝ開花の勢を作る、頭冠瓔珞あり、首に無量壽佛を戴き、及び蓮花部の聖衆前後に圍繞せり。　○次に大虛空藏已下、振鈴に至るまで金剛界次第の如し。

○次に大日印明　○次に本尊（内縛して右の大指を出して之を立て、左の大指を掌に入れよ。）　唵阿嚕力迦、娑婆訶

○次に八供養　○次に事供　○次に讃　○次に普供三力　○祈願　○禮佛

（南無聖觀自在、三反四攝の次に之を加ふ。）　○次に佛母加持　○次に入我我入　○次に（一）本尊加持（前の印明）

○次に百字明　○次に正念誦　○次に本尊加持　○次に散念誦　○次に佛母加持　○次に後供養廻向解界奉送等（常の如し）

○結願作法　行法は常の如し、但し神分祈願ヲセズシテ五悔已下後供養の時、閼伽以前佛布施を供養す、次に金二打して卷數を讀む。

○次に結願事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、

（一）本尊加持　眞言に本尊加持以前祕觀あるべしと、仰に云く祕觀とは聖觀音大日同體の旨を觀ず。

本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして、必ず自他の所願を成せん。

抑、　神分、　祈願、　次に後鈴以下常の如し。

○聖觀音供所　○奉修　供養法　○奉念　大日眞言　佛眼眞言　本尊眞言

馬頭觀音　延命　（一）八字文殊　一字金輪

右は　禪定仙院の玉體安穩にして寶壽を增長し、無邊の御願決定して成就せしめ奉らんとして始め今月　日より今日に迄るまで、幷に一七箇日夜、殊に精誠を致し祈り奉ること件の如し、仍て遍數を勒し謹んで解す。年　月　日　阿闍梨

○千手供次第

千手供七箇日支度

蘇。　蜜。　名香　丁子・沈・白檀　壇一面。　燈臺二本。　脇机一脚。　半疊一枚。

壇供米（常の如し）　御明油（常の如し）　壇敷布一端。　閼伽桶一口（杓を加ふ）　閼伽折敷一枚。　長櫃一合。　阿闍梨。　承仕。　駈仕。　淨衣。（白色）

右注進すること件の如し。年　月　日　阿闍梨

（一）八字文殊　此の呪を能成就の明と名く、諸尊法の散念誦の一字の前に之を用ゐざることなし、是れ澤方の習なり。

千手供次第　付廣澤小次第

○先づ淨三業三部被甲護身　常の如し　○次に加持香水
○次に驚覺　○次に四禮　○次に金剛持遍禮　○次に表白
敬て眞言教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、金剛界會三十七尊、九會曼荼羅中の諸尊聖衆、並に大悲胎藏の八葉蓮臺十三大會界會の諸尊、殊には本尊聖者千手千眼觀自在尊、蓮花部中の諸尊聖衆、惣じては佛眼所照の普賢境界中の若干三寶の願界に白して言さく　夫れ以れば隨類應度の方便は、三世諸佛の本誓、普門示現の玄應は觀音大士の悲願なり、所以は弘誓深うして一子平等の哀を垂れ、慈悲厚ふして六趣隨類の形を示す、誠に六十二億盡形壽の供養一時の禮拜に異ることなし、三十三身遍法界の利益自ら須臾の歸依に顯る、是を以て三祕密の軌儀を整へて觀世音の秘法を修す、御願鄭重なり悉地唐捐ならんや、抑〻纔かに名號を聞くに難を却く、況んや秘法を修するに於てをや。然れば則ち無畏を晝夜に施し、擁護を常恒に致す〻〻

○次に神分　○次に五悔　○次に發菩提心等　常の如し　○次に(一)勸請　千手千眼觀世音　蓮花部中諸聖衆　○次に五大願三力偈等　○次に勝心印明　○次に大金剛輪　○次に地結　○次に四方結　○次に慶吒　○次に金剛合掌　○

(一) 勸請　或は發願に換ふる時は文左の如し。本尊界會、千手千眼、蓮花部中、諸尊聖衆

次に召罪　○次に擯罪　○次に道場觀　妙高山頂に八葉の大蓮花を想へ、蓮花上に於て八大金剛柱あり、寶樓閣となる、蓮花臺中に(一)紇字を想へ、字より大光明を流出して遍く十方世界を照すに、所有る受苦の衆生此の光に照觸せられて皆な解脫を得。又た大光明の中より紅色の蓮花を踊出す、蓮花變じて千手千眼の觀自在菩薩となる、相好圓滿し威儀具足せり、十波羅蜜及び八供養等の菩薩各の本位に住せり。又た樓閣の四隅に於て白衣、大白衣、多羅、毗俱胝等の四菩薩あり、各の無量の蓮花部の聖衆と與に前後に圍繞せり。　○次に大虛空藏已下振鈴に至るまで金剛界次第の如し。

○次に大日印明　○次に(二)本尊印　二手金剛合掌して稍し手背を曲げ、合掌相離して忍願二度なる以て相ひ合せよ、檀惠禪智四度折り開いて各の直く竪てよ。

陁羅尼　小呪　唵縛曰羅達磨訖利。

○次に八供養　○次に事供　○次に讃　○次に普供養三力偈祈願並に禮佛　南無千手大聖三反　○次に佛母加持　○次に本尊加持　○次に入我我入　○次に本尊加持　○次に百字明持　○次に後供養廻向並に解界奉送等　常の如し

○結願作法　行法常の如し、但し神分祈願ヲセズシテ(三)五悔等常の如し、行じ了て

(一) 紇字を想へ　裏書に種子三の異りを示す中、如意寶は祕事なり、能く一切を具する故に

(二) 本尊印　此の印又は二重五股の印といふ、或は蓮花五股の印といふ、又は九峰の印といふ。

(三) 五悔云云　註にいふ或は金二打

(一)次に云云註にいふ或は一打。

後供養の塗花●燒香●飲燈●佛布施 兩手に捧げて供養眞言を讀み、後に壇上の右方に置き行者の左に之を置く。 ○閼伽 (二)次に金二打 卷數 本尊の左方に立つべし

○次に結願事由 一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、 ○神分、 ○祈願、 ○次に後鈴以下常の如し。

○千手觀音供所 ○奉修 供養法廿一箇座 ○奉念 大日眞言二千一百遍 佛眼眞言 本尊眞言二萬一千遍 千手陀羅尼一千五十遍 聖觀音眞言二千一百遍 馬頭觀音眞言 延命眞言 八字文殊眞言 一字金輪眞言。

右は 禪定仙院の玉體安穩にして寶壽を增長し、無邊の御願決定して成就せしめ奉らんとして、始め今月十二日より今日に迄るまで、並に一七箇日夜の間、殊に精誠を致して祈り奉ること件の如し、仍て遍數を勒し謹んで解す。

安元二年十二月十九日行事 阿闍梨法印大和尙位權大僧都、、

故法印御房蓮花王院三十三壇に參勤せしめ給ふ時の御卷數なり、供する卷數は之を以て之に准知すべきなり。

○馬頭觀音供次第

馬頭觀音供七箇日支度

蘇。 蜜。 名香。丁子・沈・白檀。 壇一面。 燈臺二本脇机一脚。 半疊一枚。 壇供米。常の如し 御明油。常の如し 壇敷布一端。 閼伽桶一口。杓を加ふ 閼伽折敷一枚。 長櫃一合。 阿闍梨。 承仕。 駈仕。 淨衣。白色

右注進すること件の如し。年 月 日 阿闍梨

(壇圖あれども之を略す。)

馬頭觀音供次第 息災に之を修す。 或は調伏 ○先づ淨三業三部被甲護身 常の如し ○次に加持香水 ○次に驚覺 ○次に四禮 ○次に金剛持遍禮 ○次に表白

敬て眞言教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、金剛界會の三十七尊、九會曼荼羅中の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺十三大會界會の諸尊、殊には本尊聖者馬頭觀音、蓮花部中の諸尊聖衆、惣じては佛眼所照の普賢境界中の若干三寶願界に白して

言さく、　夫れ以れば隨類應度の方便は、三世諸佛の本誓、普門示現の玄應は觀音大士の悲願なり、所以に弘誓深うして一子平等の哀を垂れ、慈悲厚うして六趣隨類の形を示す、誠に六十二億盡形壽の供養は、一時の禮拜に異ることなし、三十三身遍法界の利益自ら須臾の歸依に顯る、是を以て中丹の精誠を抽でゝ上乘の祕法を修す、匪石至て苦なる、悉地豈に疑はんや、然れば則ち無畏を晝夜に施し擁護を常恒に致さん。

○次に神分　○次に五悔　○次に發菩提心等（常の如し）　○次に勸請　大聖馬頭觀世音　蓮花部中諸聖衆　○次に五大願三力偈等　○次に勝心印明　○次に金剛輪　○次に地結　○次に四方結　○次に麼吒　○次に金剛合掌　○次に召罪　○次に摧罪　○次に道場觀

觀想せよ壇中に𑖭字あり、變じて蓮花座となる、座上に𑖮字あり、𑖮字變じて白馬頭となる、白馬頭變じて賀耶紇里縛明王となる、其の身黃に非ず赤に非ず、日の初めて出づる色の如し、白蓮花を以て瓔珞となして其の身を莊嚴す、光燄猛威にして赫奕として鬘の如し、指の甲長利にして雙牙上みさまに出でたり、首髮師子の項の毛の如し、極孔怒の狀に作る、此は是れ蓮花部の忿怒持明王なり、猶ほし轉輪王の寶馬の、四州を巡履して一切の時、一切の處に於て其の心息からざるが如し、諸の菩薩大精進力亦た復た是の如し所以に是の如くの威猛の勢を得、生死の重障の中に於て身命を顧みず摧伏するところの者多く、正しく白淨の大悲心たる故に、白蓮花を用て其の身を嚴るなり、乃至蓮花部の聖衆前後に圍繞せり。

○次に大虛空藏已下振鈴に至るまで金剛界次第の如し。　○次に大日印明　○次に本尊（二手虛合して二頭・二無名屈して掌に入れ、各の相ひ背け、二大指を並べて微しき屈して着くる勿れ。）歸命（二）唵（カム）種子吽、佉那野、畔惹薩（ハンシヤソ）埵（ハ）二合吒野、娑嚩（ソハ）二合賀

○次に八供養　○次に事供　○次に讃　○次に普供養三力祈願並に禮佛　南無賀耶（カヤ）紇哩（キリハ）婆三反　○次に佛母加持　○次に入我我入　○次に本尊加持（前の印言）　○次に百字明（二）　○次に正念誦（朱）上の呪　○次に本尊加持　○次に散念誦　○次に佛母加持　○次に後供養廻向並に解界奉送等（常の如し）

○結願作法　行法常の如し、　神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施（閼伽の前）　○次に金二打卷數。　○次に事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の聞道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲の本誓に任せて內外の供養

（一）唵云云　原本梵字、今對譯文字は胎藏龍軌に出づ

（二）百字明部百字の明。蓮花

を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして、早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして、必ず自他の所願を成せん。

抑、○神分　○祈願　○次に後鈴已下常の如し。

○馬頭觀音供所　。奉修　供養法　。奉念　大日眞言　佛眼　本尊眞言

聖觀音　延命　八字文殊　一字金輪。

右は　禪定仙院の玉體安穩にして寶壽を增長し、無邊の御願決定して成就せしめ奉らんとして、始め今月　日より今日に迄るまで、並に一七箇日夜の間、殊に精誠を致して祈り奉ること件の如し、仍て遍數を勒して謹んで解す。

年　月　日　阿闍梨

○十一面供次第

十一面供七箇日支度

蘇。蜜。名香。丁子。沈。白檀。　壇一面。燈臺二本。脇机一脚。半疊一枚。壇供米。常の如し　御明油。常の如し　壇敷布一端。閼伽桶一口。杓を加ふ　閼伽折敷一枚。長櫃一合。阿闍梨。承仕。駈仕。淨衣。白色

右注進すること件の如し。建久三年十二月十七日　阿闍梨權律師

主上御疱病御祈卅三壇の內、御室に依て仰いで此の支度を注進せしめ給ひ了んぬ。

（壇圖あれども之を略す。）

十一面供次第　廣澤小次第を用ふ

○先づ淨三業三部被甲護身　常の如し　○次に加持香水

○次に驚覺　○次に四禮　○次に金剛持遍禮　○次に表白

敬て眞言敎主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、金剛界會の三十七尊、九會曼荼羅中の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺十三大會界會の諸尊、殊には本尊聖者十一面觀自在尊、蓮花部中の諸尊聖衆、惣じては佛眼所照の普賢境界中の若干の三寶願界を每に驚して白して言さく　夫れ以れば、隨類應度の方便は三世諸佛の本誓、普門示現の玄應は觀音大士の悲願なり、所以に弘誓深うして一子平等の哀を垂れ、慈悲厚うして六趣隨類の形を示す、誠に六十二億盡形壽の供養、一時の禮拜に異ることなし、三十三身法界の利益自ら須臾の歸依に顯る、是を以て三祕密の儀軌を整へて十一面の祕法を修す、御願鄭重なり悉地唐捐ならんや、抑〻纔かに名號を聞いて難を却く、況

んや祕法を修するに於てをや、然れば則ち無畏を晝夜に施し、擁護を常恒に致す。

○次に神分（常の如し）　○次に五悔　○次に發菩提心等（常の如し）　○次に勸請　大聖慈悲十一面　蓮花部中諸聖衆　○次に五大願三力偈等　○次に勝心印明　○次に大金剛輪印明　○次に地結　○次に四方結　○次に底吒　○次に金剛合掌

○次に召罪　○次に摧罪　○次に道場觀　大海の中に須彌山あり、四寶の所成なり、山上に寶樓閣あり、其の中に曼荼羅壇場あり、壇の中に八葉の蓮花あり、其の上に淨月輪あり、月輪の上に(一)ā字あり、變じて軍持となる、變じて十一面觀自在菩薩の身となる、四臂を具足せり、右の第一手に念珠を把る、第二手は施無畏、左の第一手に蓮花を持し、第二手に軍持を執る、十一面とは、當前の三面は寂靜の相、右邊の三面は威怒の相、左邊の三面は利牙出現の相、後の一面は怒笑の容、最上の一面は如來の相なり、頭冠に各の化佛あり、種種の瓔珞を以て其の身を莊嚴す、蓮花部の聖衆、及び護世大威德天等悉く圍繞せり。

○次に大虛空藏已下、振鈴に至るまで金剛界次第の如し。　○次に大日印明　○次に(二)本尊印　二手を以て右、左を押し外に相ひ叉へ、合掌して印を以て頂上に置け、金剛合掌なり。　唵、那羅那羅地里地里度嚕度嚕壹知

(一) 裏書に稜三の異を示す。

(二) 本尊印　仰に云く、金剛合掌、深く相叉へ頂上に置く、十指は十面兩掌堅く合して間隙なからしむ一面なり、故に自身即ち十一面にして十地に佛果を加ふ、十一面とする義なり

嚩知者鬱者鬱鉢羅者鬱鉢羅者鬱者鬱、矩蘇銘矩蘇摩嚩嚩壹里弭里、止里止里、致惹羅摩、跋曩也、跋羅摩秣馱、薩怛嚩摩訶迦嚩尼迦、娑嚩訶。心眞言　(一)唵嚕鷄入嚩囉紇哩二合

又た小呪　(二)唵摩訶迦盧尼迦也、莎訶。

○次に八供養　○次に事供　○次に讚　○次に普供養三力偈祈願並に禮佛（南無十一面尊三反）

○次に佛母加持　○次に入我我入　○次に本尊加持（印明は前の如し。）　○次に百字明

○次に正念誦（朱）第三呪　○次に本尊加持　○次に散念誦（佛眼　本尊）　大日　○次に佛母加持　○結願作法　行法は常の如し、但し神分祈願ヲセズシテ(三)五悔等常の如く行じ了て後、供養の塗花燒飲食燈を佛に布施す（兩手に捧げて供養眞言を讀み、後に壇上の右方（行者の左）に之を置く）闕伽　次に(四)金二打　卷數（本尊の左方に立つべし。）

○次に結願事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間、道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

(一) 唵云云　原本梵字、對譯文字は諸家眞言集に依る

(二) 唵云云　原本梵字、對譯文字は集經一所載による

(三) 五悔等　或は金二打。

(四) 金二打　或は一打す。

抑、　○神分、　○祈願、　○次に後鈴以下常の如し。

○十一面觀音供所　。奉修　供養法二十一箇座　。奉念　大日眞言二千一百遍

佛眼眞言　本尊眞言二萬一千遍　聖觀音眞言二千一百遍　馬頭眞言　延命眞言　一字輪眞言。

右は　金輪聖王の玉體安穩にして寶壽を增長し無邊の御願決定して成就せしめ奉らんとして、始め今月十八日より今日に迄るまで並に一七箇日夜の間、殊に精誠を致して祈り奉ること件の如し、仍て遍數を勒し謹んで解す。建久三年十二月二十四日

阿闍梨權律師法橋上人位。　札に云く　十一面供御卷數（三十三壇の內）權律師〻〻

○准胝供次第

准胝佛母供七箇日支度

蘇。　蜜。　名香。（丁子・沈・白檀。）　壇一面。　燈臺二本。　脇机一脚。　半疊一枚。　壇供米。（常の如し）　御明油（常の如し）　壇敷布一端。　閼伽桶一口。　杓を加ふ

閼伽折敷一枚。　長櫃一合。　阿闍梨。　承仕。　駈仕。　淨衣。（白色）

右注進すること件の如し。　年　月　日　阿闍梨

准胝佛母供次第（息災に之を修す。）　行者面を東に向ふ　○先づ淨三業三部被甲護身（常の如し）　○次に加持香水　○次に驚覺　○四禮　○次に金剛持遍禮　○次に表白

敬て眞言教主三世常住の淨妙法身摩訶毗盧遮那如來、金剛界會の三十七尊、九會曼荼羅中の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺十三大會界會の諸尊、殊には本尊聖者准胝佛母大慈悲尊、如來部中の諸尊聖衆、惣じては佛眼所照の普賢境界中の若干三寶の願界に白して言さく　夫れ以れば隨類應度の方便は、三世諸佛の本誓、普門示現の玄應は觀音大士の悲願なり、所以に弘誓深うして一子平等の哀を垂れ、慈悲厚うして六趣隨類の形を示す、誠に六十二億盡形壽の供養は一時の禮拜に異ることなし、三十三身遍法界の利益自ら須臾の歸依に顯る、是を以て中丹の精誠を抽でゝ上乘の祕法を修すれば匪石至て苦なる悉地豈に疑はんや、然れば則ち無畏を晝夜に施し擁護を常恒に致す。

〻〻〻

○次に神分　○次に五悔　○次に發菩提心等（常の如し）　○次に勸請　准胝佛母大悲尊　如來部中諸聖衆　○次に五大願三力偈等　○次に勝心　○次に大金剛輪　○次に地結　○次に四方結　○次に麽吒　○次に金剛合掌　○次に召

罪　○次に懺罪　○次に道場觀

觀想せよ、大海の中に蓮花あり、難陀拔難陀二龍王共に蓮花の莖を扶く、花臺上に𑖭字あり、淨月輪あり、輪中に𑖭字あり變じて賢瓶となる、賢瓶變じて准胝佛母となる、身黃白色にして種種の莊嚴あり、輕穀衣を着す、白螺を釧となす、面に三目あり身に十八臂を具す、上の二手は說法の相に作り、右の第二手は施無畏、第三手は劒を把り、第四手は數珠を把り、第五手は微若布羅迦（漢には子滿果と言ふ、此の間になく四國にあり。）を把り、第六手は鉞斧を把り、第七手は鈎を把り、第八手は跋折羅を把り、第九手は寶鬘を把り、左の第二手は如意寶幢を把り、第三手は蓮花を把り、第四手は澡罐を把り、第五手は索を把り、第六手は輪を把り、第七手は螺を把り、第八手は賢瓶を把り、第九手は般若波羅蜜夾を把る、怜愍の眼を作りて行者を看たまふ、威儀具足し相好圓滿せり、乃至八供、四攝等の菩薩恭敬し圍繞せり。

○次に大虛空藏已下、振鈴に至るまで金剛界次第の如し。　○次に大日印明　○次に本尊印（内縛三古の印　二空を風側に着けよ。）　○又の印（二手外縛して二風・二空並べ直く立てよ。）　（一）五處を加持して頂に散せよ　（二）娜嘉颯哆南去一三藐三勃陀去俱胝南二怛姪他（寧夜の反）三唵四左鞞五祖鞞六准胝七莎

（一）五處已下は細注にかくべきか。
（二）眞言は原本梵字、對譯文字は准胝軌に依る。

嚩二訶。

○次に八供養　○次に事供　○次に讚　○次に普供養三力祈願　○禮佛（南無准胝佛母三反）　○次に佛母加持　○次に入我我入　○次に本尊加持（前の印言）　○次に百字明　○次に正念誦　○次に本尊加持　○次に散念誦　○次に佛母加持

○次に後供養廻向並に解界奉送等（常の如し）　○結願作法　行法常の如し、神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施（閼伽の前）　次に金二打卷數　次に事由。一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間、道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿せしめて本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、　○神分　○祈願　○次に後鈴以下常の如し。

○准胝佛母供所　。奉修　供養法　。奉念　大日　佛眼　本尊　聖觀音

延命　八字文殊　一字金輪。

右は　禪定仙院の玉體安穩にして寶壽を增長し、無邊の御願決定して成就せしめ奉

らんとして、始め今月　日より今日に迄るまで一七箇日夜の間、殊に精誠を致して祈り奉ること件の如し、仍て逼數を勒し謹んで解す。　年　月　日　阿闍梨

○如意輪供次第

如意輪觀音供七箇日支度

蘇。　蜜。　名香。丁子・沈・白檀。　壇一面。　燈臺二本。　脇机一脚。　半疊一枚。

壇供米。常の如し　御明油。常の如し　壇敷布一端。　閼伽桶一口。杓を加ふ　閼伽折敷一枚。　長櫃一合。　阿闍梨。　承仕。　駈仕。　淨衣。白色

右注進すること件の如し。　年　月　日　阿闍梨

如意輪に別行法息災に之を修す。又た增益　○普禮　○着座　○塗香　○淨三業

○三部被甲　○加持灑水　○加持供物　○ま字觀　○淨地　○淨身　○

觀佛　○驚覺　○逼禮　○次に金二打して表白閼白の時許り。

敬て祕密教主大日如來、兩部界會の諸尊聖衆、別しては娑婆世界施無畏者震多摩尼聖如意輪觀自在尊、外金剛部の護法天等、惣じては佛眼所照の普賢境界中の若干の三寶願界を驚して白して言さく、誠に一心を抽んで、志を六情に專らにし三密の道場を莊り

(一)別行法一尊の儀軌より拔き出して小次第に引き入れざるを別行の法といふ。

て隨方の供具を調ふ、始め曜宿相應の今日より聖如意輪觀音の法を勤修せしむ、御願の趣如何となれば、夫れ隨類應度の方便は、諸佛菩薩の本誓なりと雖、普門示現の德深く御すは觀音大士に過ぐることなし、方便の化儀尤も深うして一子平等の慈悲を垂れ同體の智力隔てなく、六道隨類の色形を示す、誠に利物を懷となし、身を十地に休い拔濟を心に在き、覺を三身に仰ぐ、六十二億盡形壽の供養も一時の禮拜に異ることなし三十三身逼法界の利益自ら須臾の歸依に顯る、中ん就く此の大士の本誓を案ずるに常恒に憶念し相續して斷せずといふ、聖觀自在は金色の身を現じて諸の垢障を除き所願を滿足したまふ、加之らず惡夢惡想百千萬種の諸の不吉祥一時に現前すとも、斯の呪力に由て即時に消滅し、能く淸淨にして成就し安樂ならしめたまふ　文是を以て、此の本誓悲願を憑仰し、息災安穩の爲めに此の御願を勤修せしめ給ふ所なり、然れば則ち擁護を常恒に垂れ、不吉祥の事を未然に拂ひ、摩頂を晝夜に施し、御心中の求願を成就せしめ給へ、仰ぎ願くは本尊聖者、本誓の悲願を還念し給ひ、御丹心の法を照して新なる靈驗を必ず現前せしめ給へ、抑〻〻

○次に神分　法をして久しく住せしめて人天を利益し、大施主を護持して心中の所

願決定して成就の爲めに　摩訶毘盧舍那佛一打　外金剛部の護法天等より始め奉りて、梵釋四王龍神八部焔魔法皇五道の冥衆、別けては本命元神當年の屬星北斗七星の諸の宿曜等、丹生高野の兩所權現十二王子百廿伴、惣じては王城鎮守の諸の大明神、自界他方の權實二類、併ら皆な法樂莊嚴して威光倍〻增せしめ奉らんが爲めに、惣じては神分般若心經　一打　大般若經　一打　弘法大師普賢の行願圓滿せしめ奉らんが爲めに阿彌陀佛一打　金輪聖皇天長地久の御願圓滿の爲めに　摩訶毘盧舍那佛一打　貴賤の靈等皆な成佛道の爲めに　摩訶ビル舍那佛一打　太上天皇御息災安穩にして寶壽を增長したてまつらんが爲めに　摩カヒル舍那佛一打　大聖不動明王一打　親王國母關白殿下左右丞相文武百寮の各の願圓滿せんが爲めに　摩訶毘盧舍那佛一打　觀自在菩薩一打　師匠父母息災安穩にして心中の所願成就し圓滿せんがために　摩訶ヒル舍那佛一打

仰いで祕密教主摩訶毘盧舍那如來、本尊界會の聖、如意輪兩部界會の諸尊聖衆、外金剛部の護法天等に承乞したてまつる、各の本誓悲願を遥念して三密の道場に降臨影向して、所設の供具を哀愍納受したまへ、而して大施主を護持し無始より以來の一切の罪障を消除し解脫して、一切の御願を決定成就せしめ給へ　摩カヒル舍那佛一打　金剛手菩薩一打　聖如意輪菩薩一打　大孔雀明王一打　從ふ所の眷屬の各の願圓滿せんが爲めに　摩訶毘盧舍那佛一打　伽藍安穩にして佛法を興隆し廣く佛事を作さん爲めに　摩カヒル舍那佛一打四大天王一打　乃至法界平等利益の爲めに　摩カヒル舍那佛一打

○次に五悔　○菩提心　○三昧耶戒　○勸請句　修法には初夜勸請、後夜日中發願　大聖如意輪觀世音　蓮花部中諸聖衆　若くは發願　其の詞に云く　至心發願　唯願大日　本尊界會　如意輪尊　兩部界會　〃〃　○次に五大願　○普供養三力偈　一打

○四無量觀　妙觀察智定印。　○勝心　○大金剛輪　○地結　○四方結　○召罪

○懺悔　○業障除　○成菩提　○次に道場觀　如來拳印　觀想せよ、心前に𑖀字あり、字變じて七寶の宮殿樓閣となる、珠鬘瓔珞を垂れたり、四面に階道あり寶樹行列せり、其の壇場中に𑖀字あり、變じて紅蓮花となる、花臺の上に𑖀字あり、變じて滿月輪となる、上に𑖀字、左右に𑖀𑖀字あり、三字變じて金剛寶となる、金剛寶變じて如意輪觀音となる、身色黃金にして六臂を具足せり、冠中に自在王有ます、說法の相に住せり、千の光明を流出して六道四生を照せり、右の第一手は思惟して有情を愍念する相なり、第二手は如意寶を持す、一切の願を滿せんがためなり、第三手は念珠を

明王一打　佛眼佛母一打　大聖不動明王一打　金輪佛頂一打

持す、傍生の苦を度せんがためなり、左の第一手は光明山を按す、無傾動を成就す、第二手は蓮花を持す、能く諸の非法を淨む、第三手には輪を持す、能く無上法を轉す、六臂廣博の體にして能く六道に遊ぶ、大悲方便を以て諸の有情の苦を斷ず、八大觀音及び蓮花部の無量の聖衆前後に圍繞せり。七處加持すること常の如し。

○(一)大虛空藏 三力偈　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請本尊 内縛して右の大指立て身に向へて之を招け。

唵阿嚕力迦曳醯四娑縛賀　○次に辟除 馬頭印言を用ふ 合掌して二頭指・二無名指相ひ背け各の合し、二大指並べ堅て微しく屈して頭指に着くる勿れ。

(二)唵引一阿密㗢二合覩納婆二合縛吽發吒娑縛二合賀

○空網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座 八葉印歸命頂　○四攝　○拍掌

○振鈴　○大日印明 智拳印 ○次に本尊三種印明

○根本印 虛心合掌して忍願蓮葉形にし、進力は實形、地水 (三)四指開き立てよ、轆の如くし四處を加持す。

(四)曩謨、引囉怛曩二合怛囉夜引耶、曩莫阿理也、二合引嚩路引枳帝、濕嚩二合囉引耶、冒引地薩怛嚩二合引耶、摩賀引薩怛縛二合引野、摩賀迦引嚕抳迦也、怛徐也二合他去合他引唵斫訖囉、二合韈底丁以反振跢引摩抳、摩賀引跋納銘、嚕嚕底瑟姹、二合入縛二合引攞、阿竭囉灑二合耶、吽發吒、娑縛賀。

○(五)心印 前印に准ず、戒方檀惠縛して四處を加持す。　唵跋納麽二合振跢引麽抳入嚩二合攞吽　○隨心印 二羽外縛して進力實形にし、禪智並べ申べ、戒方又た舒べ、檀惠交へ堅て、四處を加持す。　唵嚩囉娜、跋納銘、吽。

○次に八供養 羯磨會　○次に事供 右　○次に讚 四智本尊　○普供三力祈願　○禮佛 南無大聖如意輪三反四 揺の次に之を加ふ。　○入我我入　○本尊加持 前の三種印言　○加持念珠 常の如し

○正念誦 心呪　○本尊加持 前の如し　○散念誦 佛眼 大日 白衣 馬頭 本尊(三種) 一字　○次に佛眼佛母　○八供　○事供 左　○讚 二　○普供　○三力　○祈願　○禮佛

○次に 一打して 廻向　○解界　○奉送 金界の如し。　○三部被甲　○禮佛　○出堂

○結願作法　神分祈願ヲセズシテ五悔以下常の如し、後供養の時佛布施 閼伽の前 次に金二打卷數　○次に事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、○神分　○祈願　○次に後鈴以下常の如し。

○如意輪觀音供所　○奉供　供養法〻〻座　○奉念　大日　佛眼　本尊　聖觀音　延命　八字文殊　一字金輪

(一)大虛空藏眞言唱へて後三小偈なり。

(二)唵云云 原本梵字、對譯文字は八字文殊軌による

(三)四指開き立てよ 左右に開くに非ず、地と水との間を開く。

(四)曩謨云云 已下三個の呪原本梵字、今は彼の軌(不空譯)によつて對譯文字とす。

(五)心印 二小二水外縛にすると立て交ると無長と不空の異義なり。

右は　禪定仙院の玉體安穩にして寶壽を增長し、無邊の御願決定して成就せしめ奉らんとして、今月　日より始め今日に迄るまで一七箇日夜の間、精誠を致して祈り奉ること件の如し、仍て遍數を勒して謹んで解す。　年　月　日　阿闍梨

○不空羂索供次第

不空羂索觀音供七箇日支度

蘇。　蜜。　名香。丁子・沈・白檀　檀一面。　燈臺二本。　脇机一脚。　半疊一枚。　壇供米。常の如し　御明油。常の如し　壇敷布一端。　閼伽桶一口。杓を加ふ　閼伽折敷一枚。　長櫃一合。　阿闍梨。　承仕。　駈仕。　淨衣。白色

右注進すること件の如し。　年　月　日　阿闍梨

不空羂索供次第（ケンジャク）息災に之を修す。　若しくは調伏。　○先づ淨三業三部被甲護身常の如し　○次に加持香水　○次に驚覺　○次に四禮　○次に金剛持遍禮　○次に表白開白許り

敬て眞言教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、金剛界會の三十七尊、九會曼荼羅中の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺の十三大會界會の諸尊、殊には本尊聖者不空羂索觀自在尊、蓮花部中の諸尊聖衆、惣じては佛眼所照の普賢境界中の若干の三寶願海に白して言さく　夫れ以れば隨類應度の方便は三世諸佛の本誓、普門示現の玄應は觀音大士の悲願なり、所以に弘誓深うして一子平等の哀を垂れ、慈悲厚うして六趣隨類の形を示す、誠に六十二億盡形壽の供養は一時の禮拜に異ることなく、三十三身遍法界の利益自ら須臾の歸依に顯る、是を以て中丹の精誠を抽んで丶上乘の祕法を修すれば、匪石至て苦（ねんごろ）に悉地豈に疑はんや、然れば則ち無畏を晝夜に施し、擁護を常恒に致す。、、

○次に神分　○次に五悔　○次に發菩提心等常の如し　○次に(一)勸請　大聖不空羂索尊　蓮花部中諸聖衆　○次に五大願三力偈等　○次に勝心印明　○次に大金剛輪　○次に地結　○次に四方結　○次に廣吒　○次に金剛合掌　○次に召罪　○次に摧罪　○次に道場觀　觀想せよ、樓閣の中に八葉の大蓮花臺あり、華臺上に月輪あり、月輪の中に𑖀（ボ）字あり、變じて羂索となる、羂索變じて不空羂索觀世音菩薩となる、首に花冠を戴く、冠中に阿彌陁佛あり、三面四臂にして遍身肉色なり、右手に念珠を持し、次の手に寶瓶を持し、左手に蓮花を持し、次の手に羂索を持す、鹿皮を以て袈裟となし、七寶を以て衣服となし、珠瓔環釧（セン）をもて種種に莊嚴せり、

(一)勸請或は發願に換ふる時は文左の如し。本尊界會、不空羂索、八大觀音。

赤蓮花に坐して大光明を放てり、及び蓮花部の諸尊、乃至無量の仙衆前後に圍繞せり。

○次に大虛空藏已下振鈴に至るまで、金剛界次第の如し。　○次に大日印明　○次に本尊印（二手蓮合し進力禪智縛し、右手禪度を左手の虎口中に入れよ。）　唵阿謨伽、跋娜摩幡捨、矩嚕駄、羯羅灑野、鉢羅吠捨野、摩訶跋輸跋底野、麽縛嚕拏、矩吠囉、沒羅憾摩、吠灑駄羅、跋娜摩、矩攞、三摩琰吽吽。（此の印明は千手軌に出づ。）

○次に八供養　○次に事供　○次に讃　○次に普供養　○三力祈願　○禮佛　南無不空羂索（三反）　○次に佛母加持　○次に入我我入　○次に本尊加持（前の印言）　○次に百字明　○次に正念誦（朱）隨作成就呪　○次に本尊加持　○次に散念誦　○次に佛母加持　○次に後供養廻向並に解界奉送等（常の如し）

○結願作法　神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施アカサキ　次に金二打卷數　次に事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿せしめて、本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして、早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、　○神分　○祈願　○次に後鈴以下常の如し。

○不空羂索觀音供所　。奉修　供養法、、座　。奉念　大日　佛眼　本尊　聖觀音　延命　八字文殊　一字金輪。

右は　禪定仙院の玉體安穩にして寶壽を增長し、無邊の御願決定して成就せしめ奉らんとして、始め今月　日より今日に迄るまで一七箇日夜の間、殊に精誠を致して祈り奉ること件の如し。遍數を勒し謹んで解す。　年　月　日　阿闍梨

○白衣觀音供次第

白衣觀音供七箇日支度

蘇。　蜜。　名香。（丁子・沈・白檀）　壇一面。　燈臺二本。　脇机一脚。　半疊一枚。　壇供米。（常の如し）　御明油。（常の如し）　壇敷布一端。　閼伽桶一口。（杓を加ふ）　閼伽折敷一枚。　長櫃一合。　阿闍梨。　承仕。　駈仕。　淨衣。（白色）

右注進すること件の如し。　年　月　日　阿闍梨

白衣觀音供次第（息災に之を修す。）　宿曜攘災のために此の法を行ず。　○先づ淨三業三部被甲護身（常の如し）　○次に加持香水　○次に驚覺　○次に四禮　○次に金剛持遍禮　○次

に表白 開白 許り

敬て眞言教主三世常住の淨妙法身摩訶毘盧遮那如來、金剛界會の三十七尊、九會曼荼羅中の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺十三大會界會の諸尊、殊別には本尊聖者(一)白衣觀自在尊、蓮花部中の諸尊聖衆、惣じては佛眼所照の普賢境界中の若干三寶願界に白して言さく　夫れ以れば、轉禍爲福の計は祕密眞言の威驗に如かず、除災延算の功は觀音大士の悲願に過ぎず、中んず就く白衣觀音法は、是れ靈驗殊勝にして神力不思議なり、所以に纔かに志を致さば、猶し谷響の聲に應ずるが如く、暫く念を運べば亦た月影の水に浮ぶが如し、誠に利物の力廣大にして、化度の功虛しからず、況んや帝王を護持し國家を鎭押するの旨、專ら此の尊法の中に說けり。是を以て太上皇帝今年殊に愼み御(まします)べきの時、此の法を修せしめ奉(たてまつ)ります所なり、然れば則ち本尊聖者半拏羅縛悉你(ハンタラバシニ)、蓮花部主、明王、明妃、乃至二十八大の諸藥叉將、各の本誓悲願法驗を誤らず、立ちどころに勝利を顯すこと炳焉なり。

○次に神分　○次に五悔　○次に發菩提心等 常の如し　○次に勸請　大聖白衣觀世音　蓮花部中諸聖衆　○次に五大願三力偈等　○次に勝心印明　○次に大

(一) 白衣云云 傍註に云く、半拏羅縛悉你と。

金剛輪　○次に地結　○次に四方結　○次に麽吒　○次に金剛合掌　○次に召罪　○次に摧罪　○次に道場觀

壇中に𑖭字あり、變じて月輪となる、月輪中に𑖮字あり變じて蓮花臺となる、蓮花臺上に𑖮字あり、變じて鉢曇摩花(ハンドマ)となる、鉢曇摩花變じて白衣觀自在菩薩となる、首に天冠を戴き身には素衣を着す、左手に念珠を執り右手は印を持す、足は白蓮花を踏んで光明赫奕たり、乃至無量の聖衆前後に圍繞せり。

○次に大虛空藏已下振鈴に至るまで金剛界次第の如し。　○次に大日印明　○次に本尊印 二手內縛して二頭指蓮葉の形に作る。　唵(オム)、濕吠(シベイ)帝(ティ)、濕吠帝(シベイティ)半拏羅縛悉你(ハムダラバシニ)、莎訶(ソハカ)。　○次に八供養

○次に事供　○次に讚　○次に普供養三力祈願並に禮佛 南無白衣觀音三反　○次に佛母加持　○次に入我我入　○次に本尊加持 前の印言　○次に百字明　○次に正念誦 上に同じ　○次に本尊加持　○次に散念誦　○次に佛母加持　○次に後供養廻向並に解界奉送等。常の如し

○結願作法　神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施 閼伽の前　次に金二打卷數　次に事由　一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨

したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて內外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめて本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして、必ず自他の所願を成ぜん。

抑、○神分　○祈願　○次に後鈴以下常の如し。

○白衣觀音供所　。奉修　供養法、、座　。奉念　大日　佛眼　本尊

聖觀音　延命　八字文殊　一字金輪。

右は　大上天皇の玉體安穩にして寶壽を增長し、無邊の御願決定して成就せしめ奉らんとして、始め今月　日より今日に迄るまで、一七箇日夜の間殊に精誠を致して祈り奉ること件の如し、仍て遍數を勒し謹んで解す。　年　月　日　阿闍梨

○葉衣觀音供次第

○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持灑水　○加持供物　○ぁ字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○遍禮　○表白

敬て眞言教主大日如來、金剛胎藏兩部曼荼羅の諸尊聖衆、殊には本尊聖者葉衣觀音、蓮花部中の諸眷屬等、惣じては佛眼所照の帝網重重の一切三寶に白して言さく　(一)夫れ葉衣觀自在尊は、化六趣に被り益二世を兼ぬ、大悲の本誓を捨てずして種種隨類の身を現じ、廣く善巧の方便を廻して蠢々の含靈の願を滿す、專ら潛術の力を恃み、敬て孟晋の功を累ぬるに逮では、國界豐盛にして旱澇の愁を除き、人民安寧にして刀兵の害を脫す、刼賊の難名を削し、星辰の度序あり、萬萬の巍德一一に陳說し叵し。

(一)夫れ云云　朱書傍註に云く、北院御室御作と。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○勸請　葉衣觀音大薩埵　蓮花部中諸聖衆　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪　○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

壇中に𑖀字あり、變じて八葉の蓮花となる、其の上に𑖀字あり淨月輪となる、月輪中に𑖀字あり變じて吉祥菓（或は羂索、或は杖、或は鉞斧、或は未敷蓮花。）となる、變じて葉衣觀自在菩薩となる、形天女の如し、首に寶冠を戴けり、冠中に無量壽如來あり、瓔珞環釧をもて其の身を莊嚴したまへり、背後に圓光あり、四臂を具足す、右の第一手は心に當て吉祥菓を持し、第二手は施願に作る、左の第一手は鉞斧を持し、第二手には羂索を持せり、蓮花部の聖衆及び廿八大藥叉將、並に諸の眷屬、各の本位に住して恭敬し圍繞せり。

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○勸請　○辟除　○空

(一)佛眼等細字は原本に朱書す。

網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

○大日印明

○本尊根本印八葉　根本陁羅尼儀軌にあり。　○心眞言　唵(オム)鉢羅(ハラダ)拏二合(シヤバリ)捨嚩哩二合(ハツタ)吽發吒

○八供　○事供　○讃　○普供三力　○禮佛　南無葉衣觀自在尊

○入我我入　○本尊加持　○正念誦(朱)上に同じ　○本尊加持　○散念誦(一)佛眼、大日、聖觀音、本尊、(陁羅尼、心眞言)一字、　○佛母加持　○八供　○事供　○讃　○普供三力等

○禮佛　○廻向　○解界以下金剛界次第の如し。

○葉衣觀音陁羅尼　曩謨囉怛曩二合怛囉二合夜引野、一曩謨弭跢引婆去引野二怛他去引嚴哆引夜引囉賀二合帝三去藐三去沒馱引野、曩莫阿去引哩野二合引三縛路枳帝、濕嚩二合囉野四冒地薩怛嚩二合引野、五摩賀薩怛嚩二合野、六摩賀迦引嚕抳尼整の反迦引野、七曩謨摩賀娑他二合去引摩鉢羅二合引跋跢二合引野、八冒地薩怛嚩二合引野、九摩賀薩怛縛二合引野、引摩賀迦引嚕抳尼整の反迦野　十嚩、引麼寧怛鑁二合引十一曩摩寫去引弭怛鑁、二合引十二曩麼寫去引弭嚩引摩寧十三妣舍止鉢囉拏二合捨嚩哩十四鉢囉二合拏捨嚩哩妣舍止十五婆去誐縛底丁以の反十六跋捨跋囉輸上播捨馱里抳十七夜引顎迦顎質十八婆夜引顎聿二合答跋二合你也二合麼曩引顎聿答跋二合攝帝十九夜入引迦引室質二合你泥以の反多庚引廿夜引入迦室質二合怛麼二合哩庚廿一夜引入迦引室質二合摩賀引麼引哩庚二合廿二曳計質努鉢捺囉二合嚩無跋の反廿三曳計質努播夜引娑引入廿四曳計質捺地野二合引婆嚩上に准じて引廿五曳計質努跋薩虐引廿六嶋跋薩誐三去滿馱引嚩引廿七嗢鉢攝帝廿八薩嚩引薩嚩引跢顎薩嚩引娑囉二合引廿九薩吠帝嚩攝多三去瞪武九復の反、引鉢攝帝曩一廿半旋多多娑多二合娜寧曩薩底曳二合廿二薩底也二合嚩引計引曩廿三惹自娜の反下同惹惹惹廿四瞪鼻室止二合半旋跢引、十五地瑟耻二合帶引漫怛囉二合鉢乃引廿六麼麼上に准ず薩嚩薩怛嚩二合引難上者廿七囉迦愴二合引矩嚕三十八寒(一)不井二合麼嚕廿九跋哩怛囉二合引南矩嚕四十跋哩藥囉二合恒矩嚕四十一跋哩播引攝曩矩嚕四十二扇引井矩嚕四十三娑嚩二合娑底野三合野曩矩嚕四十四難上拏跋哩賀引嘲矩嚕四十五設娑怛囉二合跋哩賀嘲矩嚕四十六尾灑怒引灑南矩嚕四十七尾灑曩引捨曩矩嚕四十八枲引麼引滿濕矩嚕四十九馱攝抳滿濕左矩嚕五十怛你也二合他去引五十一阿密哩帝阿密哩二合姤納婆二合吠五十二阿濕嚩二合娑黨二合霓五十三麼麼鼻聲囉麼同前引麼囉五十四捨麼鉢羅二合捨麼五十五覩奴鼻聲尾覩奴前に准ず五十六覩梨覩母黎娑縛賀。

(一)不井の字あり。

○勢至供次第

○普禮　○着座　○塗香　○淨三業　○三部被甲　○加持灑水　○加持供物　○も字觀　○淨地　○淨身　○觀佛　○驚覺　○逼禮　○表白

敬て祕密教主三世常住の淨妙法身摩訶毗盧遮那如來、兩部界會の諸尊聖衆、殊別には

本尊界會の大勢至菩薩、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の一切三寶に白して言さく

夫れ大勢至菩薩とは、威德特尊にして大悲自在の位を得、加被速疾なり一切欣求の望を滿つ、持する所は未敷蓮花なり、匂を衆生の心水に散す、居する所は西方の刹土なり、誓を彌陀の德風に助く、若し人潛萠の善あれば則ち其の善を護りて、念念に增長す、行者懇篤の誠を凝せば亦た其の誠を鑒みて世々に饒益す、濟度の道今の尊に過ぎたるはなし。

○神分　○五悔　○發菩提心　○三昧耶　○(二)勸請　大慈大悲得大勢

蓮花部中諸聖衆　○五大願　○普供三力　○四無量　○勝心　○大金剛輪

○地結　○方結　○召罪　○摧罪　○業障除　○成菩提　○道場觀

壇中に蓮花あり、花臺上に月輪あり、月輪中に𑖭字或は𑖭あり、變じて未敷蓮花となる、蓮花變じて大勢至菩薩となる、身相肉色にして相好圓滿せり、左手に蓮花を持し右手を胸に當てゝ、地水火の三指を屈し、宗蓮花に坐す、眷屬圍繞せり。

○大虛空藏　○小金剛輪　○送車輅　○請車輅　○迎請　○辟除　○空

網　○火院　○大三昧耶　○閼伽　○花座　○四攝　○拍掌　○振鈴

(一)勸請　或は發願を以て換ふる時は文左の如し。大聖慈悲、勢至薩埵、蓮花部中、諸大聖衆。

○大日印明　○本尊印　虛合して未敷蓮花の如くせよ。　歸命三髯々索入莎訶　○八供　○事

供　○讃　○普供三力等　○禮佛　南無大勢至菩薩　○入我我入　○本

尊加持　前の印明　○正念誦　上の呪を用ふ　○本尊加持　○散念誦　(二)佛眼　大日　阿彌陀　本尊　馬頭　一字　○

佛母加持　○八供　○事供　○讃　○普供三力等　○禮佛　○廻向

○解界以下金剛界次第の如し。

(一)佛眼等細字は原本に朱書す。